



ウラタ用

42

お茶の水女子大学・学生便覧

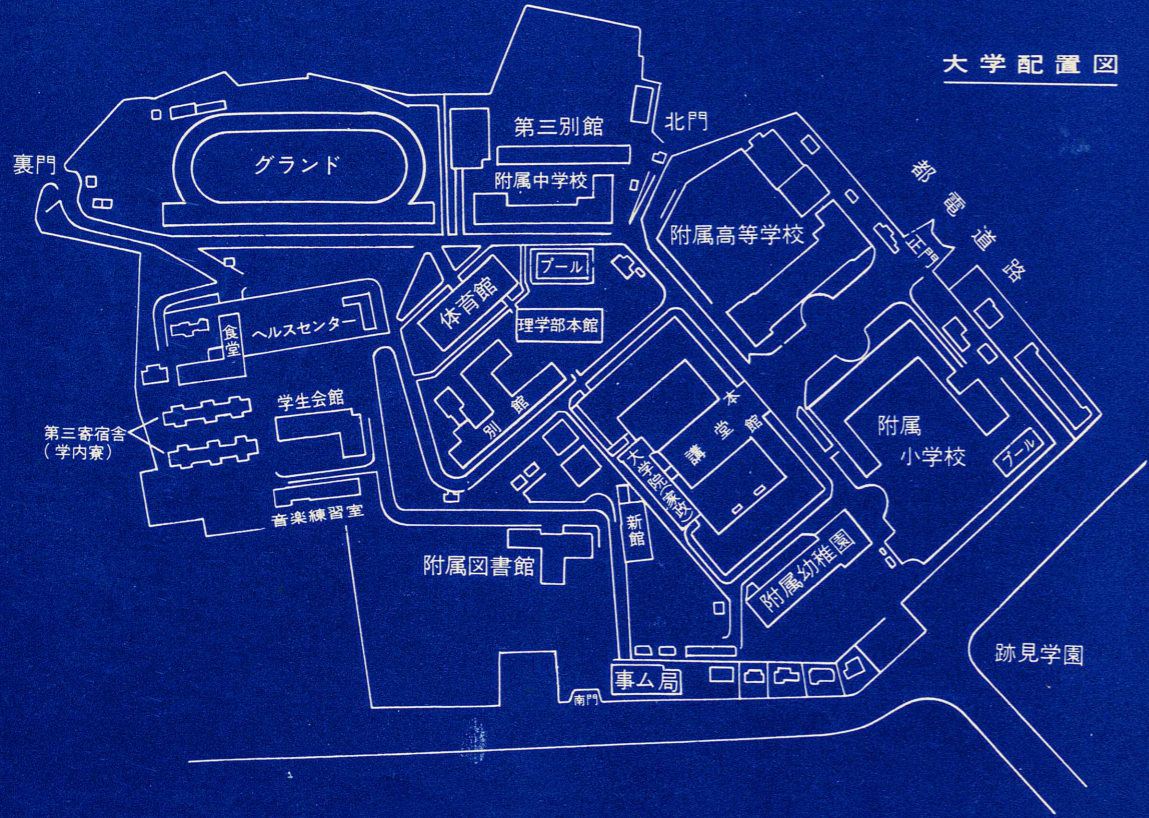
Handbook for Students of Ochanomizu University

1967





大学配置図



カラダ用

目次

I 学則ならびに学内諸規程	5 課外活動	77
1 学 則	6 ヘルスセンター	81
2 学 部 規 程	7 奨 学 金	87
3 食物化学研究所規程	8 学 資 貸 付 金	90
4 学部履修規程	9 アルバイト	91
5 学 科 課 程	10 授業料免除等	92
6 大学院規則	11 宿 舎	95
7 学 位 規 程	12 食 堂	98
8 専攻科規程	13 学 生 証	102
9 幼稚園教員臨時養成課程規程	14 通学証明書・学割証	103
10 学 生 準 則	15 在 学 証 明 書	104
11 学生委員会規程	16 休学・退学・他大学への転学	104
12 学寮委員会規程	17 身上の移動について	106
13 ヘルスセンター運営委員会規程	18 そ の 他	106
II 大学事務機構図	19 諸手続一覧	107
III 履修上の手続について	VI 教育職員免許状について	108
IV 図書館の利用について	VII 志賀高原体育運動場施設	116
学生生活関係	附 1. 校歌・学生歌	118
1 厚生補導機構	2. 大学主要建物・施設	122
2 学 生 部	3. 教室・研究室等案内図	123
3 補 導 委 員	4. さ く い ん	129
4 顧 問 教 官		

(企画・学生課 レイアウト・石山 彰)

未成
山崎
(技理)
(02号)



1. 学 則

第 1 章 総 則

第 1 節 目 的

第 1 条 本学は、広く知識を授け、深く専門の学術を教授、研究し、知的、道徳的及び応用的能力を養い、もって社会の諸分野における有為にして教養高き女子を養成し、併せて文化の進展に寄与することを目的とする。

第 2 節 構 成

第 2 条 本学に次の学部を置く。

文教育学部

理 学 部

家 政 学 部

第 2 条の 2 本学に大学院を置く。

大学院に関する規程は、別にこれを定める。

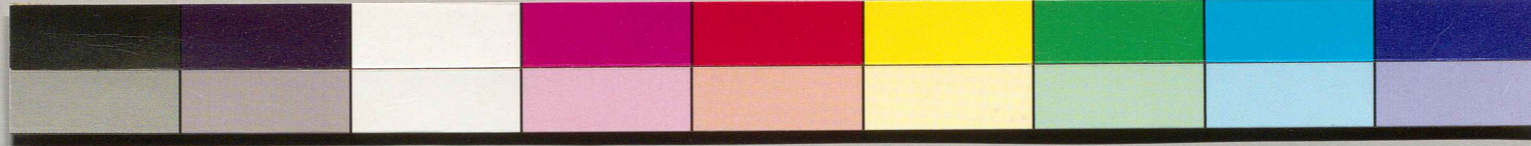
第 3 条 本学に附属図書館を置く。

附属図書館に関する規程は、別にこれを定める。

第 4 条 文教育学部に次の附属学校を置く。

附属学校に関する規程は、別にこれを定める。

I 学則ならびに学内諸規程



昭和 43 年度から家政学部に家庭経営学科が新設され、被服学科に被服材料学の講座が増設されます。このことに関連して昭和 43 年度（1968 年版）学生便覧の家政学部規程および学科課程が次のとおり追加および訂正になります。

学部規程および学科課程の追加・訂正

【P. 10】

家政学部規程第 1 条中、

「被服学科

第 1 講座 被服科学

第 2 講座 被服構成学

第 3 講座 被服美学 』を

「被服学科

第 1 講座 被服材料学

第 2 講座 被服整理・染色化学

第 3 講座 被服構成学

第 4 講座 被服美学 』に訂正。

「家政学部共通講座 家政学原論・

家庭経済学・家庭管理学」を削除。



「家庭経営学科

- 第1講座 家政学原論
- 第2講座 家庭経済学
- 第3講座 家族関係学」を加える。

第2条中,

「学科別	毎年度入学定員	計
児童学科	25名	100名
食物学科	25名	100名
被服学科	15名	60名
家庭科教員養成課程	10名	40名
計	75名	300名」を
「学科別	毎年度入学定員	計
児童学科	25名	100名
食物学科	25名	100名
被服学科	30名	120名
家庭経営学科	25名	100名
家庭科教員養成課程	10名	40名
計	115名	460名」に訂正。

【P. 32】

「児童学科 第1講座 児童教養
 第2講座 児童保健
 第3講座 児童福祉
 (家政学部共通講座=家政学原論・家庭経済学・家庭管理学) 」中,
 「(家政学部共通講座=家政学原論・家庭経済学・家庭管理学) 」を削除。

【P. 34】

「食物学科 第1講座 栄養学
 第2講座 食品学
 第3講座 調理学
 (家政学部共通講座=家政学原論・家庭経済学・家庭管理学) 」中,
 「(家政学部共通講座=家政学原論・家庭経済学・家庭管理学) 」を削除。

【P. 35】

「被服学科 第1講座 被服科学
 第2講座 被服構成学
 第3講座 被服美学 」を

「被

「(

【P.

「家

を」

」

科目

「家庭

●専攻
家政
家庭
生
住



「被服学科 第1講座 被服材料学
 第2講座 被服整理・染色化学
 第3講座 被服構成学
 第4講座 被服美学」に訂正.

「(家政学部共通講座=家政学原論・家庭経済学・
 家庭管理学)」を削除.

【P. 36, 37】

「家政学部共通講座
 (家政学原論・家庭経済学・家庭管理学)」の項
 を P. 37 左半最終行まで全部を削除し、
 「家庭経営学科 学科課程」および「家政学部共通
 科目」を次のとおり加える.

「家庭経営学科 第1講座 家政学原論
 第2講座 家庭経済学
 第3講座 家族関係学

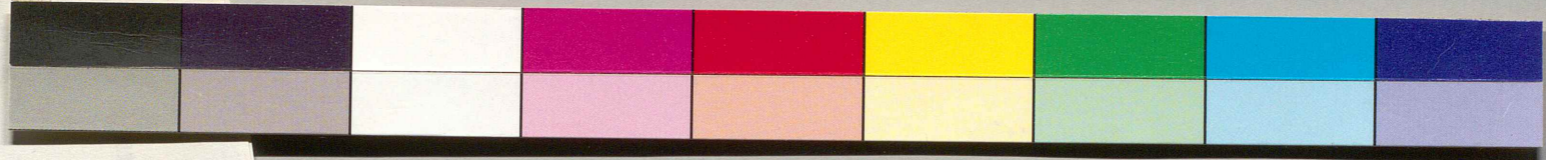
●専攻科目(必修) 30
 家政学原論第一 / 2 (I)
 家庭経営学総論 / 2 (II)
 生活史第一 / 2 (II)
 住居学概論 / 2 (II)

家庭生活論 2 (III)
 家庭経済学概論 2 (I)
 家庭経済学第一 2 (II)
 家族関係学概論 2 (I)
 家族関係学第一 2 (II)
 家庭法律学 2 (III)
 統計学 2 (III)
 家庭経営学演習 2 (III)
 卒業論文 6 (IV)

●専攻科目(選択必修) 20
 家庭管理学概論 2 (II)
 家政学原論第二 2 (III)
 家政学原論演習 1 (IV)
 生活史第二 2 (III)
 人口学 2 (III)
 老年学 2 (III)
 人類学 2 (II)
 人類学実験実習 1 (III)
 人間工学 2 (III)
 精神身体学 2 (II)
 家庭経済学第二 2 (III)
 同第三 2 (III)
 同第四 2 (IV)
 家庭経済学演習 1 (IV)
 家計簿記 2 (II)
 家計簿記実習 1 (II)

齊学・
中,
学・
を削除.

経済学・
中,
学・
を削除.



生活設計論	2	(Ⅲ)
購買論	2	(Ⅲ)
購買論実習	1	(Ⅲ)
家族関係学第二	2	(Ⅲ)
同第三	2	(Ⅲ)
家族関係学演習	1	(Ⅳ)
比較家族研究	2	(Ⅲ)
家族病理学	2	(Ⅲ)
家族臨床心理	2	(Ⅲ)
家族臨床心理実験実習	1	(Ⅲ)
家庭生活調査法	2	(Ⅲ)
家庭生活調査実習第一	1	(Ⅲ)
同第二	1	(Ⅳ)
住居設備及び環境	2	(Ⅲ)
統計学演習	1	(Ⅲ)
家庭経営学特殊講義	4	(Ⅳ) 計 56

●関連科目(必修) 14

外国語	8	(ⅠⅡ)
児童学概論	2	(Ⅰ)
食物学概論	2	(Ⅰ)
被服学概論	2	(Ⅰ)

●自由選択科目 20

家政学部共通科目		
家政学原論	2	(Ⅰ)
児童学概論	2	(Ⅰ)
食物学概論	2	(Ⅰ)
被服学概論	2	(Ⅰ)
家庭経営学概論	2	(Ⅰ)
住居学概論	2	(Ⅱ)
家庭看護法	2	(Ⅲ)
家庭機械及び工作	2	(Ⅱ)
調理実習	2	(児・経Ⅱ)
同	1	(被Ⅱ)
被服構成学並に実習	2	(児・経Ⅱ)
同	1	(食Ⅱ)

附属高等学校
附属中学校
附属小学校
附属幼稚園

第4条の2 家政学部に食物化学研究施設を置く。
食物化学研究施設に関する規程は、別にこれを定める。

第3節 職員組織及び職務

第5条 本学の職員組織は、国立学校設置法施行規則の定めるところによる。

第6条 職員の職務に関しては、学校教育法その他法令の定めるところによる。

- 2 各学部長は、その学部に関する事項を掌理する。
- 3 附属図書館長は、附属図書館に関する事項を掌理する。
- 4 附属学校の長は、その附属学校に関する事項を掌理する。

第4節 会議

第7条 本学に評議会を置く。
評議会に関する規程は、別にこれを定める。

第8条 各学部に教授会を置く。
教授会に関する規程は、別にこれを定める。

第9条 本学に委員会を置くことができる。

各委員会に関する規程は、別にこれを定める。

第2章 学部通則

第1節 修業年限、課程及び履修方法

第10条 各学部修業年限は、4年とする。

在学期間は、8年を超えることができない。

第11条 本学の学科課程は、一般教育課程、専門課程及び体育とし、学科目及びその単位数は、各学部規程の定めるところによる。

第12条 学生は、在学中に次の単位を修得しなければならない。

一般教育科目36単位以上、専門科目84単位以上、体育4単位以上、合計124単位以上。

第13条 教育職員免許状を取得するためには、前条単位の履修にあたり、免許法規の規定する方法により教職科目を選択修得しなければならない。

第14条 履修方法、単位の修得、試験等に関する細則は、各学部履修規程の定めるところによる。

第2節 卒業及び学士称号

第15条 学部に4年以上在学し、定められた科目及び単位数を履修した者は、卒業者としてこれに卒業証書を授与する。

第4節 入学、退学、休学、転学及び編入学

第20条 入学の時期は、毎学年の始めより30日以内とする。

第21条 入学資格は、学校教育法第56条及び学校教育法施行規則第69条の規定により、次の各号の一に該当する女子でなければならない。

- 1 高等学校を卒業した者
- 2 通常の課程による12年の学校教育を終了した者又は通常の課程以外によりこれに相当する学校教育を受けた者
- 3 外国において学校教育における12年の課程を修了した者
- 4 文部大臣の指定した者
- 5 その他本学において、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

第22条 入学者は、入学志望者について、学科試験及び身体検査その他の成績により選考の上学長がこれを許可する。

第23条 次の各号の一に該当する者は、前3条の規定にかかわらず入学を許可することがある。

- 1 一学部を卒えた者で更に他の学部又は同一学部の

2 転学者及び編入学者の学業については、別にこれを定める。

第16条 卒業者は、次の区別に従って学士と称することができる。

文教育学部 文学士又は教育学士
理学部 理学士
家政学部 家政学士

第3節 学年、学期及び休業日

第17条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第18条 学年を分けて次の二学期とする。

前学期 4月1日より10月20日まで
後学期 10月21日より翌年3月31日まで

第19条 学年中の定期休業日を次の通りとする。

- 1 国民の祝日
- 2 創立記念日 11月29日
- 3 日曜日
- 4 春季休業 4月1日より4月7日まで
- 5 夏季休業 7月11日より9月10日まで
- 6 冬季休業 12月25日より翌年1月7日まで

他の学科に入学を志願する者

- 2 退学した者で更に同一の学部に入學を志願する者
- 3 他の大学の学部を卒えた者

第 24 条 入学を許可された者は、別に定めるところにより宣誓をしなければならない。理由なくして宣誓しないものは入学を取り消す。

第 25 条 退学を希望する者は、その理由を具して学長に願ひ出て許可を受けなければならない。

第 26 条 一度退学したものが再入学を願ひ出た場合は、審査の上これを許可することができる。

第 27 条 次の各号の一に該当するときは学長は、論旨退学をさせ又は除籍することができる。

- 1 正当な理由がなく出席が常でない者
- 2 病気その他の理由によって成業の見込がないと認められた者
- 3 許可がなく授業料を怠納し、又は延定期限が経過してもこれを納めない者

第 28 条 病気その他の事由により引き続き2か月以上修学することができないときは、事由を具して学長に願ひ出てその許可を得て休学することができる。

2 休学の期間は、その学年末までとする。但し、特別の事情があるときは引き続き休学を願ひ出ることが

きる。

- 3 休学は、通算して4年を超えてはならない。
- 4 休学期間は、在学期間に数えない。
- 5 休学期間中にその事由がやんだときは、学長の許可を得て出席することができる。

第 29 条 他の大学から本学に転学を志望する者があるときは、収容力のある限り審査の上入学させることができる。

2 前項の場合入学願書には、現に在学する大学の学長の承認書を添えなければならない。

第 30 条 本学から他の大学に転学しようとする者は、学長の承認を得なければならない。

第 31 条 編入学を志願するものがあるときは、第29条を準用する。

第 5 節 検定料、入学料、授業料及び寄宿料

第 32 条 入学を志願する者は、入学願書に添えて検定料3,000円を納めなければならない。

第 33 条 入学料は、4,000円とし、指定の期日までに納めなければならない。入学料を納めない者は、入学許可を取り消す。

第 34 条 授業料は、年額12,000円とし、次の2期に分

けて納めなければならない。

第 1 期 6,000円 4月中

第 2 期 6,000円 10月中

第 35 条 寄宿料は、月額100円（鉄筋コンクリート造の学寮にあっては、月額300円）とし、毎月その月の20日までに納めなければならない。

第 36 条 退学の許可を得た者の授業料は、その者が在学していた期までの分を納めなければならない。

第 37 条 一度納めた検定料、入学料、授業料及び寄宿料は、どのような場合でもこれを返さない。

第 38 条 授業料を2期に納めることが困難な者に対しては、本人の願ひ出により、学長はその徴収を猶予し又は分納を許可することができる。

徴収の猶予又は分納に関する規程は、別にこれを定める。

第 39 条 学費の支弁が極めて困難なため授業料の免除を受けようとする者があるときは、学長はこれを免除することができる。

免除に関する規程は、別にこれを定める。

第 40 条 休学の許可を得た者の授業料は、月割計算により休学当月の翌月から復学当月の前月までの分を免除する。

第 41 条 停学を命ぜられた期間中の授業料は、これを徴収する。

第 6 節 専攻科課程

第 42 条 本学に文教育学専攻科を置く。

専攻科に関する規程は、別にこれを定める。

第 7 節 聴講生、委託生、研究生、私学研修員、公立大学研修員、受託研究員及び外国人特別学生

第 43 条 本学の定める課程の一部を選んで聴講しようとする者があるときは、学生の学習を妨げない場合に限り、選考の上聴講生として入学を許可することができる。

第 44 条 教育委員会、学校その他の公共機関から授業及び研究指導の委託出願があるときは、学生の学習を妨げない場合に限り、選考の上委託生として入学を許可することができる。

第 45 条 特定事項に関する研究に従事することを希望する者があるときは、選考の上研究生として入学を許可することができる。

第 45 条の 2 私立学校または公立大学の教職員について、所定の手続きを経て研修員の申し出があるときは、選考の上私学研修員または公立大学研修員として

受入れを許可することがある。

第 45 条の 3 民間会社等から現職技術者が特定事項に関する研究に従事することについて委託受入の申込があるときは、選考の上受託研究員として受入れを許可することがある。

第 46 条 外国人で入学しようとする者があるときは、選考の上外国人特別学生として入学を許可することがある。

第 47 条 聴講生、委託生、研究生、私学研修員、公立大学研修員、受託研究員及び外国人特別学生に関する規程は、別にこれを定める。

第 8 節 公開講座及び通信教育

第 48 条 公開講座及び通信教育は、社会人の教養を高めるため適時これを行なう。

公開講座及び通信教育に関する規程は、別にこれを定める。

第 9 節 賞 罰

第 49 条 学生が学業その他の活動において優れた成績を挙げたときは、教授会の議を経て学長は、これを表彰することがある。

第 50 条 学生が学校の秩序を乱し、その他学生の本分に反したときは、教授会の議を経て学長がこれを懲戒

する。

懲戒は、戒告、停学及び退学とする。

第 51 条 学生団体の活動が学生準則に違反し、その他本学の使命に反するものと認められたとき、学生委員会の議を経て学長が団体の活動の制限停止または解散を命ずることができる。

2 前項の学生準則は、別にこれを定める。

第 52 条 前 2 条の処分に対して関係者より相当の理由を附して異議の申し出があったときは、評議会の議を経て学長は適当な措置をすることができる。

第 10 節 厚生保健ならびに課外活動施設

第 53 条 本学に寄宿舎を附設し、学生の勉学及び生活の指導に資する。

寄宿舎に関する規程は、別にこれを定める。

第 54 条 本学にヘルスセンターを附設し、学生および職員の心身の保健に資する。

ヘルスセンターに関する規程は、別にこれを定める。

第 55 条 本学に学生会館を附設する。

学生会館に関する規程は、別に定める。

附 則

1 この改正は、昭和25年12月20日よりこれを施行する。

2 削 除

3 削 除

4 この改正は、昭和26年5月21日よりこれを施行する。

5 昭和26年度以前の入学者に対する第11条ないし第13条の適用は、新旧規程を勘案して適宜これを定める。

6 第34条に定める授業料は、昭和26年以前の入学者に対してはなお従前の額による。

7 この改正は、昭和27年10月8日よりこれを施行し、4月1日より適用する。

8 この改正は、昭和28年4月15日より施行する。

9 この改正は、昭和29年12月22日より施行する。

10 この改正は、昭和31年4月1日より施行する。

11 この改正は、昭和33年5月25日より施行する。

12 この改正は、昭和35年4月10日より施行する。

13 この改正は、昭和36年3月8日より施行する。

附 則 (昭和38年4月評議会決定)

1 この改正は、昭和38年4月1日から施行する。

2 第34条に定める授業料は、昭和37年度以前の入学者に対しては、なお従前の額による。

3 昭和38年4月1日以後、転学、編入学又は再入学した者に係る授業料の額は、当該者の属する年次の在学

者に係る額と同額とする。

附 則 (昭和39年4月評議会決定)

この改正は、昭和39年4月22日から施行し、昭和39年4月1日から適用する。

附 則 (昭和39年12月評議会決定)

この改正は、昭和39年12月23日から施行する。

附 則 (昭和41年4月評議会決定)

1 この改正は、昭和41年4月6日から施行し、昭和41年4月1日から適用する。

2 第32条の改正規定は、昭和42年度以降入学する者の選抜から適用する。

附 則 (昭和41年9月評議会決定)

この改正は、昭和41年9月21日から施行する。

2. 学 部 規 程

文教育学部規程

第 1 節 学科, 講座及び学生定員

第 1 条 本学部に次の学科及び講座を置く.

- 哲 学 科
 - 第 1 講座 哲 学
 - 第 2 講座 倫 理 学
 - 第 3 講座 社 会 哲 学
- 史 学 科
 - 第 1 講座 日本古代中世史学
 - 第 2 講座 日本近世近代史学
 - 第 3 講座 東 洋 史 学
 - 第 4 講座 西 洋 史 学
- 地 理 学 科
 - 第 1 講座 人 文 地 理 学
 - 第 2 講座 自 然 地 理 学
 - 第 3 講座 地 誌 学
- 文 学 科

国文学・国語学専攻

- 第 1 講座 古代国文学
- 第 2 講座 近代国文学
- 第 3 講座 現代国文学
- 第 4 講座 国 語 学

中国文学・中国語学専攻

- 第 1 講座 中国文学
- 第 2 講座 中国語学

英文学・英語学専攻

- 第 1 講座 英 文 学
- 第 2 講座 米 文 学
- 第 3 講座 英 語 学

独文学・独語

仏文学・仏語

教育学科

教育学専攻

- 第 1 講座 教育学・教育史
- 第 2 講座 教育心理学
- 第 3 講座 発達心理学
- 第 4 講座 視聴覚教育
- 第 5 講座 教育社会学・教育行政
- 第 6 講座 教育課程・教育方法

める.

理 学 部 規 程

第 1 節 学科, 講座及び学生定員

第 1 条 本学部に次の学科及び講座を置く.

- 数 学 科
 - 第 1 講座 古典解析学
 - 第 2 講座 近代解析学
 - 第 3 講座 代 数 学
 - 第 4 講座 幾 何 学
 - 第 5 講座 応 用 数 学
- 物 理 学 科
 - 第 1 講座 力 学
 - 第 2 講座 電 磁 気 学
 - 第 3 講座 量 子 力 学
 - 第 4 講座 核 物 理 学
 - 第 5 講座 物 性 物 理 学
- 化 学 科
 - 第 1 講座 物 理 化 学
 - 第 2 講座 無 機 化 学
 - 第 3 講座 有 機 化 学
 - 第 4 講座 生 物 化 学
 - 第 5 講座 分 析 化 学

体育学専攻

- 第 1 講座 体 育 学
- 第 2 講座 女 子 体 育 学
- 第 3 講座 健 康 教 育 学

音楽教育学専攻

- 第 1 講座 音 楽 学
- 第 2 講座 音 楽 教 育 学

第 2 条 本学部の学生定員は、次の通りである.

学科別	毎年度入学定員	計
哲 学 科	10 10 名 20	40 名 50
史 学 科	5 15 名 20	60 名 65
地 理 学 科	3 12 名 15	48 名 51
文 学 科	5 45 名 50	180 名 185
(国文学・国語学専攻25名, 中国文学・中国語学専攻5名, 英文学・英語学専攻15名)		
教 育 学 科	8 47 名 55	188 名 196
(教育学専攻20名, 体育学専攻15名, 音楽教育学専攻12名)		
計	31 160	516 名 547

第 2 節 学科課程及び履修単位

第 3 条 本学部における学科課程は、別に示す.

第 4 条 本学部の履修に関する規程は、別にこれを定

生物学科

- 第1講座 動物形態学
- 第2講座 動物生理学
- 第3講座 植物形態学
- 第4講座 植物生理学
- 第5講座 遺伝学

第2条 本学部の学生定員は、次の通りである。

学科別	毎年度入学定員	計
数学科	10 20名 30	80名 90
物理学科	5 20名 25	80名 85
化学科	5 20名 25	80名 85
生物学科	5 20名 25	80名 85
計	25 80名 105	320名 345

第2節 学科課程及び履修単位

第3条 本学部における学科課程は、別に示す。

第4条 本学部の履修に関する規程は、別にこれを定める。

家政学部規程

第1節 学科、講座及び学生定員

第1条 本学部に必要な学科及び講座を置く。

児童学科

- 第1講座 児童教養
- 第2講座 児童保健
- 第3講座 児童福祉

食物学科

- 第1講座 栄養学
- 第2講座 食品学
- 第3講座 調理学

被服学科

- 第1講座 被服科学
- 第2講座 被服構成学
- 第3講座 被服美学

家政学部共通講座 家政学原論・

家庭経済学・家庭管理学

第2条 本学部の学生定員は、次の通りである。

学科別	毎年度入学定員	計
児童学科 (15)	25名	100名 80
食物学科 (15)	25名 45%	100名 80
被服学科 (15)	15名 +15%	60名 60
家庭科教員養成課程 (10)	10名	40名 40
計 (55)	75名	300名 260
家庭経済学科	25名	
計		340名 380名

第2節 学科課程及び履修単位

第3条 本学部における学科課程は、別に示す。

第4条 本学部の履修に関する規程は、別にこれを定める。

附 則

1 この改正は、昭和25年12月20日よりこれを施行する。

2 この改正は、昭和29年4月1日よりこれを施行する。

3 この改正は、昭和36年10月25日よりこれを施行する。

附 則 (昭和40年7月評議会決定)

この改正は昭和40年4月1日から適用する。

附 則 (昭和41年1月評議会決定)

この改正は、昭和41年4月6日から施行し、昭和41年4月1日から適用する。

附 則 (昭和42年2月評議会決定)

この改正は、昭和42年2月23日から施行し、昭和41年4月1日から通用する。

3. 食物化学研究所規程 (抜萃)

第1条 本学家政学部食物化学研究施設を附置し、食物化学研究所と称する。

第2条 研究所に次の研究部を置く。

- 第一部 食品成分部
- 第二部 食物微生物部
- 第三部 調理加工部
- 第四部 栄養部

4. 学部履修規程 (昭和27年度制定)

学科課程・学科目・単位

第 1 条 学科目を分けて一般教育科目・体育科目・専門科目及び教職教育科目とする。

第 2 条 一般教育科目は、各学部に通で、人文科学・社会科学・自然科学の三系列に分けられる。

第 3 条 体育科目は、各学部に通で必修とする。

第 4 条 専門科目は、更に各学科 (又はそれに準ずる専攻別) において専攻科目・関連科目及び自由選択科目に分けられる。

専攻科目は、必修科目または選択科目として指定される。

関連科目は、専攻科目の基礎となる科目又は極めて関連の深い科目であって、同じく必修科目又は選択科目として指定される。関連科目必修の中には外国語 (英・独・仏のいずれか) が含まれる。

自由選択科目は、すべての学部学科における専門科目及び教職教育科目の中から選ぶことができる。

第 5 条 教育職員免許状の取得を希望するものは、前

条に定めるとおり教職教育科目を履修しなければならない。(「教育職員免許状について」107頁参照)

第 6 条 各学科の課程を修了した学生には、単位が与えられる。

各学科目に対する単位は、次の基準に従って定められる。

講義	毎週1時間15週を	1単位
演習	毎週2時間15週を	1単位
実験・実習	毎週3時間15週を	1単位

卒業論文・特別研究 (又はそれに準ずるもの)・校外実習・教育実習等は、別に定める基準による。

第 7 条 各学部における学科目の種類及び単位数は、別表「学科課程」のとおりである。(14頁参照)

第 8 条 学士号を取得するためには、次の表に従って学科目を履修し、その単位数が124以上でなければならない。

学科別	科目別		専門科目		合計
	一般教育科目	体育科目	専攻科目 及び 関連科目	自由選択 科目	
哲学科	36	4	52	32	124
史学科	36	4	60	24	124
地理学科	36	4	64	20	124

文学科	国文学・国語学専攻	36	4	64	20	124
	中国文学・中国語学専攻	36	4	64	20	124
	英文学・英語学専攻	36	4	64	20	124
教育学科	教育学専攻	36	4	62	22	124
	体育学専攻	36	4	64	20	124
	音楽教育学専攻	36	4	64	20	124
数学科	36	4	64	20	124	
物理学科	36	4	64	20	124	
化学科	36	4	56	28	124	
生物学科	36	4	64	20	124	
児童学科	36	4	64	20	124	
食物学科	36	4	64	20	124	
被服学科	36	4	64	20	124	

註 1. 専門科目の履修単位数は、合計84単位以上である。その中、専攻科目及び関連科目の単位数は、最低単位数であって、それ以上の単位を履修した場合は自由選択科目の単位数との合計が84単位になればよい。

註 2. 一般教育科目は、人文科学・社会科学・自然科学の各系列において、それぞれ3科目12単位以上、全体として36単位以上選択履修しなければならない。

履修科目の届出

第 9 条 学生は、履修しようとする科目をそれぞれその開講の始めに学部事務部へ届け出て、担当教官の許可を得なければならない。届出の手續・期間は、別に

定める。

履修科目を取消そうとするものは、別に定める期間内に届け出なければならない。

第 10 条 学生がある科目について、聴講のみを希望する場合は、担当教官の許可を受けなければならない。

成績評価・試験

第 11 条 成績の評価は、その科目を修了したときに行なう。但し、1年を越えて連続する科目にあつては、少くとも1年毎に成績の評価を行なう。

第 12 条 評価は、原則として試験 (論文・報告等を含む)、平常の成績及び出席状況を総合して決定する。

定期試験は、各学期毎に行なうのを原則とする。

第 13 条 成績の評価は、A・B・C・Dの4種類とする。A・B・Cの評価を得たものは、それぞれの科目について定められた単位が与えられる。

学生の取得した単位は、その評価とともに記録にとどめる。

第 14 条 病気その他正当な理由で試験等を受けることができなかつたものに対しては、別に定める手續によつて追試験を行なうことができる。

追試験を受けようとするものは、追試験願を学部事務部へ提出しなければならない。

附 則

この改正は、昭和36年10月25日から施行する。

附 則 (昭和40年7月評議会決定)

この改正は、昭和40年4月1日から適用する。

5. 学 科 課 程

(下記表の中、備考欄のローマ数字は、
適当と思われる履修年次を示したもの)

◎A 一般教育科目・基礎教育科目および
保健体育科目

科 目	単 位	備 考
a 一般教育科目		
人文科学系列 12 下記科目から3科目12単位以上		
哲 学	4	
倫 理	2	
心 理	4	
宗 教	4	
文 学	4	
美 学	2	
音 楽	2	(毎年交替)
	2	
社会科学系列 12 下記科目から3科目12単位以上		
法 学	4	(日本国憲法総論2, 各論2)
	4	
政 経	4	(民法を主とするもの)
	4	

◎B 専 門 科 目

a 専攻科目・関連科目

—文教育学部—

哲 学 科

第1講座	哲 学
第2講座	倫 理 学
第3講座	社会哲学

●専攻科目(必修) 28

哲 学 概 論	4
倫 理 学 概 論	4
美 学 概 論	4
社 会 哲 学 概 論	4
論 理 学	4
卒 業 論 文 作 成	8

計 28

●専攻科目(選択必修) 16

哲 学 特 講	I	4
	II	4
哲 学 演 習	I	4
	II	2
倫 理 学 特 講	I	4
	II	4
倫 理 学 演 習	I	2
	II	2
美 学 特 講	I	4
	II	4
美 学 演 習	I	2
	II	2

社 会 学	4
歴 史 学	4
文 化 人 類 学	2
地 理 学	2
家 政 学	2

自然科学系列 12 下記科目か位3科目12単位以上

数 学	4	
物 理 学	4	
化 学	4	
生 物 学	動物学	2
	植物学	2
地 学	天文気象学	2
	地質学	2
統 計 学	2	

総 合 コ ー ス 4

b 基礎教育科目		
基 礎 数 学	I	4
同 基 礎 物 理 学	II	4
同 基 礎 物 理 学	I	4
同 基 礎 化 学	II	4
同 基 礎 化 学	I	4
物 理 化 学	学	(2)
	学	(2)
基 礎 動 物 学	I	2
	II	2
基 礎 植 物 学	I	2
	II	2

c 保 健 体 育 科 目 4

〔社会学特講〕	4		
〔社会学思想史〕	4		
〔社会学演習〕	2	計	5 4
●関連科目(必修)	8		
外国語	8		
●自由選択科目	3 2		

史学科

第1講座	日本古代中世史学
第2講座	日本近世近代史学
第3講座	東洋史学
第4講座	西洋史学

(日本史学専攻)

●専攻科目(必修)	2 4		
史学概論	4		
日本史概説	4		
東洋史概説	4		
西洋史概説	4		
卒業論文作成	8	計	2 4

●専攻科目

(選択必修)	8		
日本史学演習 A	2		
同 B	2		
日本史史料講読	2	史料講読3科目の中2科目選択すること	
東洋史 "	2		
西洋史 "	2		
		計	1 0

●専攻科目(選択) 2 0 下記単位の中から選択

日本史特殊講義 A	4
同 B	4
同 C	4

東洋史特殊講義 A	4		
同 B	4		
同 C	4		
西洋史特殊講義 A	4		
同 B	4		
同 C	4		
近代史特殊講義	4		
史蹟調査	1		
考古学通論	4		
古文書学	2		
		計	4 7

●関連科目(必修) 8 外国語 8

●自由選択科目 2 4

(東洋史学専攻)

●専攻科目(必修) 2 4 (科目は日本史学専攻と同じ)

●専攻科目

(選択必修)	8		
東洋史学演習 A	2		
同 B	2		
日本史史料講読	2	史料講読3科目の中2科目選択すること	
東洋史 "	2		
西洋史 "	2		
		計	1 0

●専攻科目(選択) 2 0 (科目は日本史学専攻と同じ)

●関連科目(必修) 8 (科目は日本史学専攻と同じ)

●自由選択科目 2 4

(西洋史学専攻)

●専攻科目(必修)	2 4	(科目は日本史学専攻と同じ)
●専攻科目(選択必修)	8	
西洋史学演習 A	2	
同 B	2	
日本史史料講読	2	史料講読3科目の中2科目選択すること
東洋史 "	2	
西洋史 "	2	
		計 1 0

●専攻科目(選択) 2 0 (科目は日本史学専攻と同じ)

●関連科目(必修) 8 (科目は日本史学専攻と同じ)

●自由選択科目 2 4

地理学科

第1講座	人文地理学
第2講座	自然地理学
第3講座	地誌学

●専攻科目(必修)	3 4		
地理学概論	4		
経済地理学	4		
集落地理学	2		
地形学	4		
気象学 I	4		
日本地誌 I	4		
地理学演習 III (ゼミナール)	2		
地図学演習	2		
卒業論文作成	8	計	3 4
●専攻科目(選択必修)	8	下記の単位の中から選択必修	

外国地誌 I (世界)	4		
同 II (米・ソ等)	4	この中から4単位	
同 III (アジア)	4		
地理学演習 I (英書講読)	2		
同 II (独書講読)	2	この中から2単位	
地理学巡検	4	この中から2単位	計 2 0

●専攻科目(選択) 1 4 下記の単位及び関連科目(選択)単位の中から選択

政治地理学	2
歴史地理学	2
交通地理学	2
地図学	2
写真地理学	2
地質学 I	4
地質学 II	2
気候学 II	2
気候学 III	2
都市地理学	2
土壌学	2
陸水海洋学	2
日本地誌 II	2
外国地誌 I (世界)	4
同 II (米・ソ等)	4
同 III (アジア)	4
地理学特別講義	6
地理調査法	2
地理学巡検	4
地理学演習 III (ゼミナール)	2

自然地理学実験	2	
地理学演習Ⅰ	2	
(英書講読)		
同Ⅱ	2	
(独書講読)		計 60
●関連科目(必修)	8	
外国語	8	
●関連科目(選択)	14	専攻科目(選択)を参照
法思想史	4	
社会学	4	
国際政治・国際法	4	
経済理論・政策	4	
社会学特講	4	
社会調査	4	
日本史概説	4	
東洋史概説	4	
西洋史概説	4	
日本史特殊講義	4	
西洋史特殊講義	4	
史学概論	4	
天文学	2	
気象学	2	
地球物理学Ⅰ	2	
分析化学Ⅰ	2	
地球化学	2	
植物生態学	2	
植物系統学	2	
		計 70

●自由選択科目 20

文学科 国文学・国語学専攻

- 第1講座 古代国文学
- 第2講座 近代国文学
- 第3講座 現代国文学
- 第4講座 国語学

(国文学専攻)

●専攻科目(必修)	28	
上古日本文学史	2	
中古日本文学史	2	
近古日本文学史	4	
近世日本文学史	4	
国語学概論	4	
国語法概説	4	
卒業論文作成	8	計 28
●専攻科目(選択)	12	備考(1)演習を少くとも2単位ふくめること(2)一時代にかたよらぬこと
(選択必要)		
近代日本文学史	4	
国文学講義講読	8	
国文学演習	4	計 16
●専攻科目(選択)	12	下記の単位中から選択
国文学講義講読	4	
上古	4	
同 中古	4	
同 近古・近世	4	
同 近世	4	
国文学演習 上古	2	
同 中古	2	

同 近古・近世	2	
同 近世	2	
同 近代	2	
国文学特殊講義 上古	4	
同 中古	4	
同 近古・近世	4	
同 近代	4	
国語史概説	4	
国語表現法	4	
国語学特殊講義 その1	4	
同 その2	4	計 56
●関連科目(必修)	8	
外国語	8	
●関連科目(選択)	4	下記の単位中から選択
中国文学概説	4	
中国文学講読	4	
中国文学史	4	
日本史概説	4	
英文学概論	4	計 20
●自由選択科目	20	
(国語学専攻)		
●専攻科目(必修)	28	(科目は国文学専攻と同じ)
●専攻科目(選択)	12	下記の単位中から選択 備考 演習を少くとも2単位ふくめること

国語史概説	4	
国語表現法	4	
国語学演習	4	
国語学特殊講義	4	計 16
●専攻科目(選択)	12	下記の単位中から選択
国語学特殊講義 その1	4	
同 その2	4	
国文学講義講読	16	
国文学特殊講義	20	
国文学演習	8	
近代日本文学史	4	計 5
●関連科目(必修)	8	
外国語	8	
●関連科目(選択)	4	下記の単位中から選択
言語学概論	4	
中国語学概説	4	
中国語学演習	2	
中国文学概説	4	
中国文学講読	4	
英語学概論	4	
日本史概説	4	計 26
●自由選択科目	20	

文 学 科 中国文学・中国語学専攻 第5講座 中国文学 第6講座 中国語学

●専攻科目(必修)	4 4	
中国文学概説	4 (I)	
中国文学講読(新)	4 (I)	
中国語学講読	4 (I)	
中国文学史	4 (II)	
中国文学講読(新)	4 (II)	
中国語学講読	4 (II)	
中国文学演習(旧)	2 (III)	
同(新)	2 (III)	
中国語学演習	2 (III)	
中国文学演習(旧)	2 (IV)	
同(新)	2 (IV)	
中国語学演習	2 (IV)	
卒業論文作成	8	計 4 4
●専攻科目(選択)	8	下記の単位中から選択
中国文学講読(旧)	4 (I)	
中国文学特講(新)	4 (I)	
中国文学講読(旧)	4 (II)	
中国文学特講(新)	4 (II)	
中国哲学概説	4 (III)	
中国語学概説	4 (III)	
中国文学特講(旧)	4 (III)	
同(新)	4 (III)	
中国文学特講	4 (IV)	計 3 6

●関連科目(必修)	8	
外国語	8	
●関連科目(選択)	4	国文学・国語学・言語学・東洋史専攻科目中から選択
●自由選択科目	2 0	
文 学 科	第7講座	英 文 学
英文学・英語学専攻	第8講座	英 文 学
	第9講座	英 語 学
●専攻科目(必修)	4 0	
英文学演習 I	2	
同 II	2	
同 III	2	
同 IV	2	
同 V	2	
同 VI	2	
同 VII	2	
同 VIII	2	
英語学概論	4	
英文学史 I	4	
同 II	4	
英文法演習	2	
英作文演習	2	
卒業論文作成	8	計 4 0
●専攻科目(選択)	1 2	下記の単位中から選択
英作文演習 I	2	

第4講座 視聴覚教育
第5講座 教育社会学・教育行政
第6講座 教育課程・教育方法

同 II	2	
英語音声学	2	
英文学概論	4	
アメリカ文学史	4	
英文学特殊講義 I	4	
同 II	4	
同 III	4	
同 IV	4	
英語学特殊講義 I	4	
同 II	4	
英会話演習 I	2	
同 II	2	計 4 2
●関連科目(必修)	8	
外国語	8	
●関連科目(選択)	4	
言語学概論	4	
ギリシャ語	4	
ラテン語	4	
英米事情	4	計 1 6
●自由選択科目	2 0	
教育学科 教育学専攻		
第1講座 教育学・教育史		
第2講座 教育心理学		
第3講座 発達心理学		

●専攻科目(必修 I)		
(教育学科共通)	3 2	
教育学概論	4	
教育史概説	4	
教育社会学概論	4	
学校教育学概論	4	
教育心理学概論	4	
発達心理学概論	4	
卒業論文作成	8	計 3 2
●専攻科目(選択必修 I)	1 0	下記のA・Bのコースに分れそれぞれ演習4単位を含む10単位を必修
A 教育コース		
教育学特講	2	
教育学演習	2	
教育史特講	2	
教育史演習	2	
教育社会学特講	2	
教育社会学演習	2	
教育行政学	2	
教育行政学演習	2	
教育方法学	2	
教育方法学演習	2	
教育経営学	2	

教育経営学演習	2		
教育内容特講	2		
教育内容演習	2	計	28

B 教育心理コース

教育心理学特講	2		
教育心理学演習	2		
実験心理学	2		
実験心理学演習	2		
視聴覚教育	2		
視聴覚教育演習	2		
教育測定学	2	計	14

●専攻科目 (選択必修Ⅱ)

1 2 選択必修1及び下記の中から選択し 12単位を必修

教育思想特講	2		
教育哲学特講	2		
社会心理学	2		
臨床心理学	4		
応用心理学	4		
社会調教	4		
教育計画	4		
社会教育論	4		
教育行政特講	2		
女子教育	2	計	32

●関連科目(必修)

外国語	8		
-----	---	--	--

●自由選択科目 22

教育学科 体育学専攻

第7講座 体育学
第8講座 女子体育学
第9講座 健康教育学

●専攻科目(必修) 38

体育学原理	3	(ⅢⅣ)	
体育学演習	2	(ⅢⅣ)	
日本体育史	3	(Ⅱ)	
西洋体育史	3	(Ⅱ)	
体育心理学	2	(Ⅲ)	
同 実験	1	(Ⅲ)	
体育評価	2	(Ⅲ)	
女子体育論	2	(Ⅲ)	
体育運動学	2	(ⅠⅡ)	
舞踊論	1		
女子スポーツ論	1		
健康教育概論	2	(Ⅲ)	
解剖学	2	(Ⅱ)	
生理学	4	(Ⅱ)	
同 実験	1	(Ⅲ)	
衛生学	3	(ⅡⅢ)	
同 実習	1	(Ⅲ)	
卒業論文作成	6		計 38

●専攻科目(選択)

1 4 下記の単位の中から選択
体育社会学 2 (ⅢⅣ)

外国語	8	計	14
-----	---	---	----

●自由選択科目 20

教育学科 音楽教育学専攻

第10講座 音楽学
第11講座 音楽教育学

●専攻科目(必修) 42

音楽概論	4	(Ⅰ)	
和声学(Ⅰ)	6	(ⅡⅢ)	
対位法	2	(Ⅳ)	
音楽形式学	2	(Ⅲ)	
西洋音楽史	4	(Ⅱ)	
音楽美学	2	(Ⅳ)	
音楽学演習	2	(Ⅲ)	
音楽教育概論	1	(Ⅰ)又は(Ⅱ)	
西洋音楽教育史	1	(Ⅰ)又は(Ⅱ)	
東洋音楽教育史	1	(Ⅰ)又は(Ⅱ)	
音楽心理学	2	(Ⅲ)	
音楽教育法	2	(Ⅲ)	
音楽教育学演習	1	(Ⅳ)	
実技(基礎唱法)	1	(Ⅰ)	
同 (声乐「独唱」)	2	(ⅡⅢ)	
同 (器楽「ピアノ」)	3	(ⅠⅡⅢ)	
卒業論文作成	6	(Ⅳ)計	42

●専攻科目(選択) 10 下記の単位の中から選択
音楽心理学 2 (ⅡⅢ)

体育管理及び施設	2	(Ⅳ)	
体育史演習	2	(ⅢⅣ)	
女子体育史	2	(ⅢⅣ)	
体育心理学演習	1	(Ⅲ)	
美術学	2	(Ⅱ)	
体育運動各論	3		
第1類体操	3		
第2類スポーツ	3	(Ⅰ-Ⅳ)	
第3類ダンス	3		
第4類	1		
リクリエーション	1		
女子身体論	2	(Ⅲ)	
発育論	1	(Ⅲ)	
体育生理学	2	(Ⅱ)	
公衆衛生学第1類	2	(Ⅲ)	
同第2類	2	(Ⅳ)	
同演習	2	(Ⅳ)	
医学概論	2	(Ⅳ)	
栄養学概論	2	(Ⅳ)	
運動障害と救急看護	2	(Ⅲ)	
母子衛生	1	(Ⅳ)	
音楽講義	2	(Ⅰ)	
器楽声	2	(ⅠⅡ)	

} 講座外

計 43

●関連科目(必修) 12

教育学概論	2	(Ⅱ)	
日本教育史	2	(ⅡⅢ)	
西洋教育史	2	(ⅡⅢ)	下記の中から2単位

音 声 生 理 学	2	(ⅡⅢ)		
管 絃 楽 法	2	(ⅡⅢ)		
和 声 学(Ⅱ)	2	(Ⅲ)		
作 曲 学	2	(Ⅳ)		
音 楽 指 揮 法	2	(Ⅳ)		
音 楽 学 特 殊 講 義	2	(ⅢⅣ)		
音 楽 特 殊 問 題 演 習	1	(Ⅳ)		
日 本 音 楽 史	2	(ⅡⅢ)		
芸 術 教 育 論	2	(Ⅲ)		
音 楽 教 育 特 殊 講 義	2	(ⅡⅢⅣ)		
比 較 音 楽 学	2	(ⅡⅢ)		
音 楽 史 特 講	2	(ⅡⅢ)		
音 楽 美 学 特 殊 講 義	2	(Ⅳ)		
音 楽 教 育 特 殊 問 題 演 習	1	(Ⅳ)		
実 技 (基 礎 唱 法)	1	(Ⅰ)		
同 (合 唱)	6	(ⅡⅢⅣ)		
同 (独 唱)	4	(ⅡⅢⅣ)		
同 (ピ ア ノ)	5	(Ⅰ~Ⅳ)		
		計	44	
● 関 連 科 目 (必 修)	12			
外 国 語	8			
教 育 科 学 概 論	2			
教 育 史	2	計	12	
● 自 由 選 択 科 目	20			

学部共通科目

※1 法 思 想 史	4
※2 法 社 会 学	4
※3 国 際 政 治 ・ 国 際 法	4
※4 経 済 史	4
※5 経 済 理 論 ・ 政 策	4
※6 社 会 学 特 講	4
※7 社 会 調 査	4
言 語 学 概 論	4
ギ リ シ ャ 語	4
ラ テ ン 語	4
ロ シ ア 語	2

註 上記※印の科目は、教職課程における免許教科「社会」での教科に関する専門科目のうち下記の科目に相当する。

※1.....法 律 学
※2.....法 律 学 又 は 社 会 学
※3.....政 治 学
※4.....経 済 学
※5....." "
※6.....社 会 学
※7....." "

—理 学 部—

●基礎教育科目

基 礎 数 学 I	4
基 礎 数 学 II	4
基 礎 物 理 学 I	4
基 礎 物 理 学 II	4
基 礎 化 学 I	4
基 礎 化 学 II	4
{ 物 理 化 学 (2)	
{ 有 機 化 学 (2)	
基 礎 動 物 学 I	2
基 礎 動 物 学 II	2
基 礎 植 物 学 I	2
基 礎 植 物 学 II	2

●理学部共通科目

天 文 学	2
地 球 物 理 学	2
気 象 学	2
超 高 層 物 理 学	2
基 礎 物 理 学 実 験	1
基 礎 化 学 実 験	1
基 礎 生 物 学 実 験	1

第1講座	古 典 解 析 学
第2講座	近 代 解 析 学
第3講座	代 数 学
第4講座	幾 何 学
第5講座	応 用 数 学

●基礎教育科目

基 礎 物 理 学 I	4
基 礎 物 理 学 II	4
基 礎 化 学 I	4
基 礎 化 学 II	4
{ 物 理 化 学 (2)	
{ 有 機 化 学 (2)	
基 礎 動 物 学 I	2
基 礎 動 物 学 II	2
基 礎 植 物 学 I	2
基 礎 植 物 学 II	2

●専攻科目(必修)

集 合 論	2	(Ⅰ)
集 合 論 演 習	1	(Ⅰ)
微 積 分 学 I	4	(Ⅰ)
微 積 分 学 I 演 習	2	(Ⅰ)
微 積 分 学 II	4	(Ⅱ)
微 積 分 学 II 演 習	2	(Ⅱ)
代 数 学 I	2	(Ⅰ)
代 数 学 I 演 習	1	(Ⅰ)
代 数 学 II	2	(Ⅱ)

代数学Ⅱ演習	1	(Ⅱ)
代数学Ⅲ	2	(Ⅲ)
幾何学Ⅰ	2	(Ⅰ)
幾何学Ⅰ演習	1	(Ⅰ)
幾何学Ⅱ	2	(Ⅱ)
幾何学Ⅱ演習	1	(Ⅱ)
位相空間論	2	(Ⅱ)
函数論Ⅰ	2	(Ⅲ)
微分方程式論Ⅰ	2	(Ⅲ)
数学講究	6	(Ⅳ)

●専攻科目(選択) 1 1 下記の単位中から選択

統計学	2	(ⅠⅡ)
位相空間論演習	1	(Ⅱ)
代数学Ⅲ演習	1	(Ⅲ)
函数論Ⅰ演習	1	(Ⅲ)
微分方程式論Ⅰ演習	1	(Ⅲ)
数理統計学	2	(ⅢⅣ)
函数論Ⅱ	2	(ⅢⅣ)
実函数論	2	(ⅢⅣ)
微分方程式論Ⅱ	2	(ⅢⅣ)
位相幾何学	2	(ⅢⅣ)
微分幾何学	2	(ⅢⅣ)
代数学A	2	(ⅢⅣ)
代数学B	2	(ⅢⅣ)
確率論	2	(ⅢⅣ)
応用解析学	2	(ⅢⅣ)

数学特殊講義
物理学科の諸科目

●関連科目(必修)	8
外国語	8
●関連科目(選択)	4 物理学科の科目中から選択
●自由選択科目	20

物理学科

第1講座	力学	学
第2講座	電磁気学	
第3講座	量子力学	
第4講座	核物理学	
第5講座	物性物理学	

●基礎教育科目

基礎数学Ⅰ	4
基礎数学Ⅱ	4
基礎化学Ⅰ	4
基礎化学Ⅱ	4
{物理化学	(2)
{有機化学	(2)
基礎動物学Ⅰ	2
基礎植物学Ⅰ	2
基礎動物学Ⅱ	2
基礎植物学Ⅱ	2

●専攻科目(必修) 3 8

力学第一	4	(Ⅰ)
力学第二	2	(Ⅱ)
電磁気学及び光学第一	4	(Ⅱ)
電磁気学及び光学第二	2	(Ⅲ)
熱学及び熱力学	2	(Ⅲ)
量子力学	4	(Ⅲ)
原子物理学	2	(Ⅱ)
原子核物理学	2	(Ⅳ)
物理数学	4	(Ⅱ)
物理学実験第一	2	(Ⅱ)
物理学実験第二	2	(Ⅲ)
物理学輪講	2	(Ⅲ)
特別研究	6	(Ⅳ)

●専攻科目(選択) 1 2 下記の単位中から選択

基礎物理学Ⅰ	4
基礎物理学Ⅱ	4
物理実験学	4
実験工手法	1
物理学演習Ⅰ	2
物理学演習Ⅱ	2
物理学演習Ⅲ	2
解析力学	2
流体力学	2
音響学	2
光学特論	2

相対性理論	2
電磁気学特論	2
応用電気学	2
電子工学	2
量子力学特論	2
数理物理学	2
気体論及び統計力学	2
物性論	2
X線及び結晶物理学	2
素粒子論	2
天文学	2
地球物理学	2
気象学	2
超高層物理学	2

●関連科目(必修) 8

外国語	8
-----	---

●関連科目(選択) 6 数学科・化学科の科目中から選択

基礎化学実験	1
基礎生物学実験	1

●自由選択科目 20

第1講座	物理化学
第2講座	無機化学
第3講座	有機化学
第4講座	生物化学
第5講座	分析化学

●基礎教育科目

基礎数学 I	4
基礎物理学 I	4
基礎化学 I	4
基礎動物学 I	2
基礎植物学 I	2

●専攻科目(必修) 36

基本化学実験	1	(II)
物理化学第一	4	(II)
分析化学第一	2	(II)
有機化学第一	4	(II)
無機化学第一	4	(III)
生物化学第一	4	(III)
無機分析化学実験	3	(II)
物理化学実験	2	(III)
有機化学実験	2	(III)
生物化学実験	2	(IV)
化学演習	2	(IV)
特別研究	6	(IV)

●専攻科目(選択) 4 下記の単位中から選択

分析化学第二	2	(II)
物理化学第二	4	(III)
有機化学第二	4	(III)
無機化学第二	2	(IV)
生物化学第二	4	(III)

●関連科目(必修) 12

外国語	8
基礎物理学 II	4

●関連科目(選択) 4 下記の単位中から選択

基礎数学 II	4
基礎動物学 II	2
基礎植物学 II	2
基礎物理学実験	1
基礎生物学実験	1
理学部他学科の諸科目	

●自由選択科目 28 下記の単位中から選択

構造化学	2
高分子化学	2
放射化学	2
機器分析	2
錯塩化学	2
地球化学	2
有機化学反応論	2
生体反応論	2

応用化学	2
物理化学特論	2
無機化学特論	2
分析化学特論	2
生物化学特論	2
基礎化学実習	1

第1講座	動物形態学
第2講座	動物生理学
第3講座	植物形態学
第4講座	植物生理学
第5講座	遺伝学

生物学科

●基礎教育科目

基礎数学 I	4
基礎数学 II	4
基礎物理学 I	4
基礎物理学 II	4
基礎化学 I	4
基礎化学 II	4
{物理化学	(2)
{有機化学	(2)
基礎動物学 I	2
基礎植物学 I	2
基礎動物学 II	2
基礎植物学 II	2

●専攻科目(必修) 38

必修 I 32 (講義22, 実習2, 演習2, 特別研究6)

動物系統学 I	2	(I)
植物系統学 I	2	(I)
細胞生物学 I	2	(II)
同 胞 生 学 II	2	(III)
発 生 学 I	2	(III)
動物生理学 I	2	(II)
植物生理学 I	2	(II)
植物生理学 II	2	(III)
動物生理化学 I	2	(III)
遺 伝 学 総 論	2	(II)
遺 伝 学 各 論	2	(III)
動物学臨海実習	1	(II)
植物学臨海実習	1	(II)
生物学演習	2	(IV)
特別研究	6	(IV)

必修 II 6 (実習6)

動物系統学 I 実習	1	(I)
植物系統学 I 実習	1	(I)
細胞生物学 I 実習	1	(II)
同 胞 生 学 II 実習	1	(III)
発 生 学 I 実習	1	(III)
動物生理学 I 実習	1	(III)
植物生理学 I 実習	1	(II)
植物生理学 II 実習	1	(III)
動物生理化学 I 実習	1	(III)

この中から2あるいは3単位選択

この中から2あるいは3単位選択

遺伝学総論実習	1	(II)	1単位なら総論を あるいは2単位選択
遺伝学各論実習	1	(IV)	
●専攻科目(選択)	8		
動物組織学	2	(II)	
動物組織学実習	1	(II)	
植物組織学	2	(II)	
植物組織学実習	1	(II)	
動物系統学Ⅱ	2	(I)	
動物系統学Ⅱ実習	1	(I)	
植物系統学Ⅱ	2	(IIIIV)	
細胞生理学	2	(IIIIV)	
細胞化学	2	(IIIIV)	
発生学Ⅱ	2	(III)	
動物生理学Ⅱ	2	(III)	
動物生理学Ⅱ実習	1	(III)	
微生物学	2	(III)	
微生物学実習	1	(III)	
植物生理学Ⅲ	2	(IIIIV)	
動物生理化学Ⅱ	2	(IIIIV)	
優生学	2	(IIIIV)	
育種学	2	(IIIIV)	
動物生理学臨海実習	1	(IV)	
発生学臨海実習	1	(III)	
植物学野外実習	1	(I~IV)	(1単位でも認める)

●関連科目(必修)	8	
外国語	8	
●関連科目(選択)	10	
理学部他学科の諸科目		
理学部共通科目		
地理学科の専攻科目		
生理学	4	
衛生学	3	
●自由選択科目	20	この中8単位は下記の中から選択
植物生態学	2	
動物生態学	2	
動物心理学	2	
特別講義	2	
人類遺伝学	2	
園芸学	2	
放射線生物学	2	
細胞遺伝学	2	

—家政学部—

●基礎教育科目
理学部の科目及び単位と同じ

児童学科	第1講座	児童教養	
	第2講座	児童保健	
	第3講座	児童福祉	
	(家政学部共通講座=家政学原論・家庭経済学・家庭管理学)		

●専攻科目(必修)	36	
児童発達原理	第一(精神発達)	1 (I後)
同	第二(身体発達)	1 (I後)
児童発達各論	第一(胎児~青年)	4 (II)
同	第二(乳幼児・児童)	2 (II後)
児童学演習	第一	2 (I)
保育学	第一	2 (II前)
児童福祉	第一	2 (II前)
同	第二	2 (II後)
児童文化	第一	2 (III前)
家族関係	第一	2 (III後)
児童臨床心理学		2 (III前)
児童精神医学		2 (III後)
児童学研究法		2 (II前)
児童学実験演習	第一(身体測定・体力測定・臨床検査)	1 (II前)
同	第二(心理実験・調査・評価①)	1 (II後)

児童学実験実習	第四(行動観察)	1 (III前)
同	第五(精神検査①)	1 (III前)
卒業論文作成		6 (IV)

●専攻科目(選択必修)	14	
集団力学		2 (II前)
児童統計学演習		2 (II)
脳神経生理学		2 (III前)
児童発達各論	第三(青年)	2 (II前)
同	第四	2 (II後)
比較発達心理学		2 (III後)
比較発達学演習		2 (III)
児童学演習	第二(児童発達・家族関係)	2
同	第三(青年)	2 (IV)
児童学実験演習	第三(心理実験・調査・評価②)	1 (III前)
同	第六(精神検査②)	1 (III後)
同	第七(" ③)	1 (III後)
同	第八(言語聴覚検査法)	1 (IV前)
保育学	第二	2 (IIIIV後)
保育学	第三(養護理論)	2 (II後)
保育学	演習	2 (IIIIV前後)
保育技術		2 (III前)
保育実習	第一(幼稚園実習)	4 (III)
同	第二(保育所実習)	1 (III)
同	第三(乳児院実習)	2 (II)
小児病学		2 (IIIIV後)

小児栄養学	2	
児童臨床演習 第一 (児童精神医学演習)	2	(IV)
同 第二 (相談治療演習)	2	(IV)
言語障害治療学	4	(III)
児童福祉 第三 (母子福祉)	2	(III前)
児童福祉演習	2	(IV)
社会福祉	2	(III後)
特殊児童の問題第一	2	(III前)
同 第二	2	(III後)
児童文化 第二	2	(III後)
児童文化 第三	2	(IIIIV)
児童環境学 第一 (児童社会学)	2	(I後)
同 第二 (母子衛生)	2	(II III前)
同 第三 (学校保健)	2	
家族関係 第二	2	(II後)
成人及び老年学	2	
児童集団理論	2	(II後)
児童民族学	2	
児童学特殊講義	4	
計	73	
●関連科目(必修)	8	
外国語	8	
●関連科目(選択必修)	6	家政学部共通科目 下記の中から選択
家政学原論	2	(I)
家庭経済学概論	2	(I)

家庭管理学概論	2	(II III)
住居学概論	2	(II)
児童学概論	2	(I)
食物学概論	2	(I)
被服学概論	2	(I)
家庭看護法	2	(III) 計 16

●自由選択科目 20 下記の単位を含めるのが望ましい
(生理心理学 4)
(人類遺伝学 2)

食物学科 第1講座 栄養学
第2講座 食品学
第3講座 調理学
(家政学部共通講座=家政学原論・家庭経済学・
家庭管理学)

●専攻科目(必修)	38	
栄養化学	4	(III)
同 実験	2	(III)
栄養生理学	4	(III)
食品化学 第一	4	(II)
同 第二	2	(III)
食物学基礎実験	2	(II)
食品化学実験	2	(III)
食品貯蔵学	2	(III)
調理学及び実験	2	(II III)
調理学実習第一	4	(II III IV)

生物化学	4	(II)
卒業論文作成	6	(IV)
●専攻科目(選択必修)	4	
食品品質論	2	(III)
食品物性論	2	(IV)
食品微生物学	2	(III)
食物衛生学	2	(III)
調理器具論	2	(III)
調理学実習 第二	1	(IV)
食事計画論	2	(III)
食糧経済学	2	(III)
食物史	2	(IV)
食物研究方法	2	(IV)
食物学特殊講義	4	
食物学演習	1	(IV)
輪講	1	(IV)
調理実習	2	(II) 計 25
●関連科目(必修)	16	
基礎化学 II	4	(II)
基礎生物学 II	4	(II)
外国語	8	計 16
●関連科目(選択必修)	6	(家政学部共通科目) (科目は児童学科と同じ)
●自由選択科目	20	下記の単位を含めるのが望ましい
生理学	4	(I)
基礎物理学 II	4	(II)

被服学科 第1講座 被服科学
第2講座 被服構成学
第3講座 被服美学
(家政学部共通講座=家政学原論・家庭経済学・
家庭管理学)

被服科学コース		
●専攻科目(必修)	37	
被服材料学 第一	2	(I前)
同 実験第一	2	(II前)
染色化学 第一	2	(II前)
染色整理学実験	1	(II後)
被服整理学 第一	2	(I後)
被服機構学	2	(II後)
日本服飾史	2	(I後)
意匠学実習	1	(I前)
被服構成学実験実習 第一	2	(I)
服飾美学	2	(II後)
被服構成学 第一	2	(II後)
服飾意匠学	2	(III後)
被服材料学 第二	2	(II後)
染色化学 第二	2	(III前)
被服整理学 第二	2	(III前)
基礎化学実験	2	(II)
被服衛生学	2	(II前)
卒業論文	6	(IV) 計 37

被服構成学・被服美学コース

●専攻科目(必修) 35

被服構成学 第一	2	(Ⅱ後)	
被服構成学実験実習 第一	2	(Ⅰ)	
意匠学実習	1	(Ⅰ前)	
服飾意匠学	2	(Ⅲ後)	
服飾美学	2	(Ⅱ後)	
日本服飾史	2	(Ⅰ後)	
被服材料学 第一	2	(Ⅰ前)	
同 実験第一	1	(Ⅱ前)	
染色化学 第一	2	(Ⅱ前)	
染色整理学実験	1	(Ⅱ後)	
被服整理学 第一	2	(Ⅰ後)	
被服機構学	2	(Ⅱ後)	
被服構成学 第二	2	(Ⅱ前)	
被服構成学実験実習 第二	2	(Ⅲ)	
色彩学	2	(Ⅱ前)	
西洋服飾史	2	(Ⅱ前)	
卒業論文	6	(Ⅳ)	計 35

●専攻科目(選択必修)

A被服科学コース	13	下記15科目中から13単位以上を選択
繊維化学	2	(Ⅲ前)
被服材料学実験第二	2	(Ⅲ)
応用物理化学	2	(Ⅲ後)

染色化学実験第一,二	2	(Ⅲ)	
被服整理学実験	1	(Ⅲ後)	
被服科学演習 第一	4	(ⅢⅣ)	
同 演習第二	4	(ⅢⅣ)	
被服科学輪講	2	(Ⅳ)	
繊維物理学	2	(Ⅲ後)	
基礎物理学	4	(Ⅱ)	
基礎化学	4	(Ⅱ)	
統計学	2	(Ⅲ後)	
統計学演習	1	(Ⅲ後)	
被服学特殊講義	4		
界面化学	2	(Ⅲ前)	計 38

●専攻科目(選択必修)

B被服構成学・被服美学コース	15	下記の21科目中から15単位以上を選択
被服構成学 第三	2	(Ⅱ後)
被服構成学実験実習 第三	2	(Ⅲ)
被服構成計画	2	(Ⅲ後)
被服構成学特講	2	(Ⅲ前)
被服構成学演習	2	(Ⅳ)
服飾意匠実習 第一	1	(Ⅲ前)
同 第二	1	(Ⅳ前)
服飾意匠学特講 A	2	(Ⅳ後)
同 B	2	(Ⅲ後)
服飾意匠学演習	2	(Ⅳ)
東洋服飾史	2	(Ⅲ後)

服飾美学特講	2	(Ⅲ前)	
服飾美学演習	2	(Ⅳ)	
美学特講	4	(Ⅳ)	
服飾史特講 A	2	(Ⅲ前)	
同 B	2	(Ⅲ後)	
基礎数学Ⅱ	4	(Ⅱ)	
統計学	2	(Ⅲ後)	
統計学演習	1	(Ⅲ後)	
被服衛生学	2	(Ⅱ前)	
被服学特殊講義	4		計 45

A・B共学生数に余裕のある場合は、担当教官の許可を受けて専攻科目中からも選択することができる。

●関連科目(必修)	8
外国語	8

●関連科目(選択必修)	6	(家政学部共通科目)専攻(選択)4単位は本項に振替え履修することができる
(科目は児童学科と同じ)		

●自由選択科目	20
---------	----

家政学部共通講座

(家政学原論・家庭経済学・家庭管理学)

(選択必修)		(選択必修の履修単位数については各学科の部を参照)
家政学原論	2	(Ⅰ)

家庭経済学概論	2	(Ⅰ)
家庭管理学概論	2	(ⅡⅢ)
住居学概論	2	(Ⅱ)
児童学概論	2	(Ⅰ)
食物学概論	2	(Ⅰ)
被服学概論	2	(Ⅰ)
家庭看護法	2	(Ⅲ)
(選択)		
生活史	2	(Ⅰ)
家庭経済学 第一	2	(Ⅱ)
同 第二	2	(Ⅱ)
家庭経済学特論	2	(Ⅲ)
家計簿記論 第一	2	(Ⅲ)
同 第二	2	(Ⅲ)
統計学	2	(Ⅲ)
同 演習	1	(Ⅲ)
家庭管理学特論	2	(Ⅲ)
家庭機械及び家庭工作(設計及び製図を含む)	2	(Ⅱ)

b 教職教育科目 (各学部共通)

●必修科目	11	
教育心理学 I	2	
同II (青年心理)	1	
教育原理	3	
教科教育法	3	(Ⅲ) 各免許教科毎
教育実習	2	(Ⅳ) (中, 高の場合)
同	4	(ⅢⅣ) (小, 幼の場合)
		計 15
小学校教材研究		(小学校希望者のみ)
保育内容の研究		(幼稚園希望者のみ)
道德教育の研究	2	(小, 中学校希望者のみ)
●選択必修科目	3	下記の単位中から選択必修
教育哲学	2	(教育原理に代え得)
教育史	2	
教育社会学	2	
教育行政学	2	
教育方法	2	(視聴覚を含む)
社会教育	2	計 12

6. 大学院規則

(昭和38年4月評議会決定)

第1章 総則

第1条 お茶の水女子大学学則第2条の2の規定に基づき、この規則を定める。

第2条 お茶の水女子大学大学院(以下「大学院」という.)は、本学の目的使命に則り、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

第2章 組織

第3条 大学院に、次の研究科をおく。

- 人文科学研究科
- 理学研究科
- 家政学研究科

第4条 研究科の課程は、修士課程とする。

2 修士課程は、大学の学部における一般的並びに専門的教養の基礎の上に広い視野に立って専門分野を研究し、精深な学識と研究能力を養うものとする。

第5条 研究科に、次の専攻課程をおく。

- 人文科学研究科

- 哲学専攻
- 史学専攻
- 地理学専攻
- 日本文学専攻
- 中国文学専攻
- 英文学専攻
- 教育学専攻
- 理学研究科
- 数学専攻
- 物理学専攻
- 化学専攻
- 生物学専攻
- 家政学研究科
- 児童学専攻
- 食物学専攻
- 被服学専攻

第3章 学生定員

第6条 大学院の学生定員は次のとおりとする。

研究科名	専攻課程名	修士課程 一年当
	哲学専攻	4
	史学専攻	6

人文科学研究科	地理学専攻	6
	日本文学専攻	6
	中国文学専攻	4
	英文学専攻	6
	教育学専攻	14 (16) 48
理学研究科	数学専攻	10
	物理学専攻	10
	化学専攻	10
	生物学専攻	10
家政学研究科	児童学専攻	6
	食物学専攻	6
	被服学専攻	6
	計	18

第4章 授業科目及び履修方法

第7条 人文科学研究科、理学研究科及び家政学研究科の専攻課程別の授業科目および単位数等は、別表のとおりとする。

第8条 学生は、2年以上在学し当該専攻課程の授業科目について30単位以上履修しなければならない。但

し、専攻課程担当の指導教官が当該学生の研究上特に必要と認めた場合に限り他の専攻課程・関連科目または学部の授業科目を指定して履修させ、これを修士課程の単位とすることができる。

2 前項に関する取扱の細則は、別に定める。

第5章 課程修了の認定

第9条 修士課程の修了には、2年以上在学し所要の授業科目について30単位以上を修得し、且つ学位論文を提出して最終試験に合格することを必要とする。

第10条 各履修授業科目の単位の認定は、筆記若しくは口頭試験又は研究報告によるものとし毎学期又は毎学年末に行なうものとする。

第11条 最終試験は、所定の単位を修得し、且つ学位論文を提出したのものにつき、筆記または口頭により第2年次の後学期以降に行なうものとする。

第12条 修士課程修了の認定は、研究科委員会が行なう。

第6章 学位

第13条 各研究科において、課程を修了した者に対しては、次の学位を授与する。

人文科学研究科	文学修士
理学研究科	理学修士

家政学研究科 家政学修士

2 学位授与に関する規程は、別に定める。

第7章 入学・休学・退学・転学

第14条 入学の時期は、毎年4月とする。

第15条 修士課程に入学を志願することのできる者は、次の各号の1に該当する女子とする。

- 1 大学を卒業した者
- 2 学校教育法施行規則第70条により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

第16条 入学志望者は、入学願書に所定の書類を添付し、出身大学を経由し提出するものとする。

第17条 入学志願者に対しては、学力検査と健康診断を行ない、出身大学長の提出する調査書の成績等を総合して入学者を決定する。

2 前項の考査の方法、時期等については、そのつど定める。

第18条 入学を許可された者は、所定の誓約書を保証人連署の上提出しなければならない。

2 保証人は、父兄又は近親の者とする。保証人が遠隔の地にある場合は、別に東京都内において独立の生計を営む成年者を副保証人としなければならない。

3 保証人は、副保証人に変更があった場合は、直ちに

その旨を届出なければならない。

第19条 病気その他止むを得ない理由により修学できないときは、保証人連署の上願い出て、休学することができる。

2 健康上修学に不相当と認められた学生に対しては休学を命ずることができる。

3 前2項の場合において休学の事由が消滅した場合は、遅滞なく復学願を提出しなければならない。

第20条 休学の期間は、2年をこえることができない。

第21条 病気その他の事由により退学を希望する者は、保証人連署の上退学願を提出しなければならない。

第22条 退学した者が再入学を願いだた場合は審査の上でこれを許可することができる。

第23条 大学院学生が他の大学院に転学しようとするときは、保証人連署の上専攻課程担当の教官を経て学長に転学願を提出しなければならない。

2 他の大学の大学院学生が、本学大学院に転学しようとするときは、欠員のある場合に限り選考の上許可することがある。

第24条 大学院における研究科修士課程の最短在学年

限は2年，最長在学年限は4年とする。

第8章 検定料・入学料及び授業料

第25条 検定料は，金3,000円とする。

第26条 入学料は，金4,000円とする。

第27条 授業料は，1学年金18,000円とする。

第9章 教員組織

第28条 大学院の授業及び研究指導を担当する教官は，本学の教授，助教授及び講師の中からこれにあて

る。
2 研究指導を担当する教官は，各専攻課程における研究指導の責任を負う。

第10章 運営組織

第29条 大学院に大学院委員会，各研究科に研究科委員会をおく。

2 大学院委員会および研究科委員会に関する規程は，別に定める。

第11章 雑則

第30条 大学院に別に定めるところにより聴講生・委託生・外国人学生の制度を設ける。

第31条 この規則に定められていない事項については，本学学則を準用する。

第32条 この規則の改廃は，評議会が行なう。

附 則

この規則は，昭和38年4月24日から施行し，昭和38年4月1日から適用する。

附 則（昭和39年4月評議会決定）

この改正は，昭和39年4月22日から施行し，昭和39年4月1日から適用する。

附 則（昭和41年4月評議会決定）

1 この改正は，昭和41年4月27日から施行し，昭和41年4月1日から適用する。

2 第25条の改正規定は，昭和42年度以降入学する者の選抜から適用する。

別 表

——人文科学研究科——

授業科目名 単位数

●哲学専攻

哲学 特 論 I	4
哲学 特 論 II	4
哲学 演 習 I	4
哲学 演 習 II	4
倫理学 特 論 I	4
倫理学 特 論 II	4
倫理学 演 習 I	4
倫理学 演 習 II	4
美学 特 論 I	4
美学 特 論 II	4
美学 演 習 I	4
美学 演 習 II	4
社会哲学 特 論	4
社会哲学 演 習	4
特 別 研 究	14

●史学専攻

日本史学 特 論 I	4
日本史学 特 論 II	4
日本史学 特 論 III	4
日本史学 演 習 I	4

日本史学 演 習 II	4
東洋史学 特 論 I	4
東洋史学 特 論 II	4
東洋史学 特 論 III	4
東洋史学 演 習 I	4
東洋史学 演 習 II	4
西洋史学 特 論 I	4
西洋史学 特 論 II	4
西洋史学 特 論 III	4
西洋史学 演 習 I	4
西洋史学 演 習 II	4
特 別 研 究	14

●地理学専攻

地理学 方法 特 論	4
地理学 発達史 特 論	4
経済地理学 特 論	2
文化地理学 特 論	2
人文地理学 演 習	2
地形学 特 論	4
地形誌 特 論	4
気候誌 特 論	2
自然地理学 演 習	4
地 域 特 論	4
地 誌 特 論	4
微細地誌 特 論	2
地 誌 学 演 習	4

野 外 調 查 2
特 別 研 究 14

●日本文学専攻

上 古 文 学 特 論 4
中 古 文 学 特 論 4
上 古・中 古 文 学 演 習 4
中 世 文 学 特 論 4
近 世 文 学 特 論 4
中 世・近 世 文 学 演 習 4
明 治・大 正 文 学 特 論 4
明 治・大 正 文 学 演 習 4
日 本 文 学 思 潮 特 論 4
国 語 学 特 論 I 4
国 語 学 特 論 II 4
国 語 学 演 習 4
特 別 研 究 14

●中国文学専攻

中 国 文 学 特 論 I 4
中 国 文 学 特 論 II 4
中 国 文 学 特 論 III 4
中 国 文 学 演 習 I 4
中 国 文 学 演 習 II 4
中 国 語 学 特 論 I 4
中 国 語 学 特 論 II 4
中 国 語 学 特 論 III 4

中 国 語 学 演 習 4
中 国 哲 学 特 論 4
特 別 研 究 14

●英文学専攻

英 文 学 特 論 I 4
英 文 学 特 論 II 4
英 文 学 特 論 III 4
英 文 学 演 習 I 4
英 文 学 演 習 II 4
米 文 学 特 論 I 4
米 文 学 特 論 II 4
米 文 学 演 習 I 4
米 文 学 演 習 II 4
英 語 学 特 論 I 4
英 語 学 特 論 II 4
英 語 学 演 習 4
特 別 研 究 14

●教育学専攻

教 育 学 特 論 4
教 育 学 演 習 4
教 育 史 特 論 4
教 育 史 演 習 4
教 育 方 法 学 特 論 4
教 育 方 法 学 演 習 4
教 育 經 営 学 特 論 4

——理学研究科——

授業科目名 单位数

●数学専攻

第 1 講 座 古 典 解 析 学
第 2 講 座 近 代 解 析 学
第 3 講 座 代 数 学
第 4 講 座 幾 何 学
第 5 講 座 応 用 数 学

古 典 解 析 学 特 論 I 4
古 典 解 析 学 特 論 II 2
古 典 解 析 学 特 論 III 2
近 代 解 析 学 特 論 I 4
近 代 解 析 学 特 論 II 2
近 代 解 析 学 特 論 III 2
代 数 学 特 論 I 4
代 数 学 特 論 II 2
代 数 学 特 論 III 2
幾 何 学 特 論 I 4
幾 何 学 特 論 II 2
幾 何 学 特 論 III 2
応 用 数 学 特 論 I 4
応 用 数 学 特 論 II 2
応 用 数 学 特 論 III 2
数 学 講 究 16

教 育 經 営 学 演 習 4
教 育 社 会 学 特 論 4
教 育 社 会 学 演 習 4
教 育 行 政 特 論 4
教 育 行 政 学 演 習 4
学 校 衛 生 特 論 4
学 校 衛 生 学 演 習 4
発 達 心 理 学 特 論 4
発 達 心 理 学 演 習 4
教 育 心 理 学 特 論 4
教 育 心 理 学 演 習 4
視 聴 覚 教 育 特 論 4
視 聴 覚 教 育 演 習 4
精 神 身 体 医 学 特 論 4
精 神 身 体 医 学 演 習 4
特 別 研 究 14

●関連科目

独 文 学 特 論 4
仏 文 学 特 論 4
社 会 学 特 論 4
体 音 学 特 論 4

●物理学専攻

第1講座	力学	学
第2講座	電磁気学	学
第3講座	量子力学	学
第4講座	核物理学	学
第5講座	物性物理学	学
流体物理学 I		2
流体物理学 II		2
相対論		2
数理物理学特論 I		2
計測学特論 II		2
電磁気学特論		2
電子エレクトロニクス		2
分子物理学 I		2
分子物理学 II		2
分子物理学 III		2
統計力学特論		2
半導体論		2
素粒子論 I		2
素粒子論 II		2
核物理学 I		2
核物理学 II		2
固体物理学 I		2
固体物理学 II		2
固体物理学 III		2

磁性体論	2
低温物理学	2
物理学特別講義 I	2
物理学特別講義 II	2
物理学特別講義 III	2
物理学特別講義 IV	2
物理学特別講義 V	2
特別研究	14

●化学専攻

第1講座	物理化学	学
第2講座	無機化学	学
第3講座	有機化学	学
第4講座	生化学	学
第5講座	分析化学	学
界面化学		2
放射線化学		2
分子分光学		2
物理化学演習		2
無機化学特論		4
無機構造化学		2
無機化学演習		2
天然物有機化学		2
有機合成化学		4
有機化学演習		2
生物化学特論 I		2
生物化学特論 II		2

—家政学研究科—

授業科目名 単位数

●児童学専攻

児童発達心理学特論	4
比較発達学特論	2
遺伝学特論	2
保育学特論	4
児童福祉特論	4
児童文化特論	2
児童臨床心理学特論	4
言語治療特論	4
児童保健学特論	4
母子衛生特論	2
小児栄養学特論	2
家族関係特論	2
児童学特別講義	4
児童学特別研究	10
児童学研究特論	4

●食化学専攻

栄養化学特論 I	4
栄養化学特論 II	4
栄養生理学特論	2
特殊栄養学特論	2

物質代謝特論	2
生物化学演習	2
分析化学特論	4
機器分析特論	2
分析化学演習	2
特別研究	14

●生物学専攻

第1講座	動物形態学	学
第2講座	動物生理学	学
第3講座	植物形態学	学
第4講座	植物生理学	学
第5講座	遺伝学	学
動物系統学特論		4
細胞生理学特論		4
動物発生学特論		4
動物生理学特論		4
動物生理化学特論		4
植物系統学特論		4
細胞学特論		4
酵素化学		4
遺伝学特論		4
細胞遺伝学特論		4
微生物生理学		2
生態学特論		2
放射線生物学特論		2
特別研究		14

食品化学特論Ⅰ	4
食品化学特論Ⅱ	4
食品微生物学特論	2
食品貯蔵学特論	2
食品加工学特論	2
食品衛生学特論	2
食品膠質学特論	2
調理学特論Ⅰ	4
調理学特論Ⅱ	4
生物化学特論Ⅰ	2
生物化学特論Ⅱ	2
食物学特別講義	4
食物学特別研究	10

●被服学専攻

被服材料学特論	4
被服物理学特論	2
被服材料化学特論	2
被服衛生学特論	2
染色化学特論	4
被服整理学特論	4
纖維界面化学	4
被服構成学特論 1	4
被服構成学特論 2	2
被服構成学特論 3	2
被服構成学特論 4	2
服飾美学特論	4

服飾史特論 1	2
服飾史特論 2	2
服飾意匠学特論	4
色彩学特論	2
被服学特別講義	4
被服学特別研究	10
被服学輪講	4

●関連科目

家政学原論特論	2
家庭経済学特論	4
家庭管理学特論	2

7. 学位規程

(昭和38年4月評議会決定)

第1条 この規程は、学位規則（昭和28年文部省令第9号）第11条の規定に基づき、お茶の水女子大学が授与する学位について必要な事項を定めるものとする。

第2条 本学で授与する学位は、修士とし、その種類は人文科学研究科にあっては文学修士、理学研究科にあっては理学修士、家政学研究科にあっては家政学修士とする。

第3条 本学大学院人文科学研究科、理学研究科または家政学研究科に2年以上在学し所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した者に対しては、文学修士、理学修士または家政学修士の学位を授与する。

第4条 修士の学位論文は、学長に提出するものとする。

2 提出する学位論文は、1篇とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

3 審査のため必要があるときは、関係資料を提出させることができる。

第5条 学長は、学位論文の提出があったときは、研究科委員会にこれを審査させる。

2 研究科委員会は、論文を審査する場合には、当該専攻課程の教授、および関連する科目の担当教授の中から2名以上からなる審査委員会を設けるものとする。

3 前項の外、必要あるときは助教授または講師を審査委員として加えることができる。

4 審査委員会の運営に関する事項は、各研究科委員会においてこれを定める。

第6条 審査委員会は、論文を中心として関連ある授業科目について最終試験を行なうものとする。

2 審査委員は、提出のあった学位論文について、その審査の結果を前項の結果とともに学年度末までに研究科委員会委員長に報告しなければならない。

第7条 研究科委員会は、前条の報告に基づいて審議し、学位を授与すべきか否かを議決する。

2 前項の議決をするには、委員総数の3分の2以上の出席を要する。ただし、長期出張中および休職中のため出席することができない委員は、委員の総数に算入しないものとする。

3 学位の授与を議決するには、出席委員の3分の2以上の賛成を必要とする。

第 8 条 研究科委員会が前条第 1 項の議決をしたときは、委員長は、その旨を学長に報告するものとする。

第 9 条 学長は、前条の報告に基づき、所定の学位記を授与する。

2 学位を授与された者が、その学位の名称を用いるときは「お茶の水女子大学〇〇修士」のように本学名を冠するものとする。

第 10 条 学位を授与された者が、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、又はその名誉を汚辱する行為があったときは、学長は、研究科委員会の議を経て学位の授与を取消することができる。

2 研究科委員会が前項の議決をする場合には、第 7 条第 2 項および第 3 項の規定を準用する。

第 11 条 学位記の様式は、別表のとおりとする。
ただし、別表中理学研究科修了者については論文題目を記載しない。

第 12 条 この規程の改廃は、評議会が行なう。

附 則

この規程は、昭和38年 4 月24日から施行し、昭和38年 4 月 1 日から適用する。

附 則 (昭和39年 4 月評議会決定)

この改正は、昭和34年 4 月22日から施行する。

附 則 (昭和40年12月評議会決定)

この改正は、昭和41年 3 月 1 日から施行する。

附 則 (昭和41年 4 月評議会決定)

この改正は、昭和41年 4 月27日から施行し、昭和41年 4 月 1 日から適用する。

別 表

修文、 修理または 修家第 号	お茶の水女子 大学 院 〇〇 研究科 長 氏	論文題目	年 月 日	氏 名	年 月 日生	学 位
						本 籍 (都道府県名)
		本学大学院〇〇研究科〇〇専攻の修士課程において所定の単位を修得し学位論文の審査および最終試験に合格したので〇〇修士の学位を授与する。				

8. 専攻科規程

第 1 条 学則第42条による専攻科は、学術の理論及び応用に関し、特別の事項につき研究しようとする者に対して教授を行ない、その研究を指導することを目的とする。

第 2 条 専攻科の専攻部門及びその学生定員は次のとおりとする。

文教育学専攻科

体育・音楽教育学専攻 3名

第 3 条 専攻科の修業年限は、1年とする。

但し、その研究を継続する必要があるとき、その在学期間の延長を願出た者がある時は、学長は、教授会の議を経てこれを許可することができる。

第 4 条 専攻科の学科課程は、別にこれを定める。

第 5 条 学生は、在学中にそれぞれの専攻に応じ30単位以上を修得しなければならない。

第 6 条 専攻科の入学資格は、次の各号の 1 に該当する女子でなければならない。

- 1 大学を卒業した者

2 前項と同等以上の学力があると認められた者

第7条 専攻科入学者は、入学志願者について学力試験及び身体検査その他の成績により選考の上、学長がこれを許可する。

第8条 専攻科に入学を志願する者は、入学願書に添えて別表により検定料を納めなければならない。

第9条 専攻科に入学を許可された者は、別表により入学科及び授業料を納めなければならない。

第10条 休学の期間は、1年を超えることができない。但し、特別の事情があると認められた時は、学長は教授会の議を経て期間の延長を許可することができる。

第11条 第5条に定める単位を履修した者には、修了証書を授与する。

第12条 この規程に定められていない事項については、本学学則を準用する。

附 則

この規程は、昭和31年4月1日よりこれを施行する。

附 則（昭和38年4月評議会決定）

この改正は、昭和38年4月24日から施行し、昭和38年4月1日から適用する。

附 則（昭和39年4月評議会決定）

この改正は、昭和39年4月22日から施行し、昭和39年4月1日から適用する。

附 則（昭和41年4月評議会決定）

1 この改正は、昭和41年4月6日から施行し、昭和41年4月1日から適用する。

2 昭和40年度に在学する者のうち在学期間の延長を願い出た者については、前項の規定に拘らず、改正前の規定がなおその効力を有するものとする。

3 検定料については、昭和42年度以降入学する者の選抜から適用する。

別表	区 分	金 額
	検 定 料	3,000円
	入 学 料	4,000円
	授 業 料	年額12,000円
	第1期分	6,000円
	第2期分	6,000円

9. 幼稚園教員臨時養成課程規程

第1条 幼児の教育に関する専門の知識及び技術を教授研究し、幼稚園教員を養成するを目的とする。

第2条 本課程の修業年限は、2年とする。1学年の学生の定員は、30名とする。

第3条 本課程の学科課程は、一般教育課程・専門教育課程・教職教育課程及び体育とし、在学中に次の単位を修得しなければならない。

学科課程の細目は、別表による。

一般教育科目	18単位以上
専門科目	14単位以上
教職科目	18単位以上
体育科目	2単位以上
選択科目	10単位以上
合計	62単位以上

第4条 本課程の教官は、本学の教官をもって当て、兼任教官とする。

但し、本課程特殊の講義に対しては必要に応じ学外より講師を委嘱する。

第5条 本課程の教科については、当大学の授業をもってあてることができる。

第6条 本課程に2年以上在学し、定められた科目及び単位数を履修した者は、卒業証書及び幼稚園教員2級普通免許状をうけることができる。

第7条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第8条 学年を分けて次の2学期とする。

前学期 4月1日より10月20日まで

後学期 10月21日より翌年3月31日まで

第9条 学年中の定期休業日を次の通りとする。

- 1 国民の祝日
- 2 創立記念日 11月29日
- 3 日曜日
- 4 春季休業 4月1日より4月7日まで
- 5 夏季休業 7月11日より9月10日まで
- 6 冬季休業 12月25日より翌年1月7日まで

第10条 入学の時期は、毎学年の始めより30日以内とする。

第11条 入学資格は、次のいずれかの資格を有する女子に限る。

- 1 新制高等学校を卒業した者

2 新制高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

第 12 条 入学者は、入学志望者について、学科試験及び身体検査その他の成績により選考の上、学長がこれを許可する。

第 13 条 入学を許可された者は、別に定めるところにより宣誓をしなければならない。理由なくして宣誓しない者は、入学を取消す。

第 14 条 退学を希望するものは、その理由を具して学長に願出て許可を受けなければならない。

第 15 条 次の各号の 1 に該当するときは、学長は論旨退学をさせ、または除籍することができる。

- 1 正当の理由がなくて出席が常でない者
- 2 病気その他の事由によって成業の見込がないと認められた者
- 3 許可がなくして授業料を滞納し又は延滞期限が経過してもこれを納めない者

第 16 条 病気その他の事由により引続いて 2 か月以上修学することができないときは、事由を具して学長に願出て、その許可を得て休学することができる。

2 休学は、通算して 2 年を超えてはならない。

第 17 条 入学を志望する者は、入学願書に添えて検定

料 2,000 円を納めなければならない。

第 18 条 入学料は、2,600 円とし、指定の期日までに納めなければならない。

入学料を納めない者は、入学許可を取り消す。

第 19 条 授業料は、年額 9,000 円とし、次の 2 期に分けて納めなければならない。

第 1 期 4,500 円 4 月中

第 2 期 4,500 円 10 月中

第 20 条 退学又は除籍された場合においても、その者が在学していた期までの授業料は、納めなければならない。

2 納付期日前に休学の許可を得た者の授業料は、月割計算により休学当月の翌月から復学当月の前月までの授業料を免除する。

第 21 条 一度納めた検定料・入学料・授業料は、どのような場合でもこれを返さない。

第 22 条 停学を命ぜられた期間中の授業料は、これを徴収する。

第 23 条 学生が授業その他の活動において優れた成績を挙げたときは、運営委員会の議を経て学長がこれを表彰することができる。

第 24 条 学生が学校の秩序を乱し、その他学生の本分

に反したときは、運営委員会の議を経て学長がこれを懲戒する。

懲戒は、戒告・停学及び退学とする。

第 25 条 成績の評価は、その科目を修了したときに行なう。但し、1 年を超えて連続する科目にあっては、少くとも 1 年毎に成績の評価を行なう。

第 26 条 評価は、原則として試験（論文・報告等を含む。）、平常の成績及び出席状況を総合して決定する。定期試験は、各学期毎に行なうのを原則とする。

第 27 条 成績の評価は、A・B・C・D の 4 種類とする。A・B・C の評価を得たものは、それぞれの科目について定められた単位が与えられる。学生の取得した単位は、その評価とともに記録にとどめる。

第 28 条 病気その他正当な理由で試験等を受けることができなかったものに対しては、別に定める手続によって追試験を行なうことができる。

追試験を受けようとする者は、追試験願を学部事務部へ提出しなければならない。

第 29 条 本課程に関する一切の事務は、所属学部事務部において行なう。

第 30 条 この規程に定められていない事項については本学学則を準用する。

附 則

この規程は、昭和 31 年度入学生よりこれを適用する。

附 則（昭和 40 年 2 月評議会決定）

この改正は、昭和 40 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（昭和 41 年 4 月評議会決定）

1 この改正は、昭和 41 年 4 月 6 日から施行し、昭和 41 年 4 月 1 日から適用する。

2 第 17 条の改正規定は、昭和 42 年度以降入学する者の選抜から適用する。

幼稚園教員臨時養成課程学科課程

A 一般教育科目及体育科目			B 専門科目			C 教職教育科目		
科目名	単位	備考	科目名	単位	備考	科目名	単位	備考
a 一般教育科目	18		●専攻科目(必修)	14	下記科目必修	●必修科目	18	下記科目必修
●人文科学系列	6	下記科目中から3科目6単位以上履修	音	6		{教育原理	2	
哲学	4	分割履修を認む	{理	(2)		{教育心理	4	児童心理を含む
心理学	4		{器	(2)		{教育心理	(2)	
音楽学	4		図	4		児童心理	(2)	
音楽学	4	分割履修を認む	{理	(2)		保育内容の研究	8	
美術学	4	同上	{画	(2)		社会・言語	(2)	
宗教学	4		保	2		健康	(2)	
			(運動生理)			絵画製作・自然	(2)	
●社会科学系列	6	下記科目中から3科目6単位以上履修	外	2	計 14	音楽・リズム	(2)	
法学(その一)	2	日本国憲法を主とするもの	●専攻科目(選択必修)	4	下記科目中から4単位以上履修	教育実習	4	計 18
法学(その二)	4	民法を主とするもの	家	2		●選択必修科目	4	下記科目中から4単位以上選択必修
政治学	4		(育児及家庭看護)			児童心理	4	分割履修を認む
経済学	4		精神検査	2		{幼児心理	(2)	
社会学	4		両親教育	2		{実験実習		
歴史学	4	分割履修を認む	幼児文化	4		幼稚園ナース	(2)	
文化人類学	2		家庭教育第2	2		スリー		
地理学	2		国語学概論	4	分割履修を認む	幼児教育第2	2	
家政学	2		青年心理学	2		教育社会学	2	
●自然科学系列	6		小児栄養学	2		その外学部における教職教育科目		
生物学	2		その他の専門科目	2		C 自由選択科目	2	各学部の専門科目教職科目の中から選択履修
(動物)	2							
(植地)	2							
地学(地磁)	2							
b 体育科目(必修)	2							

10. 学生準則

学生準則趣意

- 1 本準則は、学生の自治活動の健全なる発達と円滑なる運営を期待するため定めるものとした。
- 2 学生自治活動の自主性は、尊重さるべきものであり、又その行動は、大学自治の確立を基調とするものである事を教職員及び学生相互に確認し、その相互の信頼を深める事例を蓄積しつつ、前条の目的を達成するものとした。
- 3 相互の意思疎通と理解を深めるためには、学生委員会と学生自治会執行部との連絡協議会を活用すべきものとした。
- 4 本準則は学生自治会活動およびそれと同等とみなされる活動を対象とした。

学生準則

- (団体の設立ならびに解散)
- 第1条 学内団体を設立しようとするときは、顧問教

官を原則として定め、所定の様式により学生部長に届け出る。

- 2 学内団体の届け出事項に変更を生じたとき、ならびに解散する場合は、前項に準ずる。
- 3 学内団体の学外団体への加入は、学生委員会との協議を経て学生部長に届け出る。

(集会及行事)

第2条 学内における学生の主催する集会は、所定の様式により学生部長に届け出る。但し、学内団体の行事として予め学生部長に届け出ている集会は除く。

- 2 定例学生大会は、学生部長に届け出る。
- 3 臨時学生大会は、学生部長の承認を得るものとする。

(掲示その他)

第3条 特に指定された掲示板に掲げる掲示ならびにポスターは学生自治会が管理するものとする。

- 2 その他の場所に掲げる掲示ならびにポスターは、学生課に届け出る。

3 本学一般学生を対象とした印刷物の配布、販売、募金、署名運動および世論調査等は、学生自治会管理とするも、学生課に予め通知する。

(学外団体の本部・支部および事務局の設置)

第4条 本学構内ならびに学寮内に学外団体の本部、支部および事務局を設置する場合には、学生部長の承認を得るものとする。

(準則の適用)

第5条 本準則の適用にあたり、必要ある場合は、学生委員会と団体とは、十分な協議を行なうものとする。

附 則

- 1 この準則に関する細則は、別にこれを定める。
- 2 この準則は、昭和35年4月10日から実施する。

学生準則施行細則

- 1 第1条第1項及び第4条の届け出書式は、別紙第1による。
- 2 第1条第2項の届け出書式は別紙2による。
- 3 第2条の各号の届出書式は、別紙第3による。
- 4 第2条の学生大会は、少くも8日前までに、その他の集会は原則としてこれに準じて届け出る。
- 5 学生大会の議題は予め、決議事項、大会経過報告は

大会後速かに学生部長に届け出るものとする。

6 自治会管理の掲示板は次のものとする。

- 1 正門附近
- 2 厚生課横
- 3 別館渡廊下
- 4 第2集会室前

7 本準則により学内の諸施設を利用する場合は、当該施設の管理方針に従うものとする。

8 第5条の協議は、学生委員会及び団体の少くとも何れか一方の申入により行なわれる。

全学連加盟許可について

去る6月30日学生準則に基いてなされた学生自治会の全学連加盟許可の申請については、学生大会の決議を尊重すると同時に、学外組織たる全学連の性格行動について、慎重な調査、審議を尽さねばならない。よって大学としては学生委員会の数度にわたる検討を経ると共に、各学部教授会の三回にわたる審議を尽した後に、それら各般の見解を基礎として、本学学則第9条の規定に従って評議会において審議した結果、次の如く決定した。

本学における学生自治会は、学部の別なく全学生の参

加する単一組織であって、すべての学生が当然に会員たる沿革並に現状に鑑み全学連規約第12条第1項における連合の全国大会、中央委員会の決定その他の指令に係る自治会の行動は、本学の授業学習を拘束し、本学の機能を阻害し、大学の自治を侵犯する結果となるおそれなしとしない。以上の如き重大な場合を慮り次の条件を附して加盟を許可する。

1 全学連規約第12条の決定その他の指令にして、本学の授業および学習に影響ある事項については、学生準則に従うことは勿論であるが、全学連規約第12条第2項の趣旨に従って学生大会を開く場合は、それに先だち、学生自治会は必ず学部別に学生代表者の会議を開き、その決定または指令の妥当性について討議し、その行動の自由を留保するか否かを各別に決定しなければならない。

1 前項の討議を行なうに先だち、またその結果については自治会執行委員会は、本学学生部長を通じて学生委員会に報告し、かつ大会の開催等自治会のとるべき行動について学生委員と協議しなければならない。

以上の報告並に協議は、学生自治会または学生委員会の何れの側の発意によっても行なわれねばなら

ない。

以上の協議を経ず、またはその協議の結果に反して行われた行動は、大学学則第15条に該当する「学校の秩序を乱し、その他学生の本文に反するもの」と見做されるので、協議の実行は厳守されねばならない。

1 学生自治会は、新学生の意思を尊重するため、毎年度定例学生大会において、全学連加盟の存続可否について決定しなければならない。

1 学生自治会は、学生個人の自由が十分に保障されるよう将来学生自治会の構成・組織・運営についてその規約を改正しなければならない。

1 学生自治会執行委員会は、全学連加盟を申請する際以上の条件を全学連に対して申添えねばならない。

なお、本条件の解釈について疑義を生じ、その正当な履行を阻害するおそれある事項については別項に付記する事項を参照しつつ措置するものとする。

以上の決定は、本学学生の自治会活動が健全なる発達を遂げると共に自治会が大学および学生大衆に対して責任ある行動をなし、外部の政治的活動等のために大学の教育的使命に聯かなりとも支障を来たすことをなからし

めんための配慮から行なわれたものである。

自治会各委員並に全学生各位の深甚なる考慮を期待する次第である。

昭和31年9月27日

お茶の水女子大学

付 記 事 項

以上の条件を受け入れるに当って学生自治会より次のような条件の申入れがあった。

1 自治会は以上の五条件を十分に尊重しその実行に努力する。

1 第2項の学生委員会との協議においては一致点に達するよう十分に努力する。

1 五条件の適用に際し自治会の自主的かつ民主的運営が阻害されてはならない。

上記の申入れに対しこれを十分に尊重する。

なお上の付記事項に対して疑義を生じた場合自治会規約第29条により協議するものとする。

昭和32年5月11日

お茶の水女子大学

(註) 全学連規約

第12条

1 地方都府県学連及び各自治会の機関はこの連合の全国大会、中央委員会の決定に原則として従わなければならない。

2 地方都府県学連及自治会は、それぞれの最高の決議機関で決定した場合には全国大会の決定に対して行動の自由を保留することができる。但し、この場合は中央執行委員会にその理由を明示しなければならない。

11. 学生委員会規程

第1条 本会は、学生委員会と称し、学生の厚生補導に関する事項を審議し、必要ある場合には学生部の活動に協力する。

第2条 本会は、次の委員を以て組織する。

1 文教育学部から3名、他学部から2名ずつ推薦された専任教員計7名

2 各学部から推薦された補導委員の代表者1名ずつ計3名

3 学寮委員から推薦された代表者1名

4 学生部長

前項第1号該当者が第2号又は第3号の代表者に推薦された場合は、これらの資格を兼ねてもよい。

第3条 委員の任期は、1年として再任を妨げない。補欠委員の任期は、前任者の残存期間とする。

第4条 委員の互選によって委員長及び副委員長を定める。

第5条 委員長は、委員会を招集しその議長となる。委員長事故あるときは副委員長がこれに代る。

第 6 条 委員 3 名以上の申出があったときは、委員長は、委員会を招集する。

第 7 条 学長、学部長は、随時出席することができる。その他の職員は、委員長の請求又は了解があったときに出席する。

第 8 条 本会は、第 1 条の使命を達成するために次のこと等を行なう。

- 1 学長から諮問された問題を審議し又は自分的に意見を進言する。
- 2 学生部長提案の協議に応じ、又は自発的に助言する。
- 3 学生部から報告を受け又は資料の提供を求める。
- 4 補導委員と連絡をとる。
- 5 学生と連絡懇談を行なう。
- 6 必要ある場合には学生部の活動に協力する。
- 7 その他学生の厚生補導に必要と認められる事項を調査研究する。

第 9 条 本会に幹事をおき、学生課長および厚生課長がこれに当る。幹事は、委員長の命をうけて事務を処理する。

附 則

- 1 本規程は、昭和 27 年 8 月 9 日より実施する。
- 2 補導協議会規程は、廃止する。

12. 学寮委員会規程

(昭和 40 年 9 月 15 日評議会決定)

お茶の水女子大学学寮規程第 3 条の規定に基づき、学寮委員会規程を次のとおり定める。

第 1 条 学寮委員会（以下「委員会」という。）は、学寮の管理運営の基本的事項について審議し、学寮自治生活の向上のためその具体的方策をはかる。

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 1 各学部選出の教官 各 2 名
- 2 学生部長
- 3 委員会は、前項の委員の互選により正副委員長を選出するものとする。
- 4 事務局長は、委員会に出席するものとする。

第 3 条 前条第 1 項第 1 号の委員の任期は、1 年とし、再任を妨げない。

補欠委員の任期は、前任者の残存期間とする。

- 第 4 条 委員長は委員会を招集し、その議長となる。
- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長事故あるとき

これに代わる。

第 5 条 委員 3 名以上の申し出があったときは、委員長は、委員会を招集するものとする。

第 6 条 学長、学部長及び学生委員長は、随時委員会に出席することができる。

2 委員会は、必要に応じ前項に定める者以外の教職員を招いてその意見をきくことができる。

第 7 条 委員会は、その構成委員 5 名以上の出席をもって成立する。ただし、第 2 条第 1 項第 1 号の委員については、各学部それぞれ 1 名の出席がなければならない。

第 8 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 1 学寮規程第 6 条第 2 項（及び学寮規程細則第 1 条）に係る学寮自治規約の承認に関すること。
- 2 学寮規程第 7 条第 2 項に係る入寮の選考および許可に関すること。
- 3 学寮規程第 10 条第 3 項に係る退寮に関すること。
- 4 学寮に関する諸規程及び細則の制定改廃に関すること。
- 5 学寮協議会の開催及び協議事項等に関すること。
- 6 寄宿料の免除に関すること。

- 7 学寮の施設、設備に関すること。
- 8 学寮における保健衛生、災害対策に関すること。
- 9 学寮勤務者に関すること。
- 10 その他学寮生活に関すること。

第 9 条 委員会は、学長、評議会、教授会もしくは学生委員会等から提案された事項につき審議し、又は自発的に進言することができる。

第 10 条 委員会に関する庶務は、学生部厚生課が行なう。

附 則

- 1 この規程（以下附則において「新規程」という。）は、昭和40年10月31日から施行する。
- 2 昭和28年7月8日施行のお茶の水女子大学寮務委員会規程（以下附則において「旧規程」という。）は、廃止する。
- 3 旧規程に定める寮務委員会によって、審議中の事項で、新規程施行後引続き審議を要する事項については、新規程に定める学寮委員会において審議するものとする。

13. ヘルスセンター運営委員会規程

第 1 条 お茶の水女子大学（以下「本学」という。）ヘルスセンターの適正な運営を図るため、本学にヘルスセンター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第 2 条 委員会は、本学における次に掲げる事項について調査審議し、学長の承認を得てその実施に当る。

- 1 ヘルスセンターの行なう事業計画に関する事項
- 2 ヘルスセンターの人事に関する事項
- 3 ヘルスセンターの予算に関する事項
- 4 ヘルスセンターの施設設備に関する事項
- 5 委員会の規程の改廃に関する事項
- 6 その他運営に関し重要と認める事項

第 3 条 委員会は、本学の教職員及び学生のうちから次の各号に掲げる委員20名以内をもって組織し、学長が任命する。但し、教職員のうちから任命される委員若干名は女子の教職員をもって充てなければならない。

- 1 学部代表教官 各 1 名

- 2 学部代表学生 各 1 名
- 3 学生委員長
- 4 学寮委員長
- 5 校 医
- 6 事務局長
- 7 学生部長
- 8 学識経験のある者 9名以内

2 特別の事項を調査審議するため必要があるときは、委員会に臨時委員を置くことができる。臨時委員は、学識経験のある者のうちから学長が任命する。

第 4 条 委員の任期は、2年とする。但し、再任されることを妨げない。

- 2 前項の委員に欠員を生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残存期間とする。
- 3 臨時委員は当該特別の事項に関する調査審議が終了ときは退任するものとする。

第 5 条 委員会は、委員長及び副委員長各1名を置き、委員の互選によって第3条第1項第1号ならびに同条同項第8号に掲げる委員のうちからこれを定める。

2 委員長は、委員会の会務を総理し、副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代

理する。

- 3 委員長及び副委員長の任期は、各1年とする。
- 第 6 条 委員会に次のとおり分科会を置く。

分科会の名称	分 担 事 項
健康管理分科会	健康管理及び指導に関する事項
レクリエーション分科会	生活環境ならびにレクリエーションに関する事項
相談分科会	相談助言に関する事項

第 7 条 第3条第1項第8号に掲げる委員及び第3条第2項に掲げる臨時委員は、学長の指名により前条に掲げる分科会のいずれかに分属するものとし、各分科会に主任を置き、それぞれの分科会に属する委員及び臨時委員の互選によってこれを定める。

2 委員長及び副委員長は、必要があると認めるときは、いずれの分科会にも出席することができる。

第 8 条 委員会は、委員長の承認を得て分科会の議決をもってその議決とすることができる。

第 9 条 委員会及び分科会は、委員長が必要と認めるとき、又は委員及び議事に関係のある臨時委員の過半数の要求があったときに委員長が招集する。

2 委員会及び分科会は、委員及び議事に関係のある臨

時委員の過半数が出席しなければ議事を開き議決することができない。

3 委員会及び分科会の議事は、出席した委員及び臨時委員の過半数で決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

第 10 条 委員会又は分科会は、委員長が必要と認めるときは委員以外のものを出席させその意見を聞くことができる。

第 11 条 委員会に顧問を置くことができる。

2 顧問は、委員会の推せんにより学長が委嘱し、ヘルスセンターの事業について重要な施策に参画する。

第 12 条 委員会の庶務は、学生部において処理する。

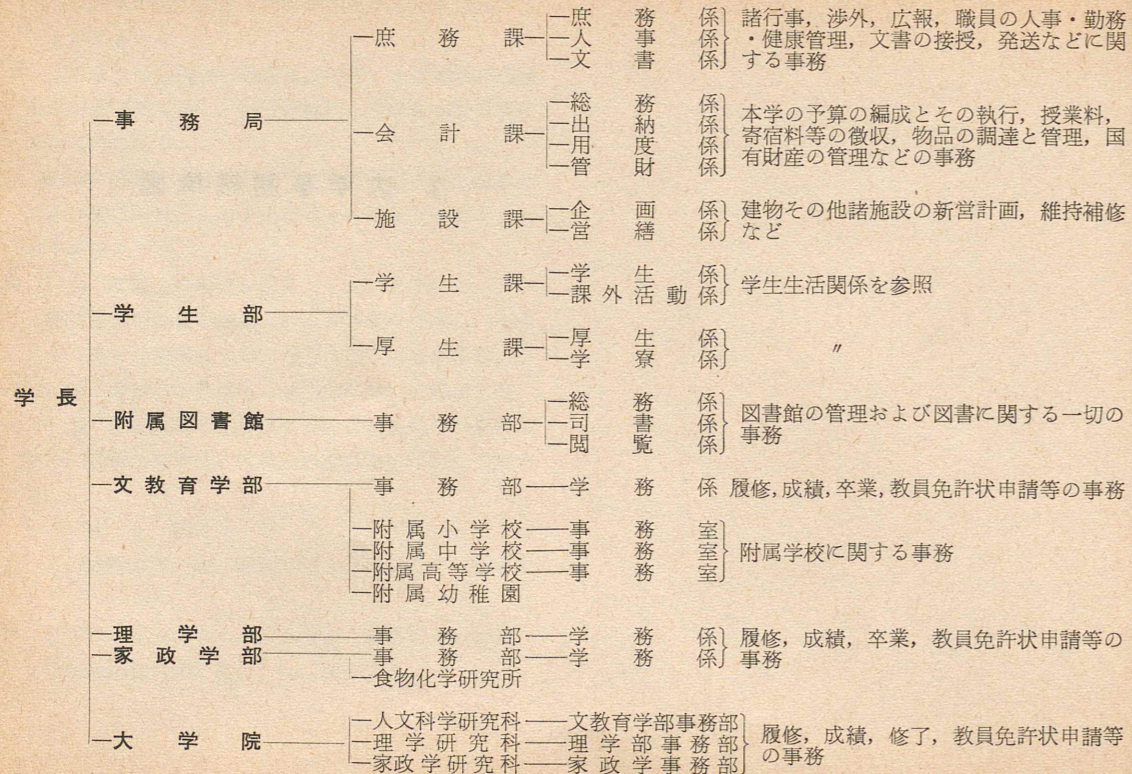
第 13 条 この規程に定めるもののほか委員会の運営に関し、必要な事項は、委員長が委員会にはかって定める。

附 則

1 この規程の改正は、昭和37年2月14日より施行する。

2 お茶の水女子大学ヘルスセンター運営委員会規程（昭和31年12月20日施行）は、廃止する。

Ⅱ 大学事務機構図



履修上の事務は各学部事務部で取扱われます。各事務部では、教務関係のを中心として、下記の事がらを取扱っています。その中で学生に関係の深いもののみを説明します。

Ⅲ 履修上の手続について

授業時間割, 入学および卒業, 編入学, 転科転学部, 学科履修および試験, 成績管理, 免許状, 証明書(卒業・成績)発行, 委員会(教務・一般教育・教職課程・教育実習等), 教授会, 科学研究

1 授業時間割の発表

専門科目については、前期・後期の各授業開始日より1, 2日前に各学科研究室前に発表されます。
一般教育科目・外国語・体育及び教職の科目の時間割は、別冊「開講科目」の巻末に印刷してあります。

2 学科履修について

- (1) 履修科目の決定
授業時間割を基礎にして、**教官の指導**をうけ、この冊子の「学科課程」「学部履修規程」「教育職員免許状について」別冊の「開講科目」を研究し各自の履修科目をきめることとなります。
- (2) 学生が学部事務部から受けとるもの
A 履修カード(各学部共通)これに科目名, 教官

名等を記入する。

注1. 履修カード未提出者は試験を受けられない

注2. 履修カード未提出者の採点は依頼しない

注3. 授業に出ているも試験を受けない場合を聴講といい、履修カードの記入は朱書する。

B 履修簿 各学部の全科目名と成績記入欄を印刷したもの。学生は履修カードを提出した科目に○印をつけ、教官名を記入する。

(3) 履修の手続

履修簿・カード等を各学部事務部へ提出→事務部でカードの乙片を保管、甲片を教官へ渡す→約1年後の新学年はじめ、事務部で履修簿に成績を記入して学生へ渡す。

(4) 提出の期間

履修簿は、前期授業開始の日から1か月以内に、履修カードは前後期それぞれ1か月以内に各学生が事務部から受けとり、必要事項を記入して、提出を終らねばなりません。(便宜上、学生の各学科代表者にまとめて受け渡す。)

(5) 履修科目の取消時期

履修科目のうち、何かの事情で履修を取止めたり定期試験を受けられないときは、遅くともその試験

の前日までに、履修科目の「取消願」を提出しなければなりません。「取消願」の用紙に担当教官の認印をもらって甲片を教官へ、事務用の乙片を事務部に差出します。

注1. 遅くとも試験前1～2週間前に教官の認印をもらっておくこと。

注2. 「取消願」を提出しないときは、成績原簿の記事が抹消されない。

(6) 追試験について

病気その他やむをえない理由によって、定期試験を受けられなかった人は、希望すれば追試験を受けることができます。三年以下の場合は一週間以内に、卒業予定者は直ちに申し出ること。一般教育の場合には「追試験願」に科目担当教官の認印をもらい、試験日時を打合せ、事務部に提出する。専門科目の場合は直接担当教官に申し出る。いずれの場合も「やむをえない理由」を証明する書類をつけます。

3 教員免許状のための科目履修

卒業に必要な科目および単位数と、教員免許状取得に必要な単位数とは、必ずしも一致しません。教員免許状志望者は「教育職員免許状について」や「学科課

程」をよく照合して、自分の希望する免許状の種別とそれに必要な履修方法を研究してください。その際、同別表の「学科別免許教科取得表」において○印のついていない教科を取得したいものは、その教科の関係教官の指導の下に履修を行なうことになっています。

入学当初は、免許状に関心のない人も、卒業まぎわに欲しくなることが多いのです。そうなるとかなり無理な履修をすることにもなります。必要な単位が少しでも欠けると卒業できないように、必修の単位や全体の単位数が不足すれば免許状は貰えません。早めに方針を立てることが必要です。

なお、教職教育科目のうち「教科教育法」(各免許教科ごと)の講義を第3年次に履修していなければ、第4年次に「観察参加」と「教育実習」を履修することができないから、注意して下さい。

4 授業と休業日について

定期休業日は「学則」の中に定められています。しかしいろいろな行事や事由のため臨時に授業が休みとなる場合があります(半日全日等)、春、夏、冬の休業期間の始めや終わりも必ずしも学則どおりに行かない場合もあるのです。それらはすべて「学部事務部」を通して掲示されます。

教官が病気その他のため休講するときは、教官からの連絡により、事務部前に掲示されます。

5 定期試験について

学年を分けて、10月20日までが前期、21日以後が後期です。各期の終りに定期試験の期間が1週間ずつ設けられています。

各科目とも、前期後期それぞれの終了時に試験を行なうのが原則ですが、前期末の試験を省く科目もあります。

前期だけで終る科目は、もちろん前期末に試験を行ないません。

これらの試験は、その期間内の平常の時間割で行なわれるのが通例です。学生は、事前に教官と必ず打合せ、筆記試験・レポートの別、その日時・場所について承知しておかねばなりません。前期末の試験は、10月10日までに終り、そのあと10日間試験休みとなり、後期末は卒業修了予定(専攻科学生等を含む)学生の試験は2月中旬までに行ない、第3年生以下の試験は2月下旬に行ないません。

6 転科(転学部)について

自分の学力・適性が所属する学科に向かず、むしろ他の学科又は他学部に転ずる方がよいと思われる場

合、学生はその希望を**学科主任教官**または**補導教官**に申し出ることができる。主任教官等は相手学科の主任教官と打合せ、学生本人の入学試験以来の成績、学力および適性、学科の定員関係等を検討し、了解が成り立った時それを教授会へ提出して手続を進めます。

転科希望者は「**転科願**」をあらかじめ（前年度2月末日までに手続をすること）事務部に提出しなければなりません。この転科の取扱いは、在学1か年以上の学生について、毎年行なわれますが、転科後は少なくとも2か年以上在学することが必要とされています。

7 証明書の発行

学生、卒業生等が卒業（見込）証明書、成績証明書、単位修得（見込）証明書等を希望するときは、学部事務部備付けの「**証明書交付申込簿**」に記入しなければなりません。卒業証明書は大たいその日に、成績証明書は4日目（ただし土曜午後・日曜は除く。）までに作成します。

8 教務関係事務の相談

履修上の各種の疑問は、主任教官等や学部事務部に問合せ、事務部で解決できないときは、委員会や教授会等にはかりますから、相談して下さい。

9 掲示の場所

事務部が学生に連絡する事項は事務部の廊下に掲示します。重要なことや学部共通のことは、屋外掲示板にかかげることもあります。見落しのないよう毎日一度は掲示に注意して下さい。

附

「**体育第二コース**」の履修について

体育の実技の履修科目として、授業時間中に履修する「**第一コース**」と、各種の機会に履修する「**第二コース**」があって、具体的日程は別冊「**開講科目**」に記載されています。

両コースとも体育教官が指導するが、特に「**志賀高原体育運動場**」において履修することについて、次のようになっています。

同運動場（通称**山小屋**）において、体育学科以外の本学教官が学生とともに起居し、その間体育的な活動をも兼ねて指導した場合には、当該教官の通報に基づき、体育主任は参加学生に対して「**第二コース**」所定の基準による単位時間数を認めることができるようになっています。

転 科 願

昭 和 年 月 日

お茶の水女子大学長殿

(学科主任印) 学部 学科 (専攻)

◎ (転入学科) 昭和 年度入学

◎ (転出学科) 氏名

このたび 学部 学科 (専攻) に転科いたしたいと思いますがお許しくださるようお願いいたします。

氏名 ◎

Ⅳ 図書館の利用について

高等学校の図書室では自由接架式に慣れてこられたと思いますが、この図書館は原則として出納式で、殆んどの本は書庫に入っています。しかし、参考図書室とフィクションコーナーは自由接架式になっています。

参考図書室には利用度の高い辞書事典・統計・索引・地図類と、指定図書（教授指定の参考書）が置いてあります。この室に入るには、入口で閲覧票または身分証明書を提出し、ロッカーに携帯品を入れて、ノート・鉛筆等だけで入ります。室内の書棚の図書は自由にとり出してみるのです。自分の調べる事柄が何の本に出ているかわからないとか、この図書館にない文献はどこへ行けばみられるかということは、係員にきいて下さい。

フィクションコーナーは、内外の小説類教養の糧ともなるべき図書約3,000冊を並べてあり、自由に手にとって選べます。この本は目録では分類記号の前にO又はSという字がついています。 $\frac{OC40}{272}$ とか $\frac{S913.6}{A12}$ という具合です。この本を借りたい人は参考図書室の係員に借覧証をお出し下さい。返却は他の本と同様に台へお返し下さい。

書庫に入っている本については、**カード目録**でかかすのです。カード目録には、書名目録、分類目録、人名目録、件名索引があります。カード右上の**配備部局**という

所に、「哲学」「数学」「庶務課」など書いてある図書は、現在図書館にないので、その本を読みたい時はその部局へ行って閲覧を願い出て、それぞれの研究室の閲覧に関する規則に従って下さい。但しその場合はその研究室や教官の都合を十分きいて支障のある場合には閲覧を遠慮して下さい。

配備部局という所が空欄になっている図書が、図書館にある図書です。図書館の図書を借りるのには、**図書借覧証**に書名、請求記号、冊数、閲覧年月日などを記入し署名の上係員に差し出して借り受けて下さい。閲覧には館内と館外の2種があって、借覧証も黒線の館内用、朱線の館外用の2種がありますから注意して下さい。

館内閲覧のために借り受けられる冊数は、学生1名につき5冊以内で、この本は館外に持ち出してはいけません。閲覧室は明るく大きくて、十分の座席が設けてあります。

館外閲覧（持出）のために借り受けられる冊数は学生1名につき3冊以内で、**返納期限**は1週間以内です。

特に必要度の高い図書は3日以内です。ほかの利用者のことを考えて、期限は必ず守って下さい。館外閲覧の場合は図書の借受及び返納の都度**図書閲覧票**を係員に提示して、必ず検印を受けて下さい。

雑誌は館内閲覧に限ります。2階の出納室にある雑誌は、係員に出してもらって自分で記帳し、返すときも自分で消して下さい。ロビーの奥の新聞雑誌閲覧室の新聞雑誌は自由にご覧下さい。

その日より以前の新聞及び縮刷版は2階の出納台にお申し出下さい。

内外大学・研究所の紀要類・官庁出版物などは1階資料室にありますから、1階受付にお申し出下さい。

図書館の中では**館内規律**をお守り下さい。館内で静粛にすること、飲食をしない等当然のことですが、ロビーでは静かに談笑することなどはかまいません。ノートのみ合せなども結構です。

なお、図書館については図書館手帳にくわしく書いてありますから、よく読んで規則を守って下さい。わからないことは何でも係員におたずね下さい。必ず親切に返事をいたします。



学生生活関係

V 学生生活関係

1 厚生補導機構	75
2 学 生 部	76
3 補 導 委 員	76
4 顧 問 教 官	77
5 課 外 活 動	77
6 ヘルスセンター	81
7 奨 学 金	87
8 学 資 貸 付 金	90
9 アルバイト	91
10 授業料免除等	92
11 宿 舎	95
12 食 堂	98
13 学 生 証	102
14 通学証明書・学割証	103
15 在学証明書	104
16 休学・退学・他大学への転学	104
17 身上の異動について	106
18 そ の 他	106
19 諸 手 続 一 覧	107



1. 厚生補導機構

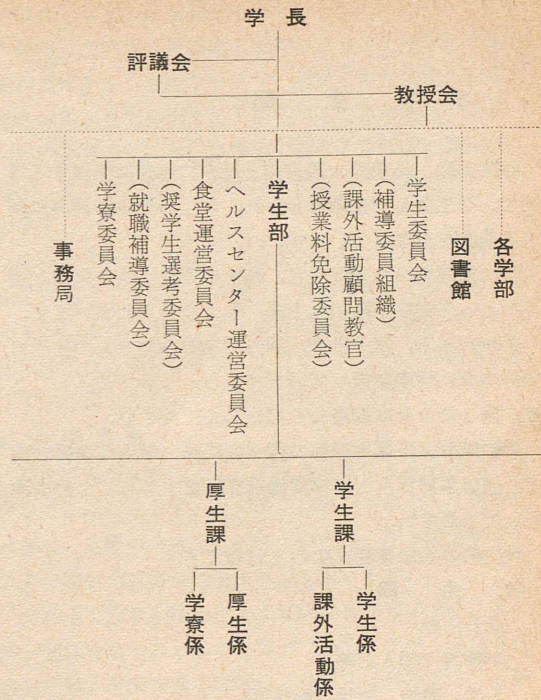
学生時代には、教室で深い教養を身につけ、専門の学術研究に励むのが第一ですが、いっぽう、その余暇に課外活動や交友その他日常の生活を通じて、人格形成の糧を得、貴重な社会的経験を深めていく面も、それに劣らず大きな比重をしめています。

この両面の成果をあげるために、大学には右の図に示すような厚生補導機構があります。

学生に関係の深い事柄については、それぞれ委員会が設けられていて、関係教官によって慎重に審議されます。

各クラスには補導委員があり、文化部、運動部の学生団体には顧問教官があって学生からの相談に応じています。

又修学途上においては心身共にいろいろ困難な問題に出会うことがあります。そのような時にはもちろん補導委員に相談してよいのですが、その他にヘルスセンターの診療室や学生相談室があって専門的立場から相談に応じています。



附属部中少学

75	附属部中少学	1
76	附属部中少学	2
77	附属部中少学	3
78	附属部中少学	4
79	附属部中少学	5
80	附属部中少学	6
81	附属部中少学	7
82	附属部中少学	8
83	附属部中少学	9
84	附属部中少学	10
85	附属部中少学	11
86	附属部中少学	12
87	附属部中少学	13
88	附属部中少学	14
89	附属部中少学	15
90	附属部中少学	16
91	附属部中少学	17
92	附属部中少学	18
93	附属部中少学	19
94	附属部中少学	20
95	附属部中少学	21
96	附属部中少学	22
97	附属部中少学	23
98	附属部中少学	24
99	附属部中少学	25
100	附属部中少学	26
101	附属部中少学	27
102	附属部中少学	28
103	附属部中少学	29
104	附属部中少学	30
105	附属部中少学	31
106	附属部中少学	32
107	附属部中少学	33
108	附属部中少学	34
109	附属部中少学	35
110	附属部中少学	36
111	附属部中少学	37
112	附属部中少学	38
113	附属部中少学	39
114	附属部中少学	40
115	附属部中少学	41
116	附属部中少学	42
117	附属部中少学	43
118	附属部中少学	44
119	附属部中少学	45
120	附属部中少学	46
121	附属部中少学	47
122	附属部中少学	48
123	附属部中少学	49
124	附属部中少学	50
125	附属部中少学	51
126	附属部中少学	52
127	附属部中少学	53
128	附属部中少学	54
129	附属部中少学	55
130	附属部中少学	56
131	附属部中少学	57
132	附属部中少学	58
133	附属部中少学	59
134	附属部中少学	60
135	附属部中少学	61
136	附属部中少学	62
137	附属部中少学	63
138	附属部中少学	64
139	附属部中少学	65
140	附属部中少学	66
141	附属部中少学	67
142	附属部中少学	68
143	附属部中少学	69
144	附属部中少学	70
145	附属部中少学	71
146	附属部中少学	72
147	附属部中少学	73
148	附属部中少学	74
149	附属部中少学	75
150	附属部中少学	76
151	附属部中少学	77
152	附属部中少学	78
153	附属部中少学	79
154	附属部中少学	80
155	附属部中少学	81
156	附属部中少学	82
157	附属部中少学	83
158	附属部中少学	84
159	附属部中少学	85
160	附属部中少学	86
161	附属部中少学	87
162	附属部中少学	88
163	附属部中少学	89
164	附属部中少学	90
165	附属部中少学	91
166	附属部中少学	92
167	附属部中少学	93
168	附属部中少学	94
169	附属部中少学	95
170	附属部中少学	96
171	附属部中少学	97
172	附属部中少学	98
173	附属部中少学	99
174	附属部中少学	100
175	附属部中少学	101
176	附属部中少学	102
177	附属部中少学	103
178	附属部中少学	104
179	附属部中少学	105
180	附属部中少学	106
181	附属部中少学	107
182	附属部中少学	108
183	附属部中少学	109
184	附属部中少学	110
185	附属部中少学	111
186	附属部中少学	112
187	附属部中少学	113
188	附属部中少学	114
189	附属部中少学	115
190	附属部中少学	116
191	附属部中少学	117
192	附属部中少学	118
193	附属部中少学	119
194	附属部中少学	120
195	附属部中少学	121
196	附属部中少学	122
197	附属部中少学	123
198	附属部中少学	124
199	附属部中少学	125
200	附属部中少学	126
201	附属部中少学	127
202	附属部中少学	128
203	附属部中少学	129
204	附属部中少学	130
205	附属部中少学	131
206	附属部中少学	132
207	附属部中少学	133
208	附属部中少学	134
209	附属部中少学	135
210	附属部中少学	136
211	附属部中少学	137
212	附属部中少学	138
213	附属部中少学	139
214	附属部中少学	140
215	附属部中少学	141
216	附属部中少学	142
217	附属部中少学	143
218	附属部中少学	144
219	附属部中少学	145
220	附属部中少学	146
221	附属部中少学	147
222	附属部中少学	148
223	附属部中少学	149
224	附属部中少学	150
225	附属部中少学	151
226	附属部中少学	152
227	附属部中少学	153
228	附属部中少学	154
229	附属部中少学	155
230	附属部中少学	156
231	附属部中少学	157
232	附属部中少学	158
233	附属部中少学	159
234	附属部中少学	160
235	附属部中少学	161
236	附属部中少学	162
237	附属部中少学	163
238	附属部中少学	164
239	附属部中少学	165
240	附属部中少学	166
241	附属部中少学	167
242	附属部中少学	168
243	附属部中少学	169
244	附属部中少学	170
245	附属部中少学	171
246	附属部中少学	172
247	附属部中少学	173
248	附属部中少学	174
249	附属部中少学	175
250	附属部中少学	176
251	附属部中少学	177
252	附属部中少学	178
253	附属部中少学	179
254	附属部中少学	180
255	附属部中少学	181
256	附属部中少学	182
257	附属部中少学	183
258	附属部中少学	184
259	附属部中少学	185
260	附属部中少学	186
261	附属部中少学	187
262	附属部中少学	188
263	附属部中少学	189
264	附属部中少学	190
265	附属部中少学	191
266	附属部中少学	192
267	附属部中少学	193
268	附属部中少学	194
269	附属部中少学	195
270	附属部中少学	196
271	附属部中少学	197
272	附属部中少学	198
273	附属部中少学	199
274	附属部中少学	200
275	附属部中少学	201
276	附属部中少学	202
277	附属部中少学	203
278	附属部中少学	204
279	附属部中少学	205
280	附属部中少学	206
281	附属部中少学	207
282	附属部中少学	208
283	附属部中少学	209
284	附属部中少学	210
285	附属部中少学	211
286	附属部中少学	212
287	附属部中少学	213
288	附属部中少学	214
289	附属部中少学	215
290	附属部中少学	216
291	附属部中少学	217
292	附属部中少学	218
293	附属部中少学	219
294	附属部中少学	220
295	附属部中少学	221
296	附属部中少学	222
297	附属部中少学	223
298	附属部中少学	224
299	附属部中少学	225
300	附属部中少学	226
301	附属部中少学	227
302	附属部中少学	228
303	附属部中少学	229
304	附属部中少学	230
305	附属部中少学	231
306	附属部中少学	232
307	附属部中少学	233
308	附属部中少学	234
309	附属部中少学	235
310	附属部中少学	236
311	附属部中少学	237
312	附属部中少学	238
313	附属部中少学	239
314	附属部中少学	240
315	附属部中少学	241
316	附属部中少学	242
317	附属部中少学	243
318	附属部中少学	244
319	附属部中少学	245
320	附属部中少学	246
321	附属部中少学	247
322	附属部中少学	248
323	附属部中少学	249
324	附属部中少学	250
325	附属部中少学	251
326	附属部中少学	252
327	附属部中少学	253
328	附属部中少学	254
329	附属部中少学	255
330	附属部中少学	256
331	附属部中少学	257
332	附属部中少学	258
333	附属部中少学	259
334	附属部中少学	260
335	附属部中少学	261
336	附属部中少学	262
337	附属部中少学	263
338	附属部中少学	264
339	附属部中少学	265
340	附属部中少学	266
341	附属部中少学	267
342	附属部中少学	268
343	附属部中少学	269
344	附属部中少学	270
345	附属部中少学	271
346	附属部中少学	272
347	附属部中少学	273
348	附属部中少学	274
349	附属部中少学	275
350	附属部中少学	276
351	附属部中少学	277
352	附属部中少学	278
353	附属部中少学	279
354	附属部中少学	280
355	附属部中少学	281
356	附属部中少学	282
357	附属部中少学	283
358	附属部中少学	284
359	附属部中少学	285
360	附属部中少学	286
361	附属部中少学	287
362	附属部中少学	288
363	附属部中少学	289
364	附属部中少学	290
365	附属部中少学	291
366	附属部中少学	292
367	附属部中少学	293
368	附属部中少学	294
369	附属部中少学	295
370	附属部中少学	296
371	附属部中少学	297
372	附属部中少学	298
373	附属部中少学	299
374	附属部中少学	300
375	附属部中少学	301
376	附属部中少学	302
377	附属部中少学	303
378	附属部中少学	304
379	附属部中少学	305
380	附属部中少学	306
381	附属部中少学	307
382	附属部中少学	308
383	附属部中少学	309
384	附属部中少学	310
385	附属部中少学	311
386	附属部中少学	312
387	附属部中少学	313
388	附属部中少学	314
389	附属部中少学	315
390	附属部中少学	316
391	附属部中少学	317
392	附属部中少学	318
393	附属部中少学	319
394	附属部中少学	320
395	附属部中少学	321
396	附属部中少学	322
397	附属部中少学	323
398	附属部中少学	324
399	附属部中少学	325
400	附属部中少学	326
401	附属部中少学	327
402	附属部中少学	328
403	附属部中少学	329
404	附属部中少学	330
405	附属部中少学	331
406	附属部中少学	332
407	附属部中少学	333
408	附属部中少学	334
409	附属部中少学	335
410	附属部中少学	336
411	附属部中少学	337
412	附属部中少学	338
413	附属部中少学	339
414	附属部中少学	340
415	附属部中少学	341
416	附属部中少学	342
417	附属部中少学	343
418	附属部中少学	344
419	附属部中少学	345
420	附属部中少学	346
421	附属部中少学	347
422	附属部中少学	348
423	附属部中少学	349
424	附属部中少学	350
425	附属部中少学	351
426	附属部中少学	352
427	附属部中少学	353
428	附属部中少学	354
429	附属部中少学	355
430	附属部中少学	356
431	附属部中少学	357
432	附属部中少学	358
433	附属部中少学	359
434	附属部中少学	360
435	附属部中少学	361
436	附属部中少学	362
437	附属部中少学	363
438	附属部中少学	364
439	附属部中少学	365
440	附属部中少学	366
441	附属部中少学	367
442	附属部中少学	368
443	附属部中少学	369
444	附属部中少学	370
445	附属部中少学	371
446		

2. 学 生 部

学生部は、事務局・図書館とともに学長に直属する機関で、学生課と厚生課にわかれ、学生の厚生と補導に関する業務を行なっています。

常に補導委員や顧問教官、種々の委員会等と緊密な連絡をとって学生生活の向上を計るよう努力しています。

アルバイト、奨学資金、課外活動等みなさんの生活に関係の深い仕事を扱っていますから、わからないことや、困ったことは遠慮なく相談してください。

学生課および厚生課前の掲示板には、学生部関係の重要な連絡事項が、その都度掲示されますから、つねに注意してください。

学生部の主な業務は次のとおりです。

学 生 課

課外活動

学籍簿（個人記録）

入学、退学、休学、転学等

学生の相談

授業料の免除、徴収の猶予又は分納

学生証、通学証明書、旅客運賃割引証

外国人学生

厚 生 課

学生の健康管理

奨学金

就職、アルバイト

学・寮

食 堂

3. 補 導 委 員

各学科学年別に補導委員があり、次のような組織で定められています。

各クラスの補導委員は別冊の開講科目に記載されています。

補導委員組織

1 専攻学科別に補導委員を置く。

委員は大学教授・助教授・専任講師でその所属学科主任の推挙した者。

2 委員選出の方法

学科主任が各年次の責任者を決定する。

3 委員の任務及び任期

任 務 学生生活の向上に関する学生の補導（学習上、健康上の問題、育英奨学金の世話、その他一般的補導）

任 期 委員の任期は一年とする。但し、重任を妨げない。

4. 顧 問 教 官

自治会文化部・運動部等に属する学生団体の各々には顧問教官があります。顧問教官には団体のメンバーが最も適当と思われる先生を依頼しています。団体の活動については先生と十分に連絡をとって課外活動の成果をあげてください。

5. 課 外 活 動

（担当・学生課課外活動係）

大学の四か年在学中勉学の余暇を利用して正課以外の学術・社会・芸術・宗教・スポーツ・レクリエーションなどに関する活動に参加する経験は、豊かな人間性を育

てるために重要な意味をもつといわれています。

学生は入学すると同時にお茶の水女子大学学生自治会の一員になることとなります。自治会では毎週一回各学部各学科から学年別に出ている64名の自治委員が集まって自治委員会を開き、全学生の社会的な要求や経済的な要求、または学問的な要求などに応じて討議を行なっています。

お茶の水女子大学学生自治会の活動には学生生活の向上を目的とする自治会活動と、共通な興味と目的の下に全学的に集り、協力してその目的の達成に動いている文化部活動及び運動部活動があります。これらの課外活動は学生会館を中心として行なわれています。

自治会活動

自治委員会を中心とし、クラス討議による全学生の意見をここに反映させ、その決定は執行部によって執行されます。活動の大きな方針については、年2回定例学生大会を開いて直接全学生に意見を求めます。

自治会で取り上げられたことは現在将来の学生生活に深い関係をもつことになるのですから、すべての学生は自治活動の意義を深く理解し、全学生の声が正しく反映されるよう、自治委員の決め方・クラス討議・学生大会への出席等について充分考えてください。

どんな場合でも大学との関係は信頼と理解であって、学生委員会と自治委員会または執行部はよく懇談会を開いて隔意のない話し合いをしています。委員の学生はこういうときには是非出席して意見を交換し、学生委員会の先生方の声をクラスに伝えてください。

文化部活動、運動部活動

みなさんの負担している自治会費の中から補助をうけて文化部、運動部は次のような活動をしています。

文化 部

哲学研究班・カトリック研究会・プロテスタント聖書研究会・社会科学研究会・E. S. S. ロールベールクラブ・ドイツリートの会・新聞部・美術部・写真部・演劇研究会・華道部・お茶大はとの会コーラス・氷川下セツルメント・マスコミュニケーション研究会・お茶大コンコルディア・箏曲部・児童文化研究会・お茶の水女子大学管弦楽団・茶道部・日本舞踊研究班・榎水会・ギタークラブ・エスペラントクラブ・八千代町セツルメント・部落問題研究会・アジア問題研究会

運 動 部

バレーボール部・バスケットボール部・軟式庭球部・硬式庭球部・卓球部・ダンス部・スケート部・ワンダーフォーゲル・山岳部

同 好 会

あらぐさ・教育問題研究会・山谷地区研究会・雑誌部・書道部・水泳部・第三文明研究会・旅の会・中国研究会・ユネスコ研究会・ピアノ班・歴史研究会

以上の部活動団体の他に自治会に属さないで活動している団体もあります。

以上の各班は日常定期的に集会をもっていますが秋には徽音祭（開学記念行事）といって体育祭、文化祭を全学的に催します。

学内におけるこれらの学生活動が、それぞれ円滑に行なわれるために学生準則があります。

学生準則にかかわる問題がおこったとき、または自治会等に問題があるときは、学生委員会と執行部は協議会を開いてその解決に向けて努力しています。

課外活動に関する手続きの主なもの

団体の設立について——(学生準則参照)

団体を設立しようとするときは、顧問教官を定めて、所定の様式に記入し、規約・名簿等を添付し、自治会の承認をえて学生課に提出してください。

顧問教官に願ひする先生が見つからないで団体の設立に困るときは、学生課に相談に来てください。毎年5月末に団体更新届を出すことになっています。

この届を出さないと公認団体としての活動ができなくなります。

集会について——(同)

集会は主に学生会館で行なわれています。

学生会館を使用するときは、学生会館のとりきめにしたがってください。

本館その他の施設を使用するときは、集会届に記入し、顧問教官の認印をうけて学生課に提出して下さい。施設にはそれぞれ管理する部局があり、借りる場合にはその承認が必要ですので、学生課の認印をうけたら借りようとする部局の承認をえてください。集会届はおそくとも二、三日前には出してもらいますが、外部の人が交わる場合は管理上手続きが簡単でないので必ず規定どおり8日前に提出してください。

集会では、備品の管理と、火気に充分注意し、また器物を破損したときはすぐ学生課（時間外の場合は宿直室）へ届けてください。

掲示について——(同)

用紙は新聞1頁大以下のものをもちい、なるべく大勢の人が利用できるようにしてください。大書した字や色彩のつよい掲示しか目に入らない、ということのないようにしたいものです。

掲示内容に事実と誤りがあるもの、あきらかに他人の迷惑となるもの、掲示の責任者が明記されていないもの、公認団体でないもの等は注意をうけます。

掲示板には自治会管理のものど一般掲示板とがあります。自治会の掲示板には、自治会活動（課外活動を含む）のものを掲示し、自治会が管理します。

一般掲示板に掲示するときは、学生課で捺印して、掲示期間、掲示場所等を書き入れます。

立看板については一般掲示と同様に取り扱います。

掲示は必ず所定の掲示板に掲示し、それ以外のところには掲示しないようにしてください。

期間のすぎた掲示は各自責任をもってとりはがしてください。

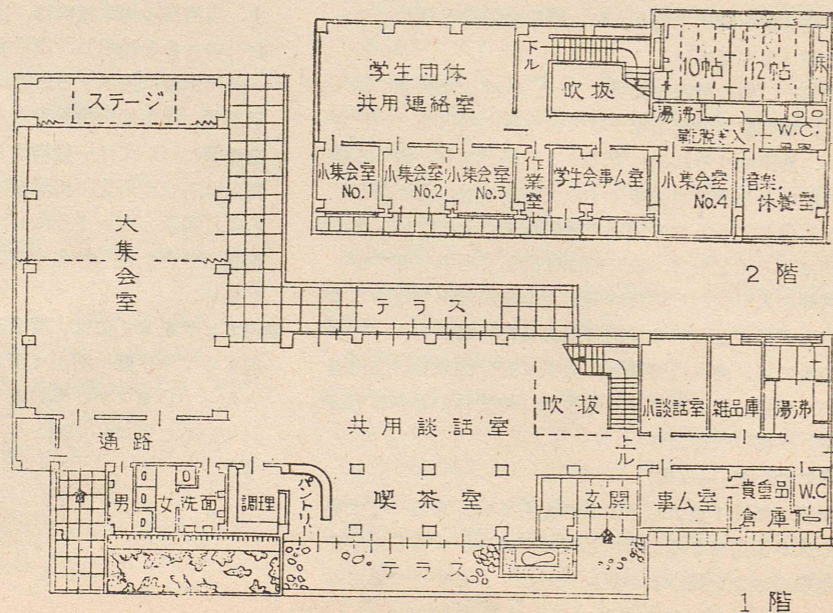
学内でビラをまくには、署名運動等をするには——(同)

前もって学生課に届出て下さい。これらは自治会管理となっていますが、学校としては管理上学内で行なわれていることは一応知っていなければならないのです。

学生会館

学生会館は昭和35年3月竣工し、その規程等の未制定のため36年4月から臨時開館され臨時運営委員会によって運営されている。

各階面積	
1 F L.	578m ²
2 F L.	342m ²
計	920m ²



6. ヘルスセンター

図書館を左に見てコンクリートの坂道を上ると、学生会館と対して、右側に芝生を前にして明るいグリーン色のバンガロー式の建物が見えるでしょう。これがヘルスセンターの建物です。

ヘルスセンターは、みなさんの健康に関する一切の相談を受け、適切な処置をするために設けられた施設です。

健康というとすぐ身体的なものだけを考えがちですが私たちは精神的な健康のことも含めて考えています。

そこで中央の緑十字のガラスのドアをはいると、向って左側がレントゲン室、診療室と休養室で右側が測定室と学生相談室です。診療室や休養室はもちろんみなさんが身体に異常を感じられた時、又はそれほどなくてもひどく疲れ気味になったり気分が悪かったりする時に、診断や治療や休養をするための施設です。測定室はみなさんの健康に関する記録を備えてみなさんが自分で健康を管理するための設備です。学生相談室に診療室が主として身体に関する病理的診療をするのに対して、それ以外の精神

的な、学生生活に起る一切の問題についてみなさんの相談に応ずる施設です。

まず身体に関する病理的な診療については、校医の本間先生と特にお願いした東京大学附属病院小石川分院（略称東大分院、学校の裏門を出て音羽台を上ったところにあります）の教授たちや本学の教授たちが協力して当ってください。病状の軽微なものはここで処置しますが重症や療養に特殊の設備を要するものなどは、ここでどの方面の治療を必要とするかを診断して、東大分院の方に連絡し、それぞれのエキスパートの治療に委ねる仕組みになっています。ウィークデーはどなたか医師の方が必ずおられるようにしてありますし、それ以外の不時の時も東大分院の近所です。適切な連絡をすることになっていますから、必要の人はどうか進んで診療を受けてください。

以上は症状がはっきりしている場合の処置ですが病気でなくとも自分の健康については自分で注意してその増進につとめ、病気を予防し又早期に発見するといった、一口にいうと自分で自分の健康を管理するようにしたいと思います。それがみなさんがいつも自分を健康に保つ基礎工作です。それにはまず自分の身体についての医学的知識を持たねばなりません。又それに必要な検査等を

自ら進んで受けてその結果をカードにとり、医学的基礎に基いた自分の健康の管理をしていただきたいのです。大体自分の身体についてはかなり無関心な方が多いようですし、ことに女性は診断を受ける煩わしきや時には病気に對する理由のない恐怖などの為、科学的に自分の健康に留意し、科学的に処置するのを避ける傾向があります。それが病気を治療する上に時期を失する結果にもなりますから、そういう傾向はぜひ一掃して、どうか気楽に診療室を訪れて下さい。さらに身体の健康を保持するためには、生活環境全体に対する注意が必要です。食事はもとより居住の清潔や騒音の防止等、自宅はもとより学校の教室や学寮の衛生等についてもじゅうぶんの管理が行われるとき、はじめて保健衛生についての理想に達することができることを忘れてはならないと思います。

ところで健康は身体のみのことではないと申しましたが、身体には欠陥がなくとも、何か精神的に不安や焦燥がある。一方で神経が鋭くとがり、感情が高揚するとともに他方では又絶望的な気持や虚無感に襲われる。何をやる気もなければ又しないでもいられない。学校の授業も研究もおもしろくないし友人との間も煩わしい。自分を全的に投げこむものが欲しいのだがそれが得られな

い。大勢の中において自分だけは孤独であり、そういうことを感じる時はありませんか。あるいは上のような漠然たる不安でなく、はっきりした原因があるが、その原因は自分の力ではどうにも取り除けない。複雑な網の目にかままってどうしてもほどこけないばかりか、何か迫られるような気持でセツパ詰った緊迫感があり、しかし自分については無力感のみつよい、そういう時もあるでしょう。そういう時にはどうか学生相談室をたずねてください。学生相談室は診療室が身体的な方面の相談を受けるのに対して、精神的な相談を受ける施設です。しかし一口に精神的な問題といっても、いろいろあり得ると思います。純粹に精神病理学的なものもありますし、心理学的ないわゆるカウンセリングの扱うべきものもありますし、又そういうものでは取扱えない個人的な人間の心の機能に関するものから、家庭関係や学校生活社会生活又は世界観や人世観に及ぶものまで多種多様だと思えます。あるいは精神的な悩みが実は具体的な個人的な経済生活面に関している場合もあるでしょう。家庭が経済上の不幸にみまわれた上に自分は病気である。そういう生活環境の中でどうしてよいかわからないといったこともあるでしょう。そうした時にもぜひ学生相談室に相談してください。こういう人生に起る又起り得る一切の問題

に対して即座に解答を用意し、解決を与えることは、できない事かも知れません。しかしお互に人生に生活している人間同志が相談してみることによって案外解決の糸口がみつかることもありますし、又ただちに解決できなくても少くともその解決を目指しての努力を分担し、心と心との窓を開けることによって生きて行く勇気が獲られることもあるのではないのでしょうか。もちろんこうしたことはみなさんの近親の方や友人や先輩、又学部学科の先生方にも相談できるわけですが、学生相談室はそれとは別な面からこれ等の方と協力してやってみようと思っているのです。したがって相談室は精神病理学の方面と心理学的カウンセリングの方面と従来の補導委員の担当した方面を総合して、それぞれの面で相談の必要に応じたいと思います。これもまた学校の内外の専門の学識経験者に当たっていただくことになっています。

一体身体と精神の異常がどうして起るか、それには原因の明かにできないものもあって簡単にはいえませんがあなた方とその生活環境との間の調和が破れる事が原因となって起る場合が多いように思います。こういうことは今までとちがった生活環境で生活することになったときたとえば高校から大学という別の世界にはいったり地方から東京という激しい生活に変わった時などに往々にし

て起り勝ちです。あるいはそういう外的な眼に見える変化がなくても、新しい人間関係が生ずればそれも新しい生活環境になります。それにどうアジャストするかは人によって違うでしょう。しかし突然の変化で身体も精神も極度の緊張と使用から疲労し刺激に堪えられなくなり異常な状態に陥ることも可能であります。普通ならばわれわれはそれに次第にアジャストすることができるわけですが、時に破たんを生ずるわけです。私達は私達の学園のうちこうした破たんが時として起るのを悲しい気持で思い浮かべずにはいられないのです。一人の人間の生命は全世界よりも貴いといひます。それは一人の人間の生命はそれを救うために全世界の力が動員されてもよだけの値うちがあるということでしょうか。

どうかして学園全体の人達が身体も精神ものびのびと健康であってほしい。そして全命の貴さというものを知りそれをいとおしみ、それゆえにそれを脅かす身体的精神的障害を究明し排除し克服する勇気をもって欲しい。それに対する助言と協力のために幾分でも寄与することができればというのが本来ヘルスセンター設置の心からなる願いなのです。どうかその気持をよく理解して全学園の方たちが進んでこの施設を利用されるとともに、又この施設に援助をおしまないでいただきたいと思いま

す。

ヘルスセンターは、全学園の施設です。したがってその運営にあたる運営委員会には学生も教職員も全学園のそれぞれの代表者が出ております。その方々を通じてでも、あるいは各自でもかまいません。この施設に関心をもつ方は自由に希望と意見とを寄せて下さい。

そしてこのヘルスセンターがほんとうに身体精神両面にわたる健康を保持する源泉となり、それによって少しでも学園生活を豊かに明朗にすることができるならば、それは関係者にとってこの上ない喜びと申さねばなりません。それにしてもあの建物に親しみを持ち、何でも心おきなく訴えもし要求もし相談もしてください。ある意味で一切の苦情の引受け所であり、同時に新しい生活の出発点でもあることがこのセンターの使命であるはずですから。

お茶の水女子大学ヘルスセンター運営要綱

昭和32・2・1 お茶の水女子大学

- ヘルスセンターは、健全明朗な学園生活を享受しつつ、修学及び勤務の目的を達成するための事業活動を行なう。
- ヘルスセンターの活動は、常に精神的、社会的要因について偏ることなく考慮が払われ、特に学生の理解の

下に行なわれなければならない。

- ヘルスセンターは、大学教育の一面を担うとともにその成果は学生の発意と協力とによって達成されるので、これが助長に努めなければならない。
- ヘルスセンターは、学生、教職員すべてのための共同施設であるから、すべての人が常に話し合いながら有機的統一のあるように運営を行ない、他の学内機関とも密接な協力関係を保ってその成果を挙げるべきである。
- ヘルスセンターは、各自が健康に対する自主的能力をつちかい、実践の態度を確立し、将来社会の指導者たる資質の向上をはかるよう運営されなければならない。
- ヘルスセンターの活動内容は、おおむね次の七つに分けられる。
 - (1) 健康管理
身体検査、健康相談、保健教育活動を通じて心身異常の予防、早期発見及び鍛錬に努める。
 - (2) 診療
疾病、その他心身の異常の治療と救急の処置を行なう。
 - (3) 測定

形態、機能、運動、適性その他心的傾向の諸測定を行ないかつ指導する。

(4) 相談

個人的、家庭の問題、対人関係、学業、就職、経済等の諸問題につき相談助言を行なう。

(5) 環境衛生とその管理

学園、学寮、下宿等居住に関する衛生事情の向上をはかる。

(6) 栄養管理

栄養の摂取及び食品衛生の状況を調査し、その指導を行ない、かつ向上をはかる。

(7) レクリエーション

種々のレクリエーション活動が、自発的に行なわれるよう指導し、アミューズメントの施設等の整備をはかる。

- 以上ヘルスセンターの運営については、学内の意見をじゅうぶん反映し、絶えずその事業活動が改善されるようにしなければならない。

ヘルスセンターの利用について

ヘルスセンターがどのようなものか、よく解ったことと思しますので、ここで実際に具体的なドアの叩き方、

またその中の様子をお知らせしましょう。

ヘルスセンターは午前9時から午後4時30分まで開いています。(但し土曜日は12時まで)昼休みは11時30分から12時30分までですが、急を要する場合は、この時間内でもさしつかえありません。

(1) 診療室、休養室について

診療室では、毎日午後2時から4時まで、校医及び東大の医師の診療、健康に関する相談が受けられるようになっています。レントゲンの設備があるので、X線の透視検診は、医師の診療時間内なら、いつでも受けられます。写真撮影の場合は12時30分から1時までの30分、希望者のあった時に限り、技師に依頼しますので、この場合は必ず前日までに係員にお申込みください。

なお、休養室にはベッドが3台あります。気分が悪い時、休養を要するときはいつでも御利用下さい。診療に関する諸費用は次のとおりです。

- (イ) 診療、健康相談…本学教職員、学生、生徒はすべて無料。
- (ロ) 治療(薬品、衛生材料などの使用を含む)について…急を要する疾病、傷害については、原則として(イ)

と同様無料。

但し、長時間に亘る治療の場合、その薬品などについては自己負担となりますが、このような際に、その旨を申出でになれば、市価の2割引で入手できます。

(ハ) レントゲン検診…

○大学が行なう所定の健康診断（定期・臨時）の時…全員無料

(ニ) 治療に必要な諸検査…無料

なお、現在、診療科目として内科を主としていますが、他の科目の疾患の場合にも、各々関連し合っているものですから、一応医師又は係員に相談してください。分院での診療を希望するときは、紹介状を上げます。

分院においでになるには、紹介状を持参して、小石川分院「健康相談部」（毎週月、水、金曜の午前中開設）においでになればよいのです。

(2) 測定、検査室について

測定室では、現在のところ、次のような測定、検査をすることができます。

- 形態の測定…身長、体重、胸囲、坐高、上膊囲、その他の計測
- 身体機能の測定検査…視力・握力・肺活量・血

圧・検尿・血沈・心電図・その他一般臨床検査。

身体に何か異常を感じたとき、それをいつまでもそのままにせず、また、理由もなく、ただ病気を誇大視して恐れるようなことのないように、はっきりと原因を確かめ、それに応じた処置をとって、積極的に健康の保持、増進につとめてゆきたいと思います。

(3) 相談室について

相談のためには、どの先生に希望してもよいのですが、ヘルスセンター相談室には、次のような先生が専門的に相談委員になっています。

相談委員氏名	所属学部
波多野 完 治	文教育学部教育学科
松村 康 博	家政学部児童学科
周郷 古 宙	文教育学部教育学科
市古 中 三	文教育学部史学科
山坂 上 治	文教育学部体育科
柳田 田 為	理学部物理学科
谷田 田 正	理学部生物学科
浅谷 田 次	家政学部被服学科
浅見 千 鶴	家政学部児童学科

以上の諸先生は、それぞれ本務の講義や研究のため、時間的に制限もありますので、相談に当る日時が一応決まっております。（この時間表は掲示してあります）その

時間内はみなさんの希望、連絡を待っているわけですから前もって次のような相談申込カードを相談室の係員から受けてください。

相談申込カード

No. _____ 申込年月日 年 月 日

氏 名 _____

生年月日 昭和 年 月 日生（才）

所 属 学部 学科 専攻 年

健康状態 良. 可. 不可.

相談希望日時

① 月 日 時～ 時

② 月 日 時～ 時

相談に関する希望事項

なお、相談は必ずしも一人でなければならないことなく必要なら何人でもかまいません。また、クラス全体の問題となっているようなことを、補導教官、関係教官と相談することもできます。いずれの場合にも、前もって係員に申し込んでください。その他、学生相談室としてのいろいろな活動を行ないますので大いに活用してください。

相談についてのこと、またそれ以外のことでも、希望すること、不明なこと、不満のこと、ちょっとたずねたいことなどありましたらどうぞ係員のところにおいでください。皆さんのための学生相談室です。どうぞ、どしどし利用してください。必要があれば、秘密を確保することにもなっています。個人的な相談に関する内容、記録などは、もちろん一切他にもれるようなことはありません。

7. 奨 学 金

(担当・厚生課厚生係)

日本育英会奨学金制度

1. 日本育英会の性格

日本育英会は、優秀な学徒であって、経済的理由によ

り修学困難な者に、学資の貸与その他育英上必要な業務を行なって国家有用の人材を育成することを目的とする日本育英会法に基く特殊法人です。

日本育英会は、すべて昭和19年2月16日制定された日本育英会法（法律第30号）およびこれに基く日本育英会規程によって運営されているもので、次のような性格を持っています。

- 1 教育の機会均等の精神を基とし、奨学生の採用については、国立私立、昼夜間、男女等による差別はありません。
 - 2 貸与されている奨学金の財源は、主として国民の負担する税金によるものです。
 - 3 毎年卒業する奨学生からの返還金は、翌年の事業費に繰入れられます。したがって、現在奨学生が貸与されている奨学金には、先輩からの返還金が含まれていて、返還金は、育英会の生命を保つために絶対に必要なものです。
2. 奨学生の資格
- 1 日本育英会から学費の貸与を受けることのできる者は、日本国民であって、学校教育法による高等学校（別科、専攻科を除く、但し、盲、ろう学校専攻科を含む）大学（別科を除く）および大学院に在学

する学徒です。

- 2 日本育英会から学費の貸与を受ける学徒（奨学生）は、品行方正、学術優秀、身体強健で、且つ、家庭の事情等から学費の支弁が困難と認められる者で、学校長の推薦されたものから選ばれます。
3. 奨学制度と貸与月額
 - A 一般奨学生
 - イ. 2,500円
 - ロ. 3,000円
 - B 特別奨学生
 - イ. 自宅より通学する者 5,000円
 - ロ. 自宅以外より通学する者 8,000円
 - C 大学院奨学生
 - イ. 修士課程 10,000円
 - ロ. 博士課程 15,000円

（備考）

- (1) 3A「ロ」の金額は「イ」の金額の貸与を受けている者の中から特に必要と認められたものに貸与されます。
- (2) 原級にとどまったとき又は卒業期間を延長したとき、貸与を停止されます。
- (3) 成績の状況により貸与期間の短縮及び停止・辞退

されることがあります。

4. 奨学生願出の手続
 - 1 奨学生を希望するには、現に在学する大学の学長に願書を提出し、推薦を受けなければなりません。従って、本人から願書を、直接日本育英会に提出しても受理されません。すなわち、大学の奨学事務所掌部局（学生部厚生課）から所定の奨学生願書用紙の交付を受け、本人と連帯保証人とが、必要事項をありのままになるべく詳しく記入し、大学に提出するのです。

連帯保証人は、父兄、母姉又はこれに代るもので奨学金返還の責を負うものです。
 - 2 学長が、在学生から奨学生願書の提出を受け、これを推薦すべきものと認めるときは、奨学生推薦調書に必要事項を記入し、日本育英会に提出します。
 - 3 日本育英会においては、提出された書類を慎重に審議して奨学生を決定するわけで、推薦された者が全員採用されるものと限りません。
 - 4 願出書類は、年次又は奨学生の種類によって提出の時期が違うから注意してください。このことについては、その都度学生部厚生課前の掲示板に掲示します。

5. 家計急変者の応急採用ならびに災害による採用について

家計急変により応急採用を必要とする者、災害により採用を必要とする者。

このような場合、別途考慮して推薦されることがありますから速やかに連絡してください。

（注）日本育英会の奨学金制度の外に、本大学の関係のある地方の奨学機関は次の通りであります。

大阪府育英会
 山口県奨学会
 富山市育英資金
 東京都大田区奨学資金
 横浜市育英奨学金
 東京都育英資金
 岡山県育英会
 茨城県育英会

これらの奨学機関における制度の内容は、だいた日本育英会のそれに準じているようであります。

8. 学資貸付金

(担当・厚生課学寮係)

国許から送金がおくれたときとか、病気になったときおよび事故にあったとき等、急にお金が必要になったとき次の内規によって学資金を借りることができます。

お茶の水女子大学学生部学資金貸付制度内規

1 申込資格

本学の学生であって、授業料の納入その他個人的生活上緊急に経済的援助を必要とするものに限る。

2 申込手続

学資金の貸与を受けようとする学生は、所定の申込書に所要事項を記入し、補導委員の承認を得てから申込みものとする。

3 貸付金額

授業料および寄宿料納入に関するものは、その納入額

を限度とする。その他の場合は申込学生の希望や、当面の事情等を参しゃくして、貸付金額をきめる。この場合は原則として一回に3,000円を限度とする。

いずれの場合も返済後でなければ次回の貸付は行なわない。

4 返済期間

貸付の日から返済の日までの期間は3か月以内とする。返済期限までに返済できない学生は、予め補導委員の承認を受け返済期日の前日までに厚生課に延期を願出するものとする。

但し、卒業する者は卒業式の前日までに、休退学者は、その手続きをする日までに返済しなければならない。

5 申込および返済場所

申込および返済に関する事務は学生部厚生課で行う。但し、現金の受払は会計課出納係において取扱う。

6 申込、貸付および返済取扱日時

申 込 日 時	}	毎日午前10時から午後4時まで (但し土曜日は午前中)
貸 付 日 時		
返 済 日 時		

但し、休業日および日本育英会奨学金の現金支給日は取扱いをしない。

7 貸付利子 無利子とする。

8 特別措置

特別な事情で前記の規程によらないで貸付を受ける必要のある学生は、学生部長に申し出て、特別許可を受けるものとする。

9 審議機関

学資金貸付に関する主要事項については、本学学生委員会において審議するものとする。

9. アルバイト

(担当・厚生課厚生係)

学生のアルバイトは、厚生課のアルバイト係で取扱っている。この係は、学生の斡旋を、積極的に、且つ、円滑に推進するため、現在専任職員を一人おきこれを中心に厚生課全職員が全力を挙げてこの仕事を援助することになっている。

アルバイトのあつせんを受けるには

まず、この係員のところにゆき、備付の「求職票」に所要事項を書き入れ係員に面接してから登録を受ける。

それからは、係員からの通知を待つが、厚生課前の掲示板に発表された募集広告の中から、希望するものを適宜選んで、係員に申し出れば係員は求人側の諸条件を勘案し、求人側に紹介する。この際必ず係員から紹介状が交付されるから、求人側を訪ねる場合は、これを持参する。

経済的な事情その他の理由で緊急にアルバイトを必要とする者は、優先的に斡旋することも考慮するから、該当者は、係員にその旨を申し出て相談する。なおタイプ謄写原紙かき、珠算、速記、翻訳等の特技を有するものは登録の際に、申告をしておかれると有利な場合が多い。本学のアルバイト斡旋状況は、時によって多少異なるが、一か月の求人数は40人乃至60人であり、その職種は多種多様である。女子大学であるため、家庭教師が最も多く、これに次いで調査統計事務、資料の蒐集整理、筆耕、その他一般事務系統の仕事である。雑役、屋外労働などの肉体的なものはすくない。就労時間もまちまちであるが、家庭教師などは1週2日～3日が最も多く、1日の指導時間が2時間乃至3時間である。そして、この仕事は概して長期に亘ることが多い。日雇的なものは大体1日8時間労働が原則であって、2日乃至7日位の短期間のものが多いが、まれに1か月に亘るものもある。

アルバイトの収入は、求人側の雇用条件、交通事情、職種などによりかならずしも一様でない。

本学で最も多い家庭教師は、1週2日、1日2時間で月額6,000円～7,000円で、この外に家庭によって食事の一部を持ってくれるところもある。

ただし、新入生の場合には、大学生活に慣れる必要があるので1年前期の家庭教師は困難であり、夏期休業後が望ましい。

日雇的なものは、賃金に非常に幅があるが、1日約800円～1,000円位が普通のものである。

10. 授業料免除

(担当・学生課学生係)

年2回4月と10月の指定された期限内に授業料を納めることは学則第34条に示されていますが、経済事情のため免除・猶予・分納等を希望される学生もあつてしょう。この場合は次の**授業料免除および徴収猶予取扱規程**により申請書等を学生係へ提出して下さい。なお手続については毎年2月中旬と6月下旬に学生課前に掲示されますからよく注意して下さい。

その他休学・転学・退学者の授業料は次のとおりです。

休学者の授業料

- 1 納入期限までに許可を得た場合は、その翌月から復学の前月までの分を免除される。
- 2 納入期限後に許可を得た場合は、その期の分は納めなければならない。

転学・退学者の授業料

転学又は退学をする場合でも、その期の分は納めなければならない。

授業料等免除および徴収猶予取扱規程(抜萃)

(免除の資格)

第2条 学部、大学院、および専攻科の学生(以下「本学学生」という。)であつて、経済的理由のため授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められるものに対しては授業料を免除することができる。

但し、新入学生(本学の学部を卒業し、引き続き大

学院または専攻科に入学した学生を除く)に対しては特別の事情がある場合を除き、入学した日の属する期分については免除の許可をしない。

(免除の額)

第3条 授業料免除の許可は、年度を2期に分け当該期分ごとに行なうものとし、免除の額は、各期分の授業料について全額または半額とする。

(免除の手続)

第4条 授業料の免除を受けようとするものは、所定の期日までに下記の書類を学長に提出するものとする。

- 1 授業料免除申請書
- 2 家庭調査書、家族・家業・家計等につき詳細に記載したもの
- 3 経済的理由による納付困難な事情を認定するに足りる、学生または当該学生の学資を主として負担している者の居住地の市(特別区)町村長の証明書

2 前項に定める書類のほか、源泉徴収票、所轄税務署の証明書、その他必要書類の提出を求めることがある。

(申請書の提出期間)

第5条 授業料免除申請の期間は、次の通りとする。

第1期 4月1日から4月30日まで

第2期 9月1日から9月30日まで

但し、風水害等特別緊急の事情による授業料の免除申請は、この限りでない。

(選考機関)

第7条 授業料の免除は、当該学生の免除申請に基づき補導委員の選考を経て学長が決定する。

(許可の取消)

第8条 授業料免除の許可を受けたもので、許可の決定後免除の理由が消滅した場合は、学長はその許可を取消すものとする。

(災害の場合)

第11条 学生または当該学生の学資を主として負担している者が、風水害等の災害を受け授業料の納付が困難と認められる場合は、当該学生の申請に基づき、災害の発生した年度の授業料について、災害の発生した翌期に納付すべき授業料を、学長が被災による納付困難な事情を認定の上、免除することができる。

但し、災害発生の時期が当該期の授業料免除申請期限以前である場合は、当該期分の授業料についても免除することができる。

第 16 条 学生または学生の学資を主として負担しているものが風水害等の水害を受け、寄宿料の納付が困難と認められる場合は、当該学生の申請に基づき学長が被災による納付困難な事情を認定して寄宿料の全額を免除することができる。

(徴収の猶予)

第 18 条 授業料の徴収猶予は、次の各号に該当する場合に当該学生（行方不明の場合は保証人等）の申請に基づき、学長が選考の上許可することができる。

- 1 経済的理由によって納付期限までに授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合
- 2 行方不明の場合
- 3 学生または当該学生の学資を主として負担している者が災害を受け、納付困難と認められる場合
- 4 その他やむを得ない事情があると認められる場合

(徴収猶予の申請期間)

第 19 条 授業料徴収猶予の申請期間は、次の通りとする。

- 第 1 期分 授業料納付期限まで
- 第 2 期分 授業料納付期限まで

(徴収猶予の期限)

第 20 条 授業料徴収猶予の期限は、次の通りとする。

- 第 1 期分 9 月 30 日まで
- 第 2 期分 2 月 28 日まで

(授業料の月割分納)

第 21 条 特別の事由があると認められた場合は、授業料の月割分納を許可することができる。

(月割分納の期限)

第 22 条 授業料月割分納の納期は、毎月 10 日までとし、3 月分については、前月分と同時に納めるものとする。

(猶予の手続)

第 23 条 徴収猶予の許可を受けようとするものは、申請書に理由書を添え提出期限までに学長に提出するものとする。

(許可の取消)

第 24 条 徴収猶予の許可の決定後、猶予の事由が消滅した場合は、学長は、その許可を取り消すものとする。

(適用除外)

第 26 条 日本育英会の特別貸与奨学生（附属高等学校生徒を含む）については、休学、死亡、災害等の場合を除き、原則として授業料の免除は行なわない。

11. 宿 舎

(担当・厚生課学寮係)

学 寮

入寮するには、希望者は、厚生課学寮係に入寮願を提出する。願出は、寮に欠員がある場合 1 回開かれる学寮委員会にて選考され、学長の許可を得て入寮を決定する。本学には現在、2 つの寮がある。大きさも性格も違い、それぞれ特徴がある。

名 称	所 在 地	通学時間
大 山 寮	板橋区仲町	35分
学 内 寮	大学構内	5分

寮は遠く家庭をはなれた学生が共同して生活するところなので、家庭にかわる憩いの場であり、またいろいろな人が集って集団の生活の中に自分の生活を両立させる力を学ぶことができる場でもある。どの寮も自治制度をしき、次の規程によって運営されている。

● 学 寮 規 程

本 則 昭和40年 5 月 19 日 評議会決定

附 則 昭和40年 8 月 18 日 評議会決定

(目 的)

第 1 条 本規程は、学寮に関する基本的事項を定めるために設ける。

(学 寮)

第 2 条 学寮とは次の 2 寮をいう。

大山寮 東京都板橋区仲町 2 番地

学内寮 東京都文京区大塚 2 丁目 1 番 1 号 (大学構内)

2 学寮には、本学学生中より希望者を入寮させる。

(学寮委員会)

第 3 条 学寮に関する事項を審議するため、学寮委員会を設ける。

学寮委員会規程は、別に定める。

(管理運営責任者)

第 4 条 学寮の管理運営は、学生部長をその責任者とし、学寮委員会の協力を得てこれを行なう。

(学寮協議会)

第 5 条 学寮委員会と、学寮自治会との連絡を円滑にするため学寮協議会を設ける。
学寮協議会規程は別に定める。

(学寮生活)

第 6 条 学寮生活は、寮生の総意に基き自治により行なう。

2 学寮自治規約は、所定の議を経て、管理運営責任者が承認する。

(入 寮)

第 7 条 入寮を希望する学生は、所定の手続きにより願ひ出る。

2 入寮許可は、所定の議を経て学長が行なう。

(寄宿料)

第 8 条 寮生は、所定の寄宿料を納めなければならない。

(食費等経費の個人負担)

第 9 条 食費その他寮生の生活に必要な光熱水料等の経費は、寮生の負担とする。

(退 寮)

第 10 条 退寮を希望する寮生は、所定の退寮願を提出する。

2 本学学生の身分を離れたときは、定められた時期までに退寮しなければならない。

休学のときも原則としてこれに準ずる。

3 学寮関係規程に違反したり、疾病その他の理由により共同生活に不適當な者は、学長において所定の議を経て退寮を命ずることがある。

(寮生以外の者の宿泊)

第 11 条 学寮には関係女子職員以外の者の宿泊は、原則として認めない。

(弁 償)

第 12 条 故意又は過失により、学寮の施設等に損害を与えたときは弁償させることがある。

(災害対策)

第 13 条 学寮自治会は、寮務主任と協力して、火災その他災害の予防対策を講じ災害が発生した場合は、全員協力して安全避難その他の措置をとるものとする。

(細則への委任)

第 14 条 本規程の実施に関し、必要な事項は、細則に定める。

(学寮に関する事務)

第 15 条 学寮に関する事務は、学生部厚生課が行なう。

附 則

- 1 この規程は、昭和40年10月31日から施行する。
- 2 昭和30年6月1日施行の学寮規程は、廃止する。
- 3 本規程は細則が施行されるまでの間は、本規程の運用はなお従前の例による。

(参考) 学 則 (抄)

第 1 条 本学は、広く知識を授け、深く専門の技術を教授、研究し、知的、道德的および応用的能力を養い、以て社会の諸分野における有用にして、教養高き女子を養成し、併せて文化の進展に寄与するを目的とする。

第 35 条 寄宿料は、月額100円(鉄筋コンクリート造の学寮にあっては、月額300円)とし、毎月その月の20日までに納めなければならない。

第 37 条 一度納めた検定料、入学料、授業料及び寄宿料はどのような場合でもこれを返さない。

第 53 条 本学に寄宿舎を附設し、学生の勉学および生活の指導に資する。

寄宿舎に関する規程は、別にこれを定める。

下 宿

厚生課の学寮係に下宿、間貸等の資料があります。これによって適当な室を探して下さい。詳細のとりきめは

入 (退) 寮 願

No. _____

受付 月日	月	日	寮 名	寮	債管 通知	入退 月日
----------	---	---	--------	---	----------	----------

昭和 年 月 日

お茶の水女子大学長 藤田健治殿

学部 学科 (専攻) 年

本人氏名 印

本 籍

現 住 所

保 証 人

住 所

氏 名 印

補導委員氏名 印

()寮 願

今般下記の事由により()寮いたしたく所定の書類を添えてお願いいたします。

理 由

(退)寮の場合退寮後の住所

区 町 丁目 番地 (方)

(電) () 番

貸室者と求室者との間でその都度直接話合っています。場合によっては厚生課が斡旋もしますから係に相談して下さい。

12. 食 堂

(担当・厚生課学寮係)

山の上のヘルスセンターの芝生の向うに見えるのがお茶の水女子大学学生食堂です。学生や教職員の厚生施設の一つとして大学が生協に委託し、下記の給食業務を行ない、市価よりも安い価格で需要に応じています。

記

1 食堂の営業時間

午前8時から午後7時までとする。但し、日曜日及び休日は休業とする。

2 取扱品目

主食、惣菜、うどん類、丼類、ランチ、パン、牛乳、簡単な飲物

3 その他

価格は材料の時価により年中必ずしも一定しないが、市価より1割乃至2割程度は安い。

食堂の運営は委員会によってなされ、ここに学内の要求はとり上げられて、常に食堂の改善がはかられている。

● 食堂運営委員会規程

第1条 お茶の水女子大学食堂(以下「大学食堂」という。)の施設の適正な管理ならびに食堂における業務の円滑な運営を図るため、お茶の水女子大学食堂運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

第2条 運営委員会は、次の事項を審議し、その運営に当る。

- 1 食堂の施設に関する事項
- 2 給食業務の管理に関する事項
- 3 販売の用に供しうる食品若しくは添加物の種類及びその価格に関する事項
- 4 食堂の清潔、衛生並びに食品若しくは添加物の衛生に関する事項
- 5 その他食堂の管理運営上必要と認められる事項

第3条 運営委員会を構成する委員は、下表左欄に掲げるものとし、学長これを任命し、その任期は、それぞれ右欄に掲げる期間とする。

- 2 委員は、任期満了後重任することを妨げない。
- 3 委員が任期中に退任した場合は、退任の日から20日以内に後任の委員を選考しなければならない。但し、その任期は、前任者の残存期間とする。
- 4 学生代表の委員には、学生自治会、学内寮自治会並びに大山寮自治会からそれぞれ1名あて推薦された者

委 員	任 期
学生部長の職にある者	当該職にある間
学生委員代表 1名	当該職にある間
学寮委員代表 1名	当該職にある間
食物学科教官 2名	1年(4月1日から翌年の3月31日まで)
附属学校代表 1名	1年(4月1日から翌年の3月31日まで)
事務局長の職にある者	当該職にある間
会計課長の職にある者	当該職にある間
学生課長の職にある者	当該職にある間
厚生課長の職にある者	当該職にある間
教職員代表 1名	1年(4月1日から翌年の3月31日まで)
学生代表 3名	6か月

を充てるものとする。

第4条 運営委員会は、特別の事項を審議するため必要であると認めるときは、臨時委員を置くことができる。

第5条 運営委員長には、学生部長の職にある者をもってこれに充てる。

第6条 運営委員長は、運営委員会を召集し、その議長となる。

第7条 運営委員長に事故あるときは、運営委員長が指名した委員が、運営委員長の職務を代理する。

第8条 運営委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聞くことができる。

第9条 運営委員会の庶務は、学生部厚生課において処理する。

第10条 この運営委員会規程に定めるもののほか、大学食堂の管理運営に必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この改正規程は、昭和33年6月1日から適用する。

● 食堂使用規程

お茶の水女子大学食堂の使用規程を次のとおり定める。

お茶の水女子大学長

第 1 条 お茶の水女子大学食堂（以下「食堂」という）は学生、生徒及び教職員に対する給食業務に支障のない限り集会等の使用に供することができる。

第 2 条 食堂を使用しようとするときは、その日の前日までに食堂使用許可願をお茶の水女子大学食堂運営委員会の委員長に提出し、その許可を受けなければならない。

但し、食堂の使用を許可する権限はこれを学生部厚生課長に委任することができる。

第 3 条 食堂の使用することのできるものは、次の各号に掲げるものとする。

- 1 お茶の水女子大学の学生及び生徒
- 2 お茶の水女子大学の教職員
- 3 お茶の水女子大学の卒業生
- 4 その他お茶の水女子大学食堂運営委員会の委員長が適当と認めたもの

第 4 条 食堂を使用する者は、その使用に当って、食堂の施設及び備品に損傷を与え、また堂内が不潔にわたらないよう並びに火気の取締りに万全の配慮がなされなければならない。

もし、施設・備品等に損傷を与えた場合は弁償の責に任じなければならない。

第 5 条 食堂の使用時間は、午後 2 時から午後 7 時までとする。

第 6 条 食堂の使用料は、徴収しない。

第 7 条 食堂を使用する場合は、かならず使用許可証を食堂の管理者に提示し、使用後は、使用済の旨を食堂の管理者に連絡しなければならない。

第 8 条 食堂使用に関する事務は、学生部厚生課で扱う。

附 則

この規程は、昭和31年6月1日から適用する。

食堂の使用規程細則

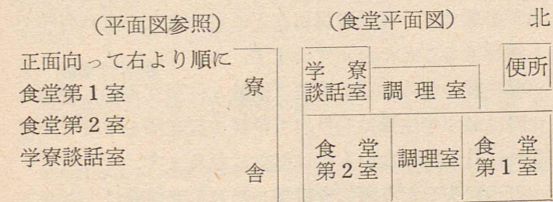
第 1 条 お茶の水女子大学食堂使用規程（以下「使用規程」という。）第 1 条に定める集会とは、ゼミナール、課外活動、研究会及び懇談会等多数の本学学生並

びに教職員が特定の共同目的を達成するために一定の場所に会合することをいう。

第 2 条 本学の学生並びに教職員が主催する集会に本学以外の者が参加することはこれを妨げない。

第 3 条 本学の食堂は、特定の政治的目的を有する集会或は大学の信用を傷つけるような集会には使用することができない。

第 4 条 食堂の各室を次のとおり呼称するものとする。



第 5 条 学生が食堂を使用しようとするときは、学生課に集会願を提出し、学生部長の許可を得てから厚生課に使用許可願の手続をとるものとする。

2 教職員等が食堂を使用しようとするときは、直接厚生課に所要の手続きをとるものとする。

第 6 条 食堂の使用時間は、原則として午後 2 時から午後 7 時までとするも、談話室に限り、午後 9 時まで

使用することができる。

第 7 条 食堂の利用者は、これを他にまた貸することはできない。

第 8 条 食堂使用許可書は、次の様式のものを用いるものとする。（様式別紙）

食堂使用申込書 No. _____	
使用日時	月 日 () 時—時
使用場所及び人員	第 室 名
使用団体又は所属部(科, 課)	
使用目的	
上記のとおり使用いたしたく申込みいたします。	
昭和 年 月 日	
お茶の水女子大学食堂運営委員会	
委員長 殿	
使用責任者部科学年	
氏名	印

食堂使用許可書

No. _____

使用日時	月 日 () 時—時
使用場所及び人員	第 室 名
使用団体又は所属部(科, 課)	

上記による使用を許可する。

昭和 年 月 日

殿

お茶の水女子大学食堂運営委員会
委員長

附 則

この規則は、昭和31年6月1日からこれを適用する。食堂はいつも湯茶が用意されておりますし、冬は暖いストーブも入っていますから学生は遠慮なくここで弁当を開いて下さい。この他に学生が控室の喫茶室でも、または各学科の研究室、暖い日には芝生に腰をおろしても食事することができます。

13. 学 生 証

(担当・学生課学生係)

学生証は大学の内外に対してあなた方がお茶の水女子大学の学生であることを証明するものですから、卒業まで常時これを携帯してください。学内での図書閲覧、在学証明書、通学証明書等の交付をうける際は学生証の提示が必要です。又鉄道係員などに求められた際は何時でも提示することになっています。

学生証の記入事項に変更(改姓・住所変更等)があった時は必ず学生課に届け出て学長の訂正印をうけてください。訂正印のないものは無効になります。

万一紛失したり著しく破損したりした場合は、ただちに学生課で備付の用紙に所定事項を記入の上写真を添えて再交付の申請をしてください。5日後に交付しますが、学生証は悪用されることがありますので取扱いに特に注意してください。

14. 通学証明書・学割証

(担当・学生課学生係)

国鉄・私鉄等ではあなた方学生が少しでも経済的負担を軽くし学問に専念できるようにとの観点から、かなり高率の割引を付与しております。したがってあなた方はこの制度の由来をよく認識して、いやしくも乱用・不正使用などにより、せっかくの特典を停止されるようなことのないよう自省しなければなりません。

A 通学証明書

通学証明書は通学定期乗車券を購入する際に必要です。

通学定期乗車券は直接通学を目的とするもののみに限られ、学生証に記されている現住所と大学との間の最短距離以外は買うことができない。

下記により発行しますが、発行の日を含めて1か月間有効ですから早目に申請するようにしてください。

(方法) 学生課で備付の用紙(交付申請書)に所定事項を記入の上、学生証を右肩にクリップで止め係のボックスに入れる。

(時間) { ① 10時20分までに申請のものは12時に発行
② 13時10分 " " 15時 "

但し、土曜日は①だけにより発行します。

もし休暇明けにすぐ定期を購入したい場合には、帰省時に用紙を持ち帰り記入の上学生課宛に郵送すればでき次第送ります。(①学生証不明 ②切手貼付・あて先明記の返信用封筒同封のこと)

その他夏期休暇には特に発行日から2か月以内の都合のよい日に有効開始日を延長することができますから、希望者は交付申請書の学生課への連絡欄に希望使用開始日を明記しておいてください。

B 学割証 (割引率 101km 以上につき2割)

学割は2等で片道101km以上を旅行するとき使用することができます。(発行の日から3か月間有効)しかし記名人以外の使用は絶対に許されません。その他学割証裏面の注意事項をよく読んで過誤のないよう十分気をつけてください。

学割証が必要なときには所定の用紙に記入の上補導委員の認印を受け、係のボックスに入れて申請してください。発行時間は通学証明書と同じです。(但し、緊急と認める場合はその限りでない。)

15. 在学証明書

(担当・学生課学生係)

学生課で備付の用紙に所定事項を記入の上、学生証を添付して13時10分までに係のボックスに入れておけば15時に発行します。(土曜日の申込みは月曜日の15時になります)

16. 休学・退学・他大学への転学

(担当・学生課学生係)

様々の事情で休学・退学・他大学への転学等を希望する場合は、補導委員とよく相談し、手続き等については係に相談してください。

授業料の納入との関係もありますから(91頁参照)早目に相談されるのが望ましい。

休学・退学の願出様式は次のとおりです。

No. _____

休学願

学科主任	
補導委員	

昭和 年 月 日

お茶の水女子大学長 殿

学部 学科 専攻 昭和 年度生
氏名 印

保証人住所
氏名 印

下記の理由で休学いたしたいので保証人連署の上
お願いします。

記

1. 期日 昭和 年 月 日より } か月
 昭和 年 月 日まで }

2. 理由

{ 病気の場合は医師の診断書を添付その他の場合は出来るだけ具体的に } _____

退学・休学に関する手続(内規)

学則第25条による退学は次に定めるところによる。

- ①退学しようとする学生は補導委員に相談し承認を得てから、学生課にある所定の書式による退学願を補導委員に提出する。
- ②補導委員は提出された願書に、学科主任の了解を経て(補導委員、学科主任捺印)教授会に提出する。(学部長捺印)
- ③学生課は教授会の承認を得た願書に各部局(学生部長、事務局長、学生課長、学部事務長、会計課長、厚生課長、図書館事務長)の認印を得、学長がこれを決裁する。
- ④保証人宛に許可通知書を発送する。

休学は学則第28条に定めるところによる。

- ①休学しようとする学生は補導委員に相談し承認を得た上で、学生課にある所定の書式による休学願を補導委員に提出する。
- ②補導委員は提出された願書に学科主任の了解を経て(補導委員、学科主任捺印)学生課に事務手続を廻す。

No. _____

退学願

学部長印

教授会承認 月 日 _____

学科主任	
補導委員	

昭和 年 月 日

お茶の水女子大学長 殿

学部 学科 専攻 昭和 年度生
氏名 印

保証人住所
氏名 印

下記の理由で退学いたしたいので保証人連署の上
お願いします。

記

1. 期日 昭和 年 月 日

2. 理由

{ 病気の場合は医師の診断書を添付その他の場合は出来るだけ具体的に } _____

③学生課は各部局（学部長，学生部長，事務局長，学生課長，学部事務長，会計課長，厚生課長，図書館事務長）の承認を得，学長がこれを決裁する。

④保証人宛に許可通知書を発送する。

（註・各学部事務部より教授会に報告する。）

17. 身上の異動

（担当・学生課学生係）

住所の変更，保証人や本籍の変更，その他身上に異動があった時はその都度必ず係に届出てください。特に住所変更届は緊急な連絡を要する時や通学証明書の発行に際して欠くことのできないものですから確実に手続きをしてください。国鉄や私鉄の監査のとき未届のため問題となることがありますから注意してください。

18. その他

- 1. 授業には教室の移動が多いので，席を立つ時には，必ず身の廻りに気をつけ，また盗難予防についても各自で気をつけること。
- 2. 屋外屋内とも火気の処理については各自が注意し火災予防に協力するよう努めること。所定のもの以外のコンロ，暖房器具等の使用は禁じられており，構内でのたき火も禁じられています。廃品を焼却する必要がある場合は焼却炉を使用すること。

例とは;

身分証明書は泥棒のものも取られているので，盗品の被害に利用される場合が考え，適宜それらの泥棒の嫌疑を念頭に，その被害を蒙ることを防ぐため注意して欲しい。

理屈，カバン，カマ，時計等が盗品，研究費，却るおとこ部屋を借りたことによるもの。

3-1 被害を念じた場合は，たふちに学生課より守衛室に届けます。

19. 諸手続一覧

名 称	提出先	期 限	参照頁	名 称	提出先	期 限	参照頁
転 科 願	学部事務部	2月末まで	70	本 籍 変 更 届	学生部学生課	{ その都度 直ちに	106
履修カード(届)	"	別に指示	67	団 体 設 立 届(願)	学生課課外活動係	その都度	78
履修取消願	"	"	68	集 会 届(願)	"	8日前	79
追 試 験 願	"	1週間以内	68	印刷物の配布,販売署名運動等届出	"	その都度	79
休 学 願	学生課学生係	その都度	105	卒業(見込)証明書	学部事務部	"	70
退 学 願	"	"	105	成 績 証 明 書	"	"	70
復 学 願	"	"	4	学 割 証 明 書	学生課学生係	"	103
再 入 学 願	"	"	4	通 学 証 明 書	"	"	103
転 学 受 験 願	"	"	105	在 学 証 明 書	"	"	104
学生証再交付願	"	"	102	学 生 証	"	入 学 時	102
授業料免除申請書	"	前期 4.1~4.30 後期 9.1~9.30 授業料納付 期限まで	92	人 物 証 明 書	"	その都度	
授業料徴収猶予(月割分納)申請書	"		92	就 職 推 薦 書	厚生課厚生係	"	
入 寮 願	厚生課学寮係	その都度	96	アルバイト・求職票	"	随 時	91
退 寮 願	"	"	96	下 宿・間 借 等	厚生課学寮係	"	97
奨 学 生 願 書	" 厚生係	掲示のつど	89	学 資 貸 付 金 申 込	"	"	90
住 所 変 更 届	学生課学生係	{ その都度 直ちに	106	相 談 申 込 カ ー ド	ヘルセンタ	"	87
保 証 人 変 更 届	"	"	106	志 賀 高 原 体 育 運 動 場	会計課管財係	"	116
代 理 保 証 人 変 更 届	"	"	106				
改 姓 届	"	"	106				

VI 教育職員免許状について

(学部履修規程附表)

中学校・高等学校の各教科の免許状を取得したいものは、別掲履修規程によって大学の単位を修得するときに教職員免許関係法令の定めるところに従い、それぞれの免許状に必要な単位をそれに含めて履修しなければならない。小学校・幼稚園の免許状については、文教育学部教育学科・家政学部児童学科の学生は、その学科の性質上必要な単位を修得しやすいが、その他の学科では、低学年次から計画的に単位を修得するのであれば、免許状の取得はきわめて困難と考えられる。

教育職員（小学校、中学校、高等学校又は幼稚園等の教諭、助教諭及び講師）の免許に関する基準は、「教育職員免許法」「同法施行規則」等に定められている。その大要は次のとおりである。

- A 昭和37年度入学生からは全面的に現行法の適用を受けることとなった。
- B 免許状に必要な一般教育科目の単位および教科に関する専門科目の単位は、卒業（学士号取得）のために必要な履修科目及び単位の範囲内で修得できる場合が多い。
- C 教職に関する専門科目は、ある程度特殊なものであるが、その単位は、自由選択科目の範囲内で修得

できる。

D すべて免許状に関することは、学部事務部に問い合わせられたい。

1 免許状の種類及びその所要資格

- 1 免許状を大別すると、普通免許状（教諭）及び臨時免許状（助教諭）とし、次の8種に分ける。
I 小学校 II 中学校 III 高等学校 IV 養護
V 盲学校 VI ろう学校 VII 養護学校 VIII 幼稚園
- 2 幼小中高の各免許状の所要資格は第1表に示す。
- 3 中学校及び高等学校の免許状は第3表の(2)「教科」に分けて示す。

附

家政学部児童学科学生は昭和38年度入学生から在学期間中に所定の単位を取得することによって卒業と同時に保育資格が得られる。

第1表

区分	基礎資格	最低必要単位数			
		一般教育	専門科目 教科に関するもの	教職	
小学校	1級	学士の称号	36	16	32
	2級	2年以上在学し、62単位（内2単位は体育とする）以上	18	8	22
中学校	1級	学士の称号	36	甲 乙 40 32	14
	2級	2年以上在学し、62単位（内2単位は体育とする）以上	18	甲 乙 20 16	10
高等学校	1級	(イ)修士の学位 (ロ)専攻科又は文部大臣の指定する課程に1年以上在学し30単位以上	36	甲 乙 62 52	14
	2級	学士の称号	36	甲 乙 40 32	14
幼稚園	1級	学士の称号	36	16	28
	2級	2年以上在学し、62単位（内2単位は体育とする）以上	18	8	18

備考 教科の「甲」とは社会・理科及び家庭等「乙」とは国語・数学・音楽・保健体育・保健及び外国語等の免許状を取得する場合をいう

2 最低必要単位の内容

第1表に示す最低必要単位数の内容。

第2表 A 一般教育科目

区 分	小学校, 中学校又は幼稚園の1級および高等学校教諭免許状	最低修得単位数	小学校, 中学校, 幼稚園の2級教諭免許状		最低修得単位数
			1 級	2 級	
人文科学	小・中は、倫理学・哲学・宗教の中何れか1科目の2単位を含む	12	(同 左)		6
自然科学		12			6
社会科学	(日本国憲法2単位を含む)	12	(同 左)		6
計		36			18

ただしこの表の倫理学・哲学・宗教及び日本国憲法を教科に関する専門科目で履修した場合は、2単位を限り、倫理学・哲学・宗教は人文系列の他の科目で、日本国憲法は社会系列の他の科目で代替することができる。

第3表の(1) B 教科に関する専門科目 (小学校及び幼稚園)

区 分	最低修得単位数			
	小 学 校		幼 稚 園	
	1 級	2 級	1 級	2 級
小学校の教科に関する専門科目	小学校の8教科中から			
※(音楽)	※印3教科中2教科以上を含めてそれぞれ2単位以上を履修	※印3教科中1教科以上を含めて2単位以上を履修	※印3教科についてそれぞれ4単位以上を含めて履修	※印3教科についてそれぞれ2単位以上を含めて履修
※(図画・工作)				
※(体育)				
(以下※印3教科という)				
(国 語)				
(社 会)				
(算 数)				
(理 科)				
(家 庭)				
計	6教科以上についてそれぞれ2単位以上	4教科以上についてそれぞれ2単位以上	16単位以上	8単位以上

第3表の(2) (中学校及び高等学校)

区 分	教科に関する専門科目	最低必要単位数
国 語	国 語 学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む) 国 文 学 (国文学史を含む) (中)「漢文学、書道(書写を中心とする)」 (高)漢文学	6又は4 8又は6 4 6又は4 計 16
	日本史及び外国史 地 理 学 (地誌を含む) 「法律学、政治学」 「社会学、経済学」 (中)「哲学、倫理学、宗教学」 (高)「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	6 6 2 2 4 4 計 20
社 会	(中) {代 数 学 幾 何 学 統 計 学 測 量 学}	4 4 4 2 2 計 16
	(高) {代 数 学 幾 何 学 統 計 学 測 量 学}	6又は4 6又は4 6又は4 2 計 16
理 科	(中) {物 理 学 (実験を含む) 化 学 (") 生 物 学 (") 地 学 (")}	5 5 5 5 計 20

理 科	(高) {物 理 学 化 学 生 物 学 地 学 「物理学実験、化学実験、物理学実験、地学実験」}	4 4 4 4 計 20
	ソルフェージュ 声 楽 (合唱を含む) 器 楽 (合奏を含む) 指揮法 音楽理論及び音楽史	2 6又は4 6又は4 2 2 計 16
保 健 育	(中) {体 育 実 技 「体育原理、体育管理」 生理学(運動生理学及び解剖学を含む) 「学校保健、衛生学」}	4 4 4 4 計 16
	(高) {体 育 実 技 「体育原理、体育管理」 生理学(運動生理学、病理学及び解剖学を含む) 「学校保健、衛生学」}	4 4 4 4 計 16
保 健	(中) {「生理学、細菌学、栄養学」 衛生学(公衆衛生学、救急処置及び看護法を含む) 学校保健}	6 6 4 計 16
	(高) {「生理学、病理学、細菌学、栄養学」 衛生学(公衆衛生学、救急処置及び看護法を含む) 学校保健}	6 6 4 計 16

家庭	(高)	「食品学, 栄養学」 「被服学, 衣料学」 「家庭管理, 住居学, 家族関係」 「育児, 家庭看護学」 「調理実習, 衣料実習」	6又は4 6又は4 6又は4 2 4 計 20
	(中)	「食品学, 栄養学」及び調理実習 「被服学, 衣料学」及び衣服実習 「家庭管理, 住居学, 家族関係」 「育児, 家庭看護学」 家庭機械及び家庭工作(設計及び製図を含む)	6又は4 6又は4 4 2 4又は2 計 20
英語		英語学 英文学 英会話及び英作文	6 6 4 計 16
	中国語	中国語学 中国文学 中国語会話及び作文	6 6 4 計 16

- 備考 1 本表に掲げる科目は、一般的包括的な内容を含むものでなければならない。これに関する規程は別に定める。
- 2 第1表に示す教科に関する専門科目の単位は本表に規定するもののほかは大学の加える専門科目について修得し、第1表に示された単位数以上にならなければならない。

- 3 本表の「 」内の2以上の科目は専門科目群と称し、その「 」内の専門科目1以上にわたって修得するものとする。
- 4 最低必要単位の「6又は4」とは「6又は4以上」の意で5でもよい。
- 5 専門科目中(中)は中学校、(高)は高等学校の免許状に必要な専門科目を示す。
- 6 第3表の(1)教科に関する専門科目(小学校及び幼稚園)の履修について
- A 音楽、図画・工作及び体育に関する専門科目の履修は教育学科音楽教育学専攻又は体育学専攻その他別に指定する科目の中から選択すること。
- B 国語、社会及び家庭に関する専門科目の履修は文教育学部又は家政学部の専攻科目及び共通科目の中から選択する。
- C 算数に関する専門科目の履修は基礎数Ⅰ、Ⅱ及び数学科の専攻選択科目としての統計学ならびに専攻必修科目中の低学年次の科目の中から選択する。
- D 理科に関する専門科目の履修は、基礎物理学、基礎化学、基礎動物学、基礎植物学及び

理学部共通科目ならびに地理学科、物理学科、化学科、生物学科、食物学科、被服学科の理科系の専攻科目の中から指定する科目を履修すること。

第4表 C 教職に関する専門科目

区 分	小学校教諭		中学校教諭		高等学校教諭		幼稚園教諭	
	1級	2級	1級普通	2級普通	1級普通	2級普通	1級	2級
教育原理	4	2	3(2)	2(2)	3(2)	2(2)	4	2
「教育心理学」 「青年心理学」			3(2)	2(2)	3(2)	2(2)		
「教育心理学」 「児童心理学」	4	2					4	2
教科教育法			3(2)	2(1)	3(2)	3(2)		
教育実習	4	4	2(1)	2	2(1)	2(1)	4	4
道德教育の研究	2	1	2	1				
教材研究	16	12						
保育内容の研究							12	8

- 備考 1 第1表に規定する教職に関する専門科目の単位は、本表に規定するもののほか、教育哲学、教育史、教育社会学、教育行政学、社会教育そ

- の他大学の加える教職に関する専門科目を修得し、単位数をみたまものとする。
- 2 次に掲げる教科は当分の間「教職に関する専門科目」の単位数の半数まで、その「教科に関する専門科目」の単位数をもって代えることができる。
- 音楽 「中学校」および「高等学校」のみ
理科、数学 「高等学校」のみ
- 本表の()内の数字はその適用を受ける場合の最低必要単位数である。
- なお「数学」及び「理科」については、この規定は新旧法にかかわらず在学学生及び卒業生にも適用できる。
- 3 小学校又は幼稚園の場合の教育原理、教育心理学、児童心理学及び教育実習は、小学校及び幼稚園の教育を中心とし、中学校又は高等学校の場合の教育心理学、青年心理学、教育心理学、教科教育法及び教育実習は、中学校及び高等学校の教育を中心とするものとする。道德教育の研究についてもそれぞれの学校の教育を中心とするものでなければならない。
- 4 小学校又は幼稚園の場合の教育原理、教育心

理学又は教育実習の単位は、それぞれ2単位まで中学校又は高等学校の場合の相当科目の単位をもってあてることができる。

5 中学校又は高等学校の場合の教育原理、教育心理学の単位はそれぞれ2単位まで、教育実習は1単位まで、小学校又は幼稚園の場合の相当科目の単位をもってあてることができる。

6 教材研究の単位は、小学校教諭1級免許状については8教科についてそれぞれ2単位以上、2級免許状については6以上の教科（音楽、図画工作及び体育のうち2以上を含む）についてそれぞれ2単位以上修得する。

7 教科教育法は、受けようとする免許教科ごとに修得しなければならない。

8 保育内容の研究の単位の半数までは教材研究の単位をもってあてることができる。

お茶の水女子大学における免許教科取得表

区 分	文 教 育 学 部							理 学 部			家 政 学 部			養 成 課 程		
	哲 学	史 学	地 理	国 文	中 文	英 文	教 育	体 育	音 楽	数 学	物 理	化 学	生 物		児 童	食 物
高 校・中 学 の 1 級・2 級	国 語			●	●											
	社 会	●	●	●	●	●	●									
	英 語						●									
	中 国 語					●										
	保 健 体 育							●								
	音 楽							●	●							
	保 健							●	●				●	●	●	
	数 学									●	●	●	●			
理 科			●						●	●	●	●		●	●	
家 庭													●	●	●	
小 学 校							●						●			
幼 稚 園							●	●	●				●		●	

所在地 長野県下高井郡山ノ内町字東館7149
 電話 志賀高原 (026944) 2507
 収容人員 約40名
 利用者 本学々生, 生徒および教職員, 卒業生
 申込先 会計課管財係
 交通 上野—長野 (国鉄, 信越本線)

急行で約4時間

長野—湯田中 (長野電鉄) 急行で40分
 湯田中—蓮池 (バス) 約55分
 蓮池—発哺温泉 (ケーブル) 7分
 湯田中—発哺温泉 (バス) 1時間10分

なお, 上野から湯田中までの直通急行があります。
 (約4時間30分)

その他 1 施設は体育実習および附属学校の林間学校として使用されていますが, 支障のない限り, いつでも利用できます。

2 使用許可証がないと宿泊はできません。

志賀高原は, 標高1.500~2.000mで眼下に信州五岳 (飯綱, 妙高, 戸隠, 黒姫, まだら) が開け, 遠く北アルプスを望み, 春夏秋冬を通じて周囲の環境は素晴らしく, 心身の健康にどれほどプラスするか計り知れません。又温泉の設備があり, いつでも入浴すること

Ⅶ 志賀高原体育運動場施設

ができます。

なお, 冬期は大スキー場として有名で, 変化に富んだゲレンデが多数あり, 初心者から上級者まで楽しめます。

詳細については, 会計課管財係にお問合せください。

附 1

校 歌

みがかずば 玉も鏡も
 なにかせん
 学びの道も
 かくこそありけれ

緑 萌 え 立 つ

(昭和32年度制定)

1. 緑萌え立つ 並木道
 日はかがやいて すがしい朝
 風に呼びかけ 友だちと
 声を合せて 歌おうよ
 若いみんなの あこがれは
 力いつばい はばたけと

2. かげろうもえる グランドに
 雲の影さす 晴れた日は
 草に休んで 友だちと
 心ひらいて 語ろうよ
 若いみんなの 感激は
 高く大きく 湧きたてと

3. 葉うら静まる 中庭に
 茶の花におう 夕月夜
 篝火かがりに集う 友だちと
 手をとり合って 踊ろうよ
 若いみんなの 喜びは
 燃えて未来に とどろけと

小田島 史枝

校 歌

み が か ず ば た ま も か が み も -
 な に か せ ん ま な び の み ち も
 か く こ そ あ り - け - - れ

緑 萌 え 立 つ

小田島史枝 作詞
千葉迪子 作曲

mf

1. み だ り も え た つ な み き み ち
 2. か げ り ろ う し も ず ま る な グ な み ラ ン に み 下 ち に
 3. は げ う ら し も ず ま る な な か に わ に

ひ は か が や い て す が し いた あ ひ き さ は よ
 く も の の は な げ に お す ゆ が 一 れ う たつ ひ き さ は よ
 ち ゼ に や び か け と と も だ ち と と
 か さ に や び か け と と も だ ち と と
 か が に や び か け と と も だ ち と と

mp

mf

こ え を あ わ せ て う た お う よ わ か い
 こ こ を ろ と ひ ら あ て て か た ろ う よ わ か い
 て を と り あ つ て お ど ろ う よ わ か い

mf

み ん な の の あ こ が れ 一 は ち か ら
 み ん な の の あ こ が れ 一 は ち か ら
 み ん な の の あ こ が れ 一 は ち か ら

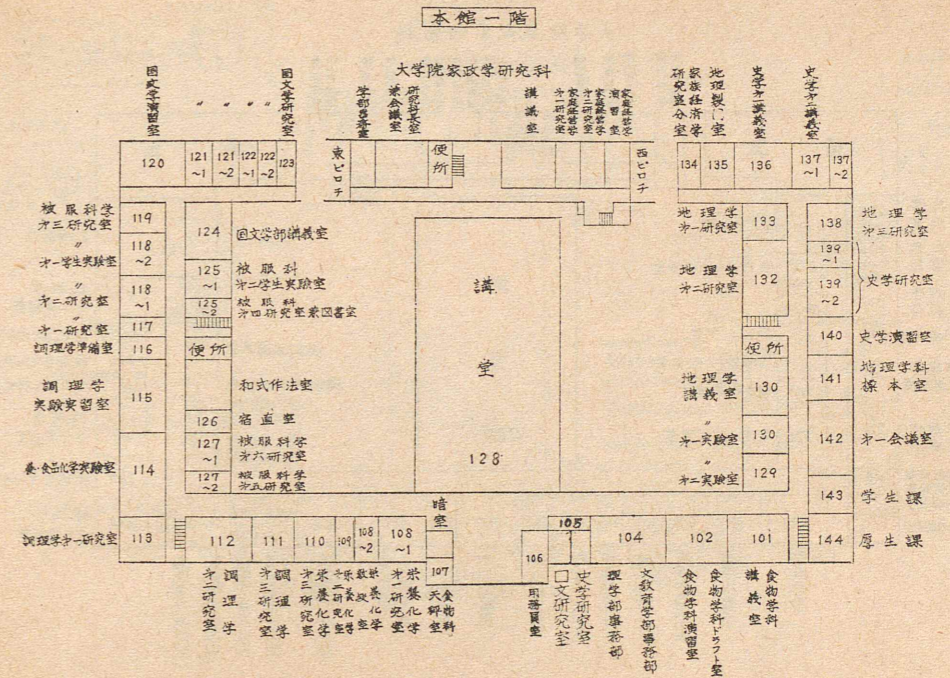
い 一 ば い は ば た け と 一
 お 一 ら ば い は ば た け と 一
 み ら ば い は ば た け と 一

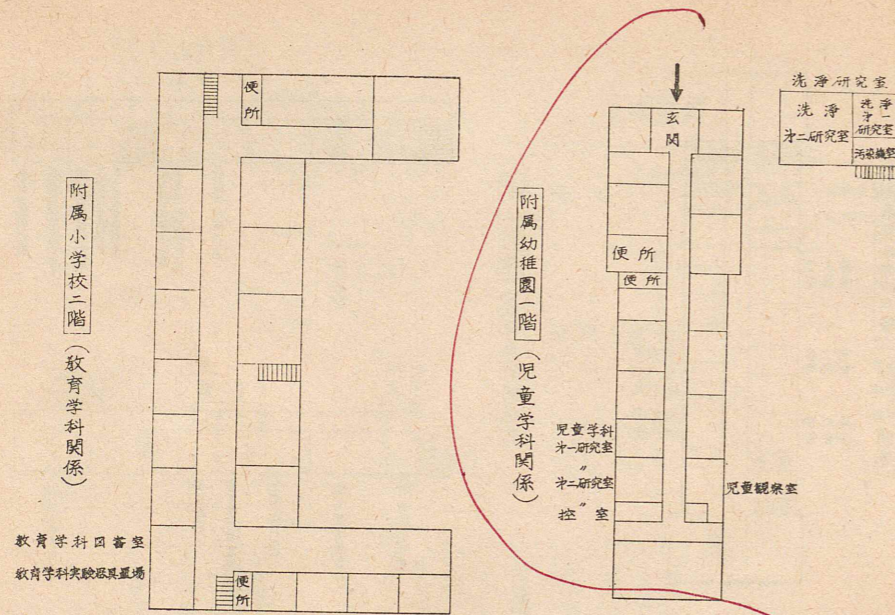
附 2

大学主要建物・施設

区 分	名 称	構 造	所 在 地
大 学	本 館	鉄筋コンクリート造3階建	文京区大塚2丁目1番1号
	理学部本館	" 6階建	"
	家政学研究科	" 3階建	"
	講 堂	" 2階建	"
	図 書 館	" 2階建	"
	書 庫	" 3階建	"
	食物化学研究所	" 3階建	"
	学生会館	" 2階建	"
	第1別館	木 造 2 階 建	"
	第3別館	" " " "	"
	合併教室	木 造 平 家 建	"
体育館	" " " "	"	
ヘルスセンター	" " " "	"	
第一寄宿舎	大 山 寮	鉄筋コンクリート造4階建	板橋区仲町2
第三寄宿舎	学 内 寮	木 造 2 階 建	文京区大塚2丁目1番1号
附属高等学校		鉄筋コンクリート造3階建	"
" 中学校		" 3階建	"
" 小学校		" 2階建	"
" 幼稚園		" 1階建	"
東村山郊外園		木 造 2 階 建	東村山市萩山町2丁目2697の3
志賀高原体育運動場	寮	木 造 2 階 建	長野県下高井郡山ノ内町字東館7149

教室研究室等案内図





附属研究室図案

附 4

索引
ア行

アルバイト.....91
委託生.....5
運動部活動.....78

カ行

学則.....1
課外活動.....77
外国人特別学生.....5
学科目.....12
学外団体の本部事務局の設置.....55
学期.....3
学資貸付金.....90
学生会委員会.....59
学生会館.....80
学生証.....102
学生準則.....55
学生定員.....8
学生部.....76
学部修業年限.....2

学寮委員会.....61
学寮.....95
学寮協議会.....96
学割.....103
寄宿料.....5
微音祭.....78
休学.....4
休学期間.....4
休学者の授業料.....92
休学に関する手続.....105
休養室.....84
教育職員免許状.....68
教務関係の相談.....70
協議.....55, 77
下宿.....97
掲示.....79
研究生.....5
健康管理.....84
検定料.....4
顧問教官.....77
公立大学研修員.....5
厚生補導機構.....75

サ行

校歌.....118
学生歌.....118
在学期間.....2
在学証明書.....104
再入学.....4
私学研修員.....5
試験.....12, 69
自治会.....77
事務機構.....65
受託研究員.....5
授業時間割の発表.....67
授業料.....5
授業料の免除その他.....92
集会.....79
諸施設の利用.....79
署名運動.....55, 79
奨学金.....87
奨学生の資格.....88
奨学金出願の手続.....89
諸手続一覧.....107

食堂.....98
 身上異動.....106
 診療.....84
 志賀高原体育運動場.....116
 成績証明書.....70
 成績評価.....13
 全学連加盟許可.....56
 専攻科.....49
 相談委員.....86
 相談室.....86
 測定.....86
 卒業.....2
 卒業(見込)証明書.....70

夕行

退学.....3
 退学に関する手続.....105
 退学者の授業料.....5
 大学院.....37
 立看板.....79
 単位.....12
 単位修得(見込)証明書.....70

単位の算定基準.....12
 団体の設立.....78
 聴講.....13
 聴講生.....5
 通学証明書.....103
 追試験.....68
 定期休業日.....3
 定例学生大会.....77
 転科(転学部).....69
 転学.....4
 転学者の授業料.....92
 図書館.....72

ナ行

日本育英会.....87
 入学資格.....3
 入(退)寮.....96

ハ行

販売.....55
 ビラ.....79
 復学.....4

文化部活動.....78
 ヘルスセンター.....81
 ヘルスセンター分科会.....63
 ヘルスセンター運営委員会.....62
 編入学.....4
 募金.....55
 補導委員.....76

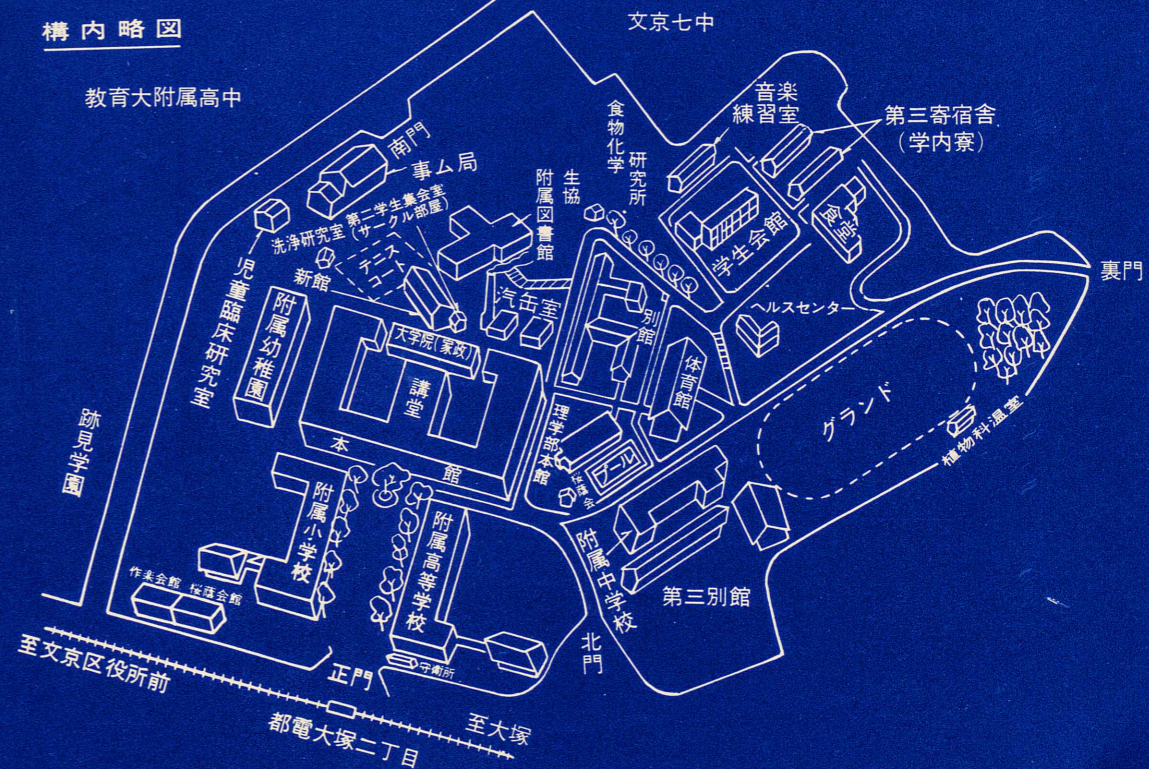
ヤ行

世論調査.....55
 幼稚園教員臨時養成課程.....51

ラ行

履修の手続.....67
 履修科目の取消.....68
 履修カード.....67
 履修簿.....68
 臨時学生大会.....55
 レントゲン.....84

構内略図





れんらく 外部から学生への個人的な連絡の取次ぎは不可能ですが、病人その他緊急を要する場合は伝言・掲示等で連絡しますから、連絡板に注意して下さい。

郵便物 大学気付の個人あて郵便物はなるべく避けるように、又やむおえず出す時は、あなたの所属学科名・学年を明記するよう差出人に連絡して下さい。
自治会や文化部、運動部宛の郵便物は学生会館の各部の郵便受に入られます。

学内を美しく 最近は学内もいくぶんきれいになってきました。みなさんの一層の協力をお願いします。日常の身のまわり、行事の後始末など特に注意して、みんなで美しく心持よい学内にしましょう。

- お茶の水女子大学
- 東京都文京区大塚2丁目1番1号
- 電話 (943) 3 1 5 1 代表
- 学内寮 (941) 4 9 3 2・2 4 8 3
- 大山寮 (958) 0 1 3 1~0 1 3 4